

Title	『エジプト人マカリオス伝』ギリシア語版 校訂・翻訳と 註釈
Author(s)	戸田,聡
Citation	人文・自然研究,1: 265-413
Issue Date	2007-03-31
Туре	Departmental Bulletin Paper
Text Version	publisher
URL	http://hdl.handle.net/10086/15426
Right	

『エジプト人マカリオス伝』ギリシア語版 校訂・翻訳と註釈

戸田 聡

はじめに

本稿の主内容は、『エジプト人マカリオス伝』ギリシア語版(BHG 999) の初校訂版(editio princeps)及びその翻訳である⁽¹⁾.

エジプト人マカリオスは紀元後4世紀にエジプトに生き(ふつう生年は300-390年ごろとされる),スケーティス(今日のワーディー・ナトルーン)において修道生活を始めた,言わば同地の開山者たる修道者であり、その遺徳の大きさゆえに「大(聖)マカリオス」と称されることもある.

このマカリオスには古来、伝承史の上でいくつかの文書群がかかわっている。第1は、伝承上マカリオスが著者とされる一群の霊性的著作だが、 実在のエジプト人マカリオスはこれらの著者ではないと考えられている⁽²⁾。 第2はマカリオスに帰せられる書簡群で、これには7つの書簡のグルー

⁽¹⁾ 本稿の元となったのは、筆者が1999年9月にベルギー・ルーヴァン・カトリック大学(フランス語圏)哲学・文学部東洋学研究所の学士課程修了論文として提出し受理されたTODA Satoshi, Vie de Macaire l'Egyptien. Edition du texte grec et étude である.

⁽²⁾ この一群の文書に関してはとりわけ H. Dörries が浩瀚な研究を発表している。例えば H. Dörries, Symeon von Mesopotamien. Die Überlieferung der messalianischen "Makarios"-Schriften (Texte und Untersuchung zur Geschichte der altchristlichen Literatur, 55. 1), Leipzig: J.C. Hinrichs Verlag, 1941 を参照.

プ⁽³⁾と、ギリシア語・アラビア語・グルジア語及びエチオピア語で伝わる 2つの書簡のグループとがある⁽⁴⁾. これらもまた、マカリオスの真筆とは 考えられていない、第3は、ギリシア語を原語として編纂されたと考えら れる『師父たちの金言』(Apophthegmata patrum)と呼ばれる文書など が伝える、マカリオスにかかわる「金言」(アポフテグマタ)である.

本稿で紹介する『マカリオス伝』はこの第3のグループと内容的に関連を有するが、むしろコプト語(ボハイル方言)で伝承されているマカリオス関連の文書群として、第4のグループとまとめた方がよいだろう。この第4のグループには、『エジプト人マカリオス伝』の他に、エジプト人マカリオスに帰せられる「金言」(第3のグループの「金言」と一部重なるが、ギリシア語『師父たちの金言』に見られない金言を含んでいる)、『マカリオスの威徳』、『(マカリオスにかかわる)コプト語典礼用抜粋集』がある(5)。なお、この第4のグループはさらに、同じくコプト語(ボハイル方言)で伝承されている『ラウソスに献じる修道者列伝』コプト語版ともかかわりを有すると見られるが、『ラウソス……』はその伝承史が複雑をきわめることで知られており、ここではこれ以上立ち入ることができない、東方キリスト教圏の諸語で伝承された『マカリオス伝』の著作原語については、ギリシア語とコプト語(サイド方言)のいずれであるかを決することはまだできない。この著作原語問題は『マカリオス伝』に関えず

ことは未だできない.この著作原語問題は、『マカリオス伝』に限らず、 コプト語(サイド方言)文学全般について言える問題であることを付記し ておきたい.

その後の伝承経路はほぼ明らかで、コプト語サイド方言版からボハイル 方言版がつくられ、そこからシリア語版への翻訳・編纂が行なわれ、次い

⁽³⁾ 例えば P. Géhin, "Le dossier macarien de l'Atheniensis gr. 2492", Recherches augustiniennes 31 (1999), pp. 89-147 を参照.

⁽⁴⁾ 例えば U. Zanetti, "Deux lettres de Macaire conservées en arabe et en géorgien", *Le Muséon* 99 (1986), pp. 319-333 を参照.

⁽⁵⁾ ここで挙げた諸著作については、拙稿「諸考察」内の論及を参照.

でシリア語版からアラビア語訳が作られた。アラビア語版からは一方でエチオピア語訳が作られており、他方で、アラビア語版の一部がいわゆる皇帝派(中近東に存在したキリスト教徒で、ビザンツ教会のシンパだったグループ)によって伝承され(アラビア語版の他の系統よりも短いテクストを伝承している)、これを基にギリシア語版が作られた。ギリシア語版は単なる翻訳というよりむしろ翻案・改作と言うべきものである⁽⁶⁾.

『マカリオス伝』のギリシア語

本著作で使われているギリシア語は、ビザンツ文学史で言うところの Hochsprache、すなわち擬古的・人工的な文学語だと言ってよく、基本的 に古代ギリシア語の知識で読めるたぐいの言葉である。したがって、以下 の説明は古代ギリシア語の語法・語彙から外れると思われる点に関する注 記にとどめることとする。

1. 構文にかかわる点

・ἐπεί の用法

理由或いは時を表す従属節を導く場合,節の中身が本来の節でなく分詞構文或いは独立属格の構文になっていることがある (IV 1, VIII 9, XVII 1, XIX 4, XXXI 1). また,節の中身が不定詞句になることもある (LI 13).

・主節の動詞が現在形の時に従属節で希求法を使う例(網羅的例示でない)

ἵνα+希求法(XXXVI 1)

⁽⁶⁾ ここで挙げた諸語版相互の関係については拙稿「諸考察」3頁の系統図,及び拙稿「『エジプト人マカリオス伝』研究――経過報告――」,『エイコーン――東方キリスト教研究――』27 (2003) 68-81 頁をさしあたり参照.さらに、ギリシア語版から、グルジア語訳と中世スラブ語訳が作られたと考えられることを付け加えておきたい。

μή+希求法 (XXXVI 8) ὅπως+希求法 (XXXVI 1) πῶς+希求法 (XXXVI 1)

2. 語彙にかかわる点

・LSJ にも Lampe にも出てこない単語としては以下のものが挙げられる. ἀναπαῆναι (XXX 3), διαληΐζομαι (II 3), καταποτίθημι (XXXVII 1), πρωταριστεύς (XIII 5), συνέσθιος (XII 3).

いずれも合成語であり、語義が容易に推測できるものばかりである.

· ἐπιεικός (ΧLΙΧ 2)

「ふさわしい、適当である」という意味を有すると思われるこの形 (写本では ἐπιεικώς) は、厳密には誤用だろうが、ἐπέοικα という動詞 の分詞中性形 (正確には ἐπεικός となるはず) と、意味の似た形容詞 ἐπιεικής、-ές と、さらに前置詞のつかない形 εἰκός が存在するところから、伝記の著者は本文に見られるような ἐπιεικός という形を使ったものと考えられる。ここでは ἐπέοικα の分詞中性形とみなすこととした.

· ἐπιστασία

LSJ ではこの単語には「配慮」(attention, care),「権威」(authority, dominion)という語釈が与えられている. Lampe が与えている語釈もcontrol, authority で、基本的に同じである.

しかしこの『マカリオス伝』の用例のうち、VIII 3, XVI 9, XXXIV 1, XLIX 6 の 4 箇所においては、文脈から見て「顕現」と訳すのが妥当 だと思われる

ただ、「配慮」という意味で訳した方が良い場合もないわけではない. 具体的には XXIII 6、XLIX 20、LI 2 の 3 箇所では「配慮」と訳す方が 適当なようである。

本文・翻訳について

本稿で校訂版を公刊するギリシア語版はアテネ及びメテオラに所蔵される2つの写本において保存されており、検討の結果、メテオラの写本はアテネの写本を直接の手本として書かれたことが明らかである⁽⁷⁾. したがって、以下の校訂版では基本的にアテネの写本(Aと呼ぶ;パリの Institut de Recherche et d'Histoire des Textes 所蔵のマイクロフィルムからのコピーで参照)のみを基にするが、但しAには判読不能な箇所がいくつかあるため、そのようなところではメテオラの写本(Bと呼ぶ)を参照した。その他略号については末尾の略号表を参照。

訳文に関する注記は以下のとおり.

- ・訳文中 [] の言葉は訳者による補いを意味する.
- ・旧約聖書の引用或いは暗示はギリシア語訳旧約聖書(いわゆる七十人 訳)により同定することとし、Rahlfsによって確認した。
- ・訳文中, 聖書の各文書には新共同訳聖書が用いる略号で言及することと した.

⁽⁷⁾ この点に関しては拙稿 "Etat", pp. 275-276 を参照.

Vita Macarii Aegyptii graeca

題 [A f.184"; B f.190"a]

Βίος τοῦ ὁσίου πατρὸς ἡμῶν Μακαρίου τοῦ Αἰγυπτίου, συγγραφεὶς παρὰ τοῦ ὁσίου Σαραπίωνος μαθητοῦ τοῦ μεγάλου 'Αντωνίου τοῦ καθηγητοῦ τῆς ἐρήμου. Εὐλόγησον, πάτερ.

プロローグ

1 Εἰ πολλὰ περὶ τῆς τῶν σωμάτων ἐπιμελείας ὁ πολὺς καὶ ποικίλος τῆς ἱατρικῆς ἐπιστήμης ἰατρῶν παισὶ διαγορεύει νόμος, οὐκ ἀτεχνῶς διακειμένοις, ἐκείνων δὴ⁽⁸⁾ καὶ πράξει καὶ διδασκαλία ἔπεσθαι τῶν τε ἀρχαιοτέρων καὶ δοκιμωτέρων, πόσω γε δὴ μᾶλλον ἡμῖν, τοῖς τῶν ψυχῆς παθημάτων ἐπιμελουμένοις καὶ ταύτης ἢ ἐκείνης τῆς καθάρσεως ἐπιδεομένοις, ἀναγκαῖον⁽⁹⁾ εἶναι ἐκείνων τῶν θείων ἀνδρῶν ἀκολουθεῖν ἴχνεσί τε καὶ ἤθεσι, τῶν πάλαι ἤδη τῆς ὑψηλοτάτης τε καὶ ἐνθέου φιλοσοφίας προηργμένων καὶ διὰ τῆς ἀγγελικῆς πολιτείας τῶν παθῶν κατὰ κράτος περιγενομένων;

2 οὐκοῦν πολλῷ μᾶλλον τοῦτο ἐκείνου ἐν ὅσῳ [B f.190^{νδ}] τὸ τῆς ψυχῆς διάφορον ἄν ἔχοιτο· ἐκείνου γὰρ πάντως ἐκ διαμέτρου τῶν ἐξ ἐναντίων οὐκ ἀμφισβήτητον ἀπεικάσαι διαφέρον τοῦτο ὅσον φθορᾶς καὶ ἀφθαρσίας τὸ μέσον λέγεσθαι. 3 ἡ μέντοι περὶ τοῦ σώματος ἐπιμέλεια ἔργον ἐκεῖνο ἔχει τὸ περισπούδαστον, τὸ τὴν ὑγεῖαν παραστῆσαι τῷ σώματι, καὶ τούτου μόλις ἄν τις ἄκρος ὢν τὴν τέχνην ἐπιτύχοι· κάλλος δὲ ἢ ἀθανασίαν τῶν πάντων οὐδεὶς ἄν προσθεῖναι ἰσχύσειε. 4 τὸ δὲ ψυχῆς ἐπιμελεῖσθαι οὐχ ἑνὸς τούτων μόνον ἀλλ' ἀμφοῖν τὴν ἀφθονίαν εἴωθεν χαρίζεσθαι, καὶ καλλονὴν καὶ ἀθανασίαν.

5 ὄθεν τοιγαροῦν ἐκείνοις ὀψόμεθα οἱ τῆ ἀθανασία ἐνθέφ καλλονῆ

⁽⁸⁾ δη scripsi; A δεῖ

⁽⁹⁾ ἀναγκαῖον] Α ἀνακαῖον

ギリシア語版『エジプト人マカリオス伝』

題

我らの聖なる父エジプト人マカリオスの伝記. 砂漠の教師である偉大なるアントニオスの弟子. 聖サラピオンが著す. 師父よ. 祝福したまえ.

プロローグ

1 もし、身体に対する配慮について、医術の力強くかつ種々雑多な掟が、技術を欠いているわけでない医者の子らに、経験あるいにしえの人々の実践と教えとに従うべきことを命じているのであれば、魂の病に対して配慮し、この或いはあのきよめを必要としている我々にはなおさら、至高なる神的な哲学をその昔修め、天使的生活によって情動を力強く打ち負かしたかの神的な人々の足跡に従うことが、一層必要でないことがあろうか。

2 そこで、相違が魂にかかわる限りで、後者 [魂への配慮] は前者 [身体に関する配慮] より遥かに大いなるものである。というのは、後者を、それが朽ちるものと朽ちないものの間であると言われる限りで、前者と全く反対に異なるものとして比べることには、異論の余地がないからである3 ともあれ、身体に関する配慮は、身体に健康をもたらすという、かの非常に求められることを事とし、そしてこれは、技術の点で頂点にある者なら、どうにかもたらしえよう。が、美とか不死とかは、誰一人としてこれを付加しえないだろう。4 これに対して、魂への配慮は、このうちの一つだけでなく両者を、すなわち美も不死も、ふんだんに与えるのがつねである

5 であるから、不死と神的な美とを我が物としたい我々は、かの人々に

οἰκειωθῆναι βουλόμενοι καὶ ταῖς τούτων ἐνθέοις διδασκαλίαις [A f.185^r] τὰς ἡμετέρας φαιδρύνομεν ψυχάς, διανιστάμενοί τε διὰ τῆς διηγήσεως καὶ ἑαυτοὺς παροτρύνοντες πρὸς τὴν μίμησιν τῶν ἀρίστων, οἶσπερ ὁ βίος ὅλος ἀγγελικὴ ἄμιλλα διήνυστο καθάρσεώς τε καὶ ἀπαθείας ἐπειλημμένος· ὧν εἶς ἦν καὶ ὁ τῆς [B f.191^{ra}] μακαριότητος φερώνυμος Μακάριος, ὃν ὑπόθεσιν τῷ λόγῳ προθέμενοι προϊόντες κατὰ μέρος δηλώσομεν.

I マカリオスの両親

1 Τούτφ πατρὶς μὲν Αἴγυπτος ἦν, περὶ ῆν ὁ χρυσορρόας Νεῖλος διέρχεται ποταμός· 2 ἤτις δι' αὐτοῦ οὐ μᾶλλον θαυμαζομένη⁽¹⁰⁾ ὅσον διὰ τοῦ Μακαρίου φαιδρυνομένη τε καὶ ἐπαινουμένη ἐδείκνυτο, τὸν τοιοῦτον ἐνεγκαμένη ὀφθεῖσα, ἐκείνου μὲν γὰρ οὐκ ὄντος ἀεί, ἀλλ' ἐνίοτε καὶ ἐν μέρει διωρισμένφ τῆς οἰκουμένης τὴν τῶν ὑδάτων παρεχομένου ἀφθονίαν· τοῦ δὲ ἄπασαν καὶ ὕδατι ζωηρῷ τοὺς ταύτην τε οἰκοῦντας ἄρδοντος, καὶ τῶν περάτων ἐφικνουμένου.

3 γεννητόρων δὲ ἐξ εὐγενῶν καὶ θεοσεβεία τεθραμμένων, ὧν ὁ μὲν ᾿Αβραὰμ ἐκαλεῖτο· τὴν φιλοξενίαν καὶ τὰς λοιπὰς ἀρετὰς ἐκεῖνον τὸν πατριάρχην μιμούμενος, οὐ μὴν δὲ ἀλλὰ καὶ ἱερεὺς τῶν θείων μυστηρίων χρηματίσας κατὰ τὸν ᾿Ααρών τε καὶ Ζαχαρίαν, ὑπὲρ τοῦ λαοῦ τὰς ἀναιμάκτους προσανέφερε θυσίας τῷ Θεῷ. 4 ἡ δὲ καὶ αὐτὴ τῆ Σάρρα [B f.191^{rb}] ἐοικνῖα, ἡ καὶ ὁμώνυμος ἡν, τούτῳ περὶ τὰ χρηστὰ καὶ ἐφάμιλλος. 5 ἀμφότεροι δίκαιοι, ἄμεμπτοι, θεοσεβεῖς, ἐν πάσαις ταῖς ἀρεταῖς πορευόμενοι, νηστείαις τε καὶ ἀγρυπνίαις καὶ προσευχαῖς τὰς οἰκείας ψυχὰς φαιδρύνοντες.

6 υἰὸς δὲ τούτοις οὐκ ἦν ὃν ἐπόθουν κατ' ἐκείνους τοὺς πάλαι, τὰ τῆς παιδοποιίας μόνα τῆς φύσεως κατεχούσης δεσμά, τἄλλα δὲ ἀφθόνως τούτοις παρεχομένης τὰ χρηστὰ καὶ ἐπιτήδεια. 7 ἐπεὶ δὲ οὐχ ἡδονῆς ἔνεκα τούτοις ἡ

⁽¹⁰⁾ θαυμαζομένη] Α θαυζομένη

よって見るだろう,そしてこれらの人々の神的な教えによって自分の魂を輝かせるのである――物語によって鼓舞され,最上の人々を模倣すべく自らを叱咤勉励することで.彼ら最上の人々の,きよさと無情動とを手にした生涯全体は,天使的闘いだったのであり,その一人だったのが、幸いさと同名のマカリオスであり,我々は彼のことを本書の主題として設定し,少しずつ前進しながら示すことにする。

I マカリオスの両親

- 1 彼の祖国は、金の流れのナイル川が経めぐるエジプトだった。2 そのエジプトは、このような人を担ったものとして立ち現れているのだから、ナイルによって賛嘆を受けるより以上に、マカリオスによって輝きと賞賛とを受けているものとして示されたのだ――というのも、前者はつねに存在するわけではなく、しかも世界の中の区切られた部分にのみ水を豊かにもたらすが、後者は、全世界とそこに住む人々とを命の水で潤し、その果てにまで届いているのだから。
- 3 両親は良い生まれの出で、敬神によって養われた者たちであり、男親はアブラアム [すなわちアブラハム] と言った、異国人に対する饗応及びその他の徳において、かの族長 [アブラハム] を見倣い、特にアロンやザカリアのように神の秘跡の祭司であり、血の出ない犠牲を民のため神に献げていた。4 女親もサラに似ており、彼女と同名で、良いことに関して夫と競争していた。5 どちらも義人で、責められるところがなく、敬虔で、あらゆる徳のうちを歩み、断食・徹宵・祈りによって自分の魂の輝きに磨きをかけていた。
- 6 かの古人たち [族長アブラハムとサラ] に倣って願い求めていた息子が、この人々にはなかった。自然はこの人々に、他の良きものや有用なものはふんだんにもたらしていたが、子づくりの絆だけは妨げていたのであ

συζυγία, ἀλλὰ χάριν ἐκείνου οὖ αὐτοὶ ἔρημοι ἦσαν ἐπενοήθη, τὴν κοίτην μὲν κεχωρισμένοι γίνονται, τὴν γνώμην δὲ καὶ τὸν τῆς ἀγάπης δεσμὸν ἀδιαίρετοι. 8 πολὺς μὲν οὖν τούτοις διήνυστο χρόνος οὕτω διακειμένοις, ξένοις τε καὶ πτωχοῖς συνδιαιτωμένοις, καὶ τοὺς ἐν ἀσθενεία καὶ ἐν φυλακἢ εὐαγγελικῶς ἐπισκεπτωμένοις.

II 財産を失う

1 'Αλλ' ἐπειδὴ ὁ τοῖς ἀγαθοῖς ἀεὶ βασκαίνων καὶ τὰ χρηστὰ μὴ φέρων ὁρᾶν, τοῦ γένους ἡμῶν ἐχθρός, τῷ φθόνῳ δεινῶς ἐτρώθη τῆς τούτων ἕνεκα προκοπῆς (οὐκ [Β f.191^{va}] ἔστεγε [Α f.185^v] γὰρ ἐν ταῖς τοιαύταις τούτους θεᾶσθαι ἀρεταῖς) τοὺς οἰκείους καὶ πονηροὺς αὐτοῦ θεράποντας τούτων κατ' αὐτοὺς διεγείρει καὶ κατασείει τοὺς τὰ ἀλλότρια ἀρπάζοντας. 2 οἴ γε θρασυνόμενοι τὰ εἰς κτῆσιν τούτοις ἄπαντα ἰταμῶς διήρπασαν καὶ ἀπόρους τοὺς ἐν εὐπορία κομῶντας κατειργάσαντο. 3 τυραννικαὶ γὰρ χεῖρες κατ' ἐκείνου καιροῦ διαστάσεως γενομένης δεινῆς τὴν ἄπασαν τῆς Αἰγύπτου διεληῖζοντο ἐπαρχίαν, τῶν κρατούντων οὐκ ὄντος οὐδενὸς τοῦ κατὰ τῶν νεωτερισάντων ἐπιστρατεύσοντος κὰκείνων ἐπισχήσοντος τὰς ἀτάκτους ὀρμάς.

4 οἱ δὲ τῆ ἀφαιρέσει τῶν οἰκείων σφόδρα πιεζόμενοι, ἀθυμία τε καὶ ἀπορία περισχεθέντες μεταναστῆναι τῆς πατρίδος βουλεύονται καὶ εἰς ἑτέραν ἀφικέσθαι ἐπαρχίαν.

III アブラハムの幻

1 Έπεὶ δὲ ἐν τούτοις ἦσαν καὶ πολλοῖς διαλογισμοῖς διαμεριζόμενοι, διὰ τῆς νυκτὸς τῷ ἀνδρὶ ἡδὺς ἐφίσταται ὄνειρος, ἀθυμίας ἄμα ἀπαλλαγὴν καὶ [Β f.191^{νb}] εὐφροσύνης καραδοκίαν ἐπαγγελλόμενος γέροντα γὰρ τούτῳ ἐπιφάνεσθαι ἐδόκει τὸ εἶδος λίαν αἰδεσιμώτατον, τὸ κάλλος φαιδρότατον, ἡλιακῷ ἐνδύματι ἐστολισμένον. 2 δς πλησιάσας αὐτῷ, « Ἐγώ εἰμι» ἔφη, «ὁ τῶν πατριαρχῶν πρόεδρος ᾿Αβραάμ, καὶ πρὸς Θεοῦ σοι ἀπεστάλην διακελευό-

る. 7 この人々にとって交合は、快楽のためではなく、彼らが得られずにいた当のもののために企図されていたので、考えや愛の絆において別々でなかった彼らは、寝床を分離するようになった。8 こうして、このような状況でこの人々は長い時間を過ごし、異国人や貧者とともに暮らし、病や牢獄にある者たちを福音に従って見舞っていた。

II 財産を失う

1 しかし、善人たちにつねにねたみを抱き、良いことを見ることに耐えられない者、すなわち我らの種族の敵 [たる悪魔] は、この人々の進歩ゆえに、ねたみによってひどく傷つけられたので(彼はこの人々がこのような徳のうちにあるのを見るに耐えなかったのである)、自分に属する邪悪な召使らをこの人々に対して立ち上がらせ、他人のものを強奪する者らを駆り立てる。2 向こう見ずな連中は、彼らの所有になるすべてのものを無謀にも奪い去ってしまい、豊かさのうちに栄えていた者たちを無一文にした。3 というのも、当時恐るべく不穏な事態が生じていたが、支配者たちのうちの誰一人として、革命を起こした者らに軍隊を差し向けようとせず。また、連中の無秩序な襲撃を押さえ込もうとしないので、暴君の手がエジプトの属州全体で略奪の限りを尽くしていたからである。

4 さて彼らは、自分のものを奪われて窮境に陥り、落胆と無一文とに悩まされ、故郷を離れて他の属州に行こうと思い立つ。

III アブラハムの幻

1 このような事態の中にあり、あれこれ考えて彼らが思い乱れていた時、夜に夫に甘美な夢が訪れ、落胆の緩和と歓喜への期待とを約束する. すなわち彼には、実に敬服に値する姿の、かつこの上なく輝かしい美しさの、太陽の衣を身にまとった老人が現れたように見えたのである. 2 老人は彼に近づいて言った、「私は族長たちのおさアブラハムである. 神から命じられてお前のところに遣わされた. お前たちの思いはきわめてよいもので

μενος. ὡς τῆς βουλῆς ὑμῶν⁽¹¹⁾ ἀρίστης οὔσης καὶ κατὰ Θεόν, μὴ ὀλιγωρήσητε, ἀλλὰ τοῦ σκοποῦ ἔχεσθε. 3 τοιγαροῦν ἔξελθε ἐκ τῆς γῆς σου καὶ ἐκ τῆς συγγενείας σου καὶ ἐλθὲ εἰς Πηναπὰρ καλούμενον χώριον, οὕτω γὰρ εὐδόκησεν ὁ τῶν μελλόντων προγνώστης Θεός, οἰκονομῶν σοι τὰ φέριστα αὐτοῦ. 4 οὐκ ἀφίσταται» λέγει, «ἀπὸ σοῦ ἡ χεὶρ αὐτοῦ ἡ ὑψηλή, ἀλλὰ μεγαλυνεῖ σε καὶ εὐλογήσει σε καὶ τὸν ἐκ σοῦ τεχθησόμενον, ὃν τρόπον ἐμὲ εὐλόγησε, τῆς τῶν Χαλδαίων οἰκήτορα γεγονότα καὶ τῆς ἰδίας πατρίδος ἀφεστηκότα. 5 ἡνίκα γάρ συ ἐκεῖσε γένη, υἱὸν ὁ παντοδύναμος δοῦναι ὑπισχνεῖται Θεός.» ταῦτα εἰπὸν ὁ πατριάρχης τῷ ὁμωνύμφ ἱερεῖ ἀφανὴς ἐγένετο.

6 ὁ δὲ διυπνισθείς, τὴν ὄψιν ἐκπληττόμενός τε καὶ δειδιώς [B f.192^{ra}], τὴν σύζυγον μεταστειλάμενος τὰ τῆς ὀπτασίας πάντα διεξήει.

IV 離郷

1 Έπεὶ δὲ τῆ ὄψει θεόθεν οὖση πεισθέντες, καὶ ταῦτα ἐκείνης εἶναι τὰ [A f.186^r] ὁραθέντα καὶ λεχθέντα τῆς ἄνωθεν προνοίας διαβεβαιωσάμενοι, εὐθέως, ὡς εἶχον, προθύμοις ποσὶ τῆς ὁδοῦ εἴχοντο. 2 καὶ μετανάσται γενόμενοι ἐπὶ τὸ ώρισμένον αὐτοῖς χώριον, τῷ θείῳ κελεύσματι πειθαρχοῦντες, γένους καὶ πατρίδος ὑπερεῖδον, καὶ ξένοι καὶ πάροικοι κατ' ἐκείνους τοὺς μεγάλους γίνονται πατέρας.

3 οἱ δὲ τῆς κώμης ἐκείνης ἱερεῖς καὶ λαός, τὸ αἰδέσιμον ὁρῶντες τοῦ ἀνδρὸς τά τε κάλλιστα τῶν ἡθῶν καὶ τὴν πραότητα (ἰκανὰ γὰρ ταῦτα εἰς πειθὼ τεκμήρια ἐν ὀφθαλμοῖς εἶχον τῶν λοιπῶν ἀρετῶν) ἐν τοῖς θείοις μυστηρίοις αὐτοῖς συγκοινωνῆσαι καὶ συλλειτουργῆσαι ἡξίουν. 4 ὁ δὲ τὴν τῶν ἀνθρώπων τιμὴν ἀπωσάσθαι βουλόμενος παραιτεῖται, «Ἔμοιγε οὐκ ἐξόν,» φήσας, «τῶν θείων κανόνων διακελευομένων οὕτω· μηδεὶς τῶν ξένων τοῖς ἡμεδαποῖς

⁽¹¹⁾ ὑμῶν] scripsi; A ἡμῶν

神の意にかなっているのだから、意気消沈せず、目標をしっかり見据えなさい。3 そこでお前の地を出、お前の親族から分かれて [創 12・1]、ペナパルと呼ばれる所へ行きなさい。これが、将来を予め知り、お前にご自身の最上のものを取り計らってくださる神のおぼし召しなのだ。4 彼の高き御手はお前から離れず」と彼は言う、「お前を大きくし、お前とお前から生まれる者とを祝福されるだろう――カルデア人の間に住み、自分の故郷から離れたこの私を、かつて祝福してくださったのと同じ仕方で。5 というのも、お前がそこに行った時、全能の神は一人の息子を与えることを約束してくださるからだ」。族長は同名の司祭にこう言って、見えなくなった。

6 彼は目が覚め、幻に驚き恐れ、連れ合いを呼んで幻のすべてを語り聞かせた。

IV 離郷

1 幻が神からのものだと信じ、見聞きしたことが天からの摂理のよるものだと確信したので、彼らは、できる限りすぐに、軽やかな足取りで道に就いた、2 そして、自分たちに割り当てられた所へと向かうさすらい人となり、神の命令に従い、一族と故郷とを彼らは見捨てたのであり、彼らはかの偉大なる父祖たちに倣って、よそ者、寄留者となる。

3 その [行った先の] 村の司祭たちや民は、男の神々しさと、性格の麗しさと柔和さとを見て(彼らの眼前には、他の諸々の徳のこのような証拠が、納得するに十分なほどあったのである)、自分たちと共に神の秘跡に協働するよう頼んだ、4 彼は人々の敬意を退けるべく、謝絶して言った「神のカノンには次のようにあり、私には許されておりません。すなわち、いかなる外国人司祭であれ、推薦状または信頼に値する人々の証言がなければ、神の秘跡において現地の人々と協働することを任されてはならない。

συλλειτουργεῖν ἐν τοῖς θείοις μυστηρίοις ἐπιτετραμμένος [B f.192^{rb}] ἔστω ἱερεὺς δίχα συστατικοῦ ἢ πιστῶν ἀνδρῶν μαρτυρίας. 5 ἀμφοτέρων δὲ τούτων ἔρημος ἐγώ. σύγγνωτέ μοι ὑμᾶς ἀντιβολῶ, συγγνώμην εὖ εἰδότες τῶν τοιούτων χάριν παρασχεῖν.» 6 οἱ δὲ ἄκοντες, τῆ τε ἀπολογία καὶ τῆ αἰτήσει ἀντιτείνειν μὴ ἔχοντες, εἶζαν εὐλαβούμενοι ὡς εἰκός· καὶ πλέον ἦσαν τοῦτο θαυμάζοντες, διὰ τοῦτο καὶ τιμῶντες ἢ πρότερον.

7 ὁ δὲ οὕτως ἐπανεπαύσατο ἐφ' ἱκανὰς ἡμέρας αὐτόθεν ἐπιδημῶν, ὑπὸ πάντων τιμώμενος καὶ στεργόμενος εἶτα ταπεινοφρονῶν τὴν γὴν εἴλετο ἀροτριᾶν, ἐξ αὐτῆς τάναγκαῖα ποριζόμενος.

V 病気、そして2度目の幻

1 Οὐ πολὺ τὸ ἐν μέσφ, καὶ νόσφ δεινῆ κατενεχθείς, τῷ ναῷ διενοεῖτο ἢ χεροὶν ἰατρῶν καταφεύγειν εἶναι βέλτιον· καὶ ἦν ἐκεῖ τὸ θεῖον ἐκλιπαρὼν τῆς ἰάσεως τεύξεσθαι. 2 τῆ δὲ νυκτὶ ἐκείνη ἄϋπνος διετέλει μέχρι τῆς τετάρτης φυλακῆς, τῆς τῶν ὀδυνῶν σφοδρότητος τοῦτο κατεργασαμένης, τῷ Θεῷ καρτερῶς προσευχόμενος.

3 εἶτα μικρόν τι εἰς ὕπνον κατενεχθέντι ἄγγελος [B f.192^{va}] αὐτῷ ἡδείᾳ ὄψει φαίνεται τοῦ βήματος ἐξελθών, ἄντικρυς ἐπιστάς, «᾿Αβραὰμ ᾿Αβραάμ,» τοῦτον ἐφώνησεν, «ἐγέρθητι ὑγιὴς τὴν νόσον ἀποσεισάμενος.»

4 ὁ δὲ « Ἄχθομαι, ὧ κύριέ μου, καὶ δεινῶς διάκειμαι τῆ ἀρρωστία ταύτη τῆ χαλεπωτάτη ἐγερθῆναι, σύγγνωθι $^{(12)}$, ἐμοὶ οὐκ ἐνόν $^{(13)}$.»

5 ὁ δὲ φανεὶς τούτῳ προσπελάσας [A f.186°] ἄγγελος, χειρὶ εὐμενεῖ αὐτῷ ἐγχειρίσας κρατεῖ καὶ « Εγειρε,» φησίν, «ὁ Θεὸς οἰκτείρας τὸν πόνον ἀφείλετο. 6 ἄπιθι τοιγαροῦν εὐρωστῶν οἴκαδε τὰς αὐτοῦ κηρύττων δυναστείας, καὶ τῆ γυναικί σου Σάρρα συγγενόμενος τῆς καρπογονίας

⁽¹²⁾ σύγγνωθι] scripsi: Α σύγνωθι

⁽¹³⁾ οὐκ ἐνόν] scripsi; Α οὐκενόν

と. 5 私はいずれをも欠いております. 私をお赦しください. 皆さんはこのような事情のゆえに赦すことをご存じなので, 私は皆さんにお願いするのです. 」6 彼らは, 弁明と願いとに対して返す言葉がなかったので, 不承不承, ふさわしい敬意を払って彼に譲歩した. そして彼らはこのことに一層驚嘆し, このゆえに以前よりも敬意を払った.

7 こうして彼は、皆から尊敬され愛されて、よそ者として同地において、 十分な日数の間休息を得た、それから、へりくだって地を耕すことにし、 そこから必要なものを得るようにしていた。

V 病気、そして2度目の幻

- 1 多少の時が経ち、彼は恐ろしい病にとらえられ、医者の手に頼るよりも神殿 [たる教会] に逃げ込む方が良いと思った、そして、そこで癒しが得られるよう神に嘆願していた。2 その夜彼は第四の更まで眠らずにいた、痛みのひどさがそうさせたのであり、彼は神に粘り強く祈っていた。
- 3 それから少しして眠りに落ちた彼のところに、天使が甘美な幻によって現れる。天使は祭壇から出て来て、真向かいに立ち、彼を呼んだ、「アブラアム、アブラアム、病を振り払って、元気な者として起きよ」。
- 4 彼は [言った],「我が主よ、私は苦しんでいて、このひどい病で恐ろしい目に遭っているのです、お赦しください、起き上がれません」
- 5 現れた天使はこれに近寄り、優しい手を彼に差し伸べ、摑んで言う、「起きよ、神は哀れに思われ、苦痛を取り去ってくださった。6 それゆえ、壮健な者として家に行き、神の力ある業を宣べ伝えよ、そして、妻のサラと交わって、あなたは胎の実を得るだろう。7 つまり、彼女はあなたに息子を産むのだ。その子は神の幕屋として、彼を通じて多くの人に喜びと歓

έπιτεύξη. 7 τέξει γάρ σοι υίόν, σκήνωμα θεῖον δι' οὖ εὐφροσύνη καὶ ἀγαλλίασις ἔσται πολλοῖς, καὶ ἐν πάση τῆ γῆ περιφανὲς αὐτοῦ τὸ ὄνομα γνωσθήσεται. 8 ἐθνῶν γὰρ μέλλει Θεῷ προσάξαι πλήθη, ἀγγελικὴν ἐπὶ γῆς πολιτείαν ἐπιδεῖξαι ἀΰλοις τε ἄνδρας άμιλλωμένους καὶ Θεὸν θεραπεύειν ὑπ' αὐτοῦ διδασκομένους.» καὶ ὁ μὲν ὧδε εἰπὼν ἀπήει.

9 ὁ δέ, τοιᾶσδε θείας ὄψείως [B f.192^{vb}] ἀξιωθεὶς ἀνίσταται, ὢ θείας ἐπισκοπῆς, ὅλος ὑγιὴς τοῖς οἰκείοις ποσὶ στηριζόμενος, καὶ φόβου τε ἄμα καὶ χαρᾶς ἐμπιπλάμμενος, τὸ ἀθρόον τῆς ὑγείας ἀπορῶν, καὶ ὀνείροις ἔτι προσομιλεῖν ἐδόκει ἢ ἀληθέσι πράγμασιν. 10 Ἐπεὶ δὲ τῶν μελῶν ἕκαστον συναδὸν τῆς ὑγείας εἰς ἀπόδειξιν ἐναργῆ εἶχεν, οἴκαδε βαδίζων ἀφικνεῖται καὶ τῆ συνεύνω τῶν αὐτῷ ὁραθέντων συγκοινωνεῖ.

VI マカリオスの誕生

1 ή (14) δὲ ὁμοφρόνως καὶ θεοσεβῶς τὰ τῆς εὐχαριστίας συνῆδε (15) τῷ εὐεργέτη Θεῷ, καὶ συνομιλήσασα τῷ ἀνδρί, καὶ συλλαβοῦσα τὸν ἐξ ἐπαγγελίας ἐν γαστρὶ εἶχε τεχθησόμενον. 2 ἤδη δὲ τοῦ τῶν ἀδίνων ἐπιστάντος καιροῦ, τεχθεὶς ὁ ἡγιασμένος ἐκ κοιλίας μητρὸς καὶ φωτὸς ἐνθέου υἰός, ἀραῖος μὲν τὸ σῶμα, ἀραιότατος δὲ καὶ τὴν ψυχὴν ἐδείκνυτο καὶ ὅτι χρηστότητα διὰ τοῦ χαρακτῆρος ὑποφαίνων ἦν. 3 ἀμέλει καὶ Μακάριον τὸν τῆς μακαριότητος ἀληθῆ ὄντα ἐπώνυμον κληθῆναι, καὶ ταύτης οἰκεῖον ὑποληφθῆναι.

VII 少年期のマカリオス; 読師となる

1 Καὶ ἦν ἄμα μὲν $[B\ f.193^{ra}]$ τῆ χάριτι ἄμα δὲ καὶ τῆ ἡλικία συναυξάμενος καὶ συμπροκόπτων. καλῶς δὲ καὶ ὑπὸ τῶν γεννητόρων τρεφόμενός τε καὶ παι-

⁽¹⁴⁾ ή] scripsi; A οί

⁽¹⁵⁾ συνήδε] scripsi; A συνή δὲ

喜とがあり、彼の名は全地で名高いものとして知られるだろう. 8 彼は諸 民族の群衆を神へと導き、地上において天使的生活を示すことになるから であり、また、人々を非物質的な [天的な] 存在と競争させ、彼らが彼の 教えを受けて神に仕えるようにするからである」. こう言って天使は去っ た.

9 このような聖なる幻を見るに値する者とされた彼は, ――おお, 神の訪れよ――全く健康な者となって自分の足でしっかりと立ち, 恐れと喜びとに満たされ, 一気の健康にとまどい, 現実とよりもむしろ, なお夢とかかわっているように思われた. 10 健康になったことの明確な証明として, 四肢の各々が調和していたので, 彼は歩いて家へ向かい, 自分が見たものを伴侶と分かち合う.

VI マカリオスの誕生

1 妻は、同じ考えで敬虔な心から、施善者たる神に感謝の歌を歌い、そして夫と交わって約束の子を懐胎し、生まれいずる者を腹に宿した.2 はや陣痛の時が来たり、母の胎内から聖とされた者 [cf. ルカ1・15]、神の光の息子が生まれた――体は麗しく、魂はきわめて麗しく、そのような刻印を通じて、彼が善性をほの見えさせているのだということが明らかだった.3 ともあれ、マカリオスは――本物の幸かなる者であるので――幸いさに因む名を以て呼ばれることとなり、そして幸いさを有する者とみなされることとなった.

VII 少年期のマカリオス; 読師となる

1 彼は恵みと背たけとにおいて増し加わり進みつつあった [cf. ルカ2・52]. 両親によって良く養われかつ教えられ、彼は彼らの徳に倣いそれを

δευόμενος, καὶ τούτων τὰς ἀρετὰς ἐκμιμούμενός τε καὶ ἀποματτόμενος, τοῦ καλοῦ δένδρου οὐκ ἄπωθεν⁽¹⁶⁾ ἐδείχθη καρπός. 2 ἐπεὶ δὲ εἰς μέτρον ἤβης ἐληλακὼς τὰ τῆς γεωπονίας τῷ πατρὶ συνεργαζόμενος ἦν, πάντες δὲ οἱ τῆς κώμης ἐκείνης οἰκήτορες τῶν τε ἡθῶν τῆς εὐπρεποῦς καταστάσεως ἀγάμενοι τοῦτον, καὶ τὰ κατ' αὐτὸν στοχαζόμενοι προεφήτευον, οὑτωσὶ λέγοντες· 3 «Οὖτος ὁ νέος ὑπὸ Θεοῦ ἐκλελεγμένος ἐστί, καὶ πολλὰ δι' αὐτοῦ μέλλει ὁ Θεὸς ποιεῖσθαι [A f.187] καὶ ἀναδείκνυσθαι τῶν ἐπαξίων μνήμης· τὸ γὰρ αἰδέσιμον τῆς χάριτος διὰ τοῦ προσώπου ὁρᾶται.» καὶ ταῦτα μὲν ἡ πληθύς.

4 τὸ δὲ ἱερέων ἄθροισμα, ἐπεὶ οὐ δίκαιον ἡγήσατο τοῖονδε σκεῦος ἄμωμον ἱερωσύνης ἄμοιρον εἶναι, τῷ ἐπισκόπῳ προσαγαγόντες, μὴ δὲ τοῦ γεννήτορος εὐδοκοῦντος, ἀναγνώστην ἐχειροτόνησαν.

VIII マカリオスの結婚;助祭への叙品

1 "Ηδη οὖν τῶν τοῦ γάμου ἐπιστάντων [B f.193^{rb}] καιρῶν κατὰ νόμον συζυγίας, τελείου γενομένου καὶ τούτου, ἔδει διὰ τὴν ἡλικίαν ὑπομνηστευθῆναι τοῦτον οἱ γονεῖς γυναικὶ ἐννόμῳ συζεῦξαι συνεβούλευον.

2 ὁ δὲ «Σιγάσθω παρ' ὑμῖν» ἔφη, «πᾶσα ἡ τοῦ γάμου συμβουλία. πεῖσαι γάρ με περὶ τούτου οὐ δύνασθε μήτε μὴν τοῦ Θεοῦ συγχωροῦντος.»

3 οἱ δὲ τὰς τοῦ θείου ἀγγέλου προρρήσεις περὶ αὐτοῦ καὶ τὴν τοῦ μεγάλου πατριάρχου ἐπιστασίαν λαθόμενοι, ἄλλως τε καὶ ὑπὸ τῶν κληρικῶν ἀναγκαζόμενοι τὸ (17) συλλειτουργὸν γενέσθαι τοῦτον βεβουλημένων καὶ τῆς τούτων ἀναβολῆς μὴ ἀνασχομένων, νομίμω γυναικὶ ἄκοντα καὶ μὴ βουλόμενον τὸν Μακάριον συνέζευξαν.

4 πάντων οὖν τῶν τοῦ γάμου τερπνῶν ηὐτρεπισμένων, καὶ τοῦ νυμφῶνος ἐστολισμένου, ἃ εἴωθεν διεγείρειν πρὸς ἡδονήν, ὁ Μακάριος οὐδενὶ προσήλωτο

⁽¹⁶⁾ ἄπωθεν] scripsi; Α ἄποθεν

⁽¹⁷⁾ τὸ] scripsi; A τῶ

範とし、遠からず自ら良い木の [良い] 実として示された。2 少年の境に達して、彼が父とともに地を耕すのに精を出していた時、その村の住人はみな、品の良い気質の彼の人となりのゆえに讃嘆し、彼について思いめぐらして、預言して次のように言っていた、3 「この若者は神によって選ばれとるのだ、そして神様は彼を通じて、記憶に値することを多くなさりお示しなさろうとしておられるのだ。何しろ、恵みの麗しいさまが彼の顔から透けて見えとる | . 群集はこのようだった。

4 司祭たちの集まりはといえば、責められるところのないこのような器が聖職の分を得ずにいるのは正しくないと彼らは思ったので、——父親は喜ばなかったが—— [彼を] 司教のところに連れて行き、読師の按手を受けさせた.

VIII マカリオスの結婚;助祭への叙品

- 1 婚姻の法に従ってはや結婚の時季が来たり、この者も成人の男となったので、その年齢ゆえに女と婚約させられねばならなかった。両親は彼が法にかなった女と一緒になるようにと勧めていた。
- 2 彼は言った、「あなたがたは結婚の助言は一切黙っていてください. 神がお許しにならない以上、あなたがたはこの件で私を説得することはできないのですから |.
- 3 しかし彼らは、彼に関する神の天使の言葉も偉大なる族長の顕現も忘れてしまい、またとりわけ、彼が同労者になることを望み、かつ両親たちの遅延を我慢できないでいる聖職者たちによって無理矢理促されていたので、いやがるマカリオスを、望んでもいないのに、法にかなった女と一緒にした。
 - 4 そこで、結婚のすべての楽しみが用意万端となり、寝室が飾られたが

τῶν τοιούτων, ἀλλὰ μόνῳ τῷ θείῳ ἔρωτι τετρωμένος ἦν $^\circ$ 5 καὶ κατὰ ψυχὴν λίαν γλιχόμενος τῆς φερομένης $^{(18)}$ αὐτῷ, οὐδ' ἑτέρας ἀνασχόμενος ἡδονής, $[B\,f.193^{va}]$ ἀλλ' ἦν ὅλος τῷ ἀπορρήτῳ κάλλει ἐνατενίζων καὶ τερπόμενος, καὶ ἡδέως προσομιλῶν διὰ τῶν θείων γραφῶν.

6 ήνίκα δὲ τοῖς γεννήτορσιν ἀναγκάζοιτο τῷ κοιτῶνι προσιέναι, οὐκ ἦν πάσχων τὴν νύμφην θεάσασθαι ὀφθαλμοῖς, οὐδὲ κάλλος μαραινόμενον σχολῆ περιεργάζεσθαι, ἀλλ' ὁ σωματικὸς τοῦ θεϊκοῦ ἔρωτος τούτῳ ἡττώμενος ὡρᾶτο.

7 ἀμέλει ὡς ἐραστὴς τῶν ἀρετῶν τῆς μεγίστης ἔφυ τῆς σωφροσύνης, ὥσπερ εἰσελθὼν ἦν καθαρός, οὕτως ἐξήει (19) τοῦ κοιτῶνος ὅλος· ἀρρωστίας δὲ τοῖς πυνθανόμενοις ὑποκρίνεται αἰτίαν. 8 οἰκονομηθῆναί τε τὰ κατ' αὐτὸν πρὸς Θεὸν κατεδυσώπει, καὶ μόνου τούτου ἐξηρτημένας τὰς ἐλπίδας εἶχε καὶ πᾶσαν προσδοκίαν, ὅς ῥῷον τὰ δυσχερῆ [A f.187] κατευθύνειν οἶδε καὶ λυσιτελῆ καθιστᾶν.

9 ἐπεὶ δὲ τῆς νενομισμένης τῷ γάμῳ διελθούσης ἡμέρας, διάκονος χειροτονεῖται ψήφῳ κοινῆ, ὑποταττόμενός τε καὶ τοῖς γονεῦσιν, ἀντιτάττεσθαι οὐκ ἐν πᾶσι βουλόμενος (ἐκείνοις γὰρ περὶ μόνην τὴν συζυγίαν [B f.193^{vb}] πεισθῆναι οὐκ ἀνέχεται), ἐν παρθενία δὲ μᾶλλον καὶ ἐλευθερία τὸν κατὰ Θεὸν βιῶναι (20) βίον προαιρεῖται. 10 καὶ ἦν ἄμα μὲν τὸν τοῦ γάμου θεσμὸν εὐλαβούμενος, ἄμα δὲ τῆς ἐφέσεως τῆς τοῦ ἐνθέου σκοποῦ ἀποτεύξεσθαι ἀνιώμενος, καί τι ἄν καὶ δράσειεν μὴ ἔχων τῶν ἀφύκτων ἀνεθῆναι δεσμῶν, πρὸς τὸν δυνάμενον ποιεῖ τὴν καταφυγήν, ἐπὶ τὸ κρεῖττον τὰ κατ' αὐτὸν μεταβαλεῖν δεόμενος. 11 μόνης γὰρ τῆς ἄνωθεν προνοίας τὸ δύνασθαι εὐμαρῶς ἰθῦναι τὸ προσοῖσον αὐτῷ. ὅθεν ἰκέτης εὕελπις γίνεται ταύτης, ἀλλ' οὖτος μὲν οὕτω θερμῶς διέκειτο ἱκετεύων.

⁽¹⁸⁾ φερομένης] scripsi; Α φερομένοις

⁽¹⁹⁾ έξήει] scripsi; Α έξειη

⁽²⁰⁾ βιώναι] Α βιώνναι

(こういうことは [人心を] 快楽へと掻き立てるのがつねなのである), マカリオスはこのようなものの何一つにも釣られることがなく, ただ神の愛のみによって傷ついていた. 5 そして魂において, 自分のところにもたらされた快楽をこの上なく希求し, 他の快楽には甘んじず, えも言われぬ美をひたすら凝視しかつ享受し, 神の書によって甘美のうちに [その美と] 交わっていた.

6 寝室に赴くよう両親から強いられた時には、彼は新婦を眼で見る難に は遭わず、色あせた美にわざわざかかわる羽目にもならず、彼の目には身 体的な愛は神的な愛より劣るものと映っていた。

7 ともあれ、彼はもろもろの徳の中の最大の徳である純潔の愛好者として育ってきたので、入った時清かったように、全身清いまま寝室から出てきた。そして、尋ねる人々に病気という理由を彼は説明する。8 自分のことが取り扱われるよう彼は伏して神に願い、彼の希望とあらゆる期待は、このお方、すなわち困難なことをたやすくまっすぐにし、有用なことを按配するすべを知っておられる方にのみ、かかっていた。

9 結婚に当てられた日が過ぎ去り、彼が全員一致のもとで輔祭の接手を受けると、彼は両親に従い、万事で逆らおうとはしないものの(というのも、彼はただ婚姻のことでのみ、両親に従うことを拒絶しているのであるから)、童貞と自由の状態で神に従う生活を生きるのを選ぶことにする。10 そして、一方で結婚の掟を尊重しつつ、他方で神的な目的を目指せずにいるのを嘆きつつ、逃れられない絆から解放されるために何をすべきかわからず、逃げ場を与えることができるお方に対して、自分の状況をより良い方向へと向けてくれるよう、彼は願い求めていた。11 というのも、速やかにまっすぐにできること、それが彼にもたらされるというのは、ただ上なる摂理にのみ属することだからである。それゆえ彼は、希望をもってこの摂理を願う者となる。さて、かくて彼は切実に願い求める者としてあった。

IX マカリオス、ニトリアの山に行く;最初の幻

1 Θεῷ δὲ τῷ τούτου μελουμένω οὐκ ἦν παριδεῖν δν καὶ πρὸ τῆς γεννήσεως ἐξελέξατο, ἀλλ' εὐθέως θεϊκῆ οἰκονομία συνέβη τινὰς τῶν οἰκείων παρὰ τὸ ὄρος τῆς Νιτρίας ἀφικέσθαι νίτρον ἀνενεγκεῖν ἐκεῖθεν εἰς Αἴγυπτον, αὐτόθι γὰρ τοῦτο ἐξευρίσκειν εἰώθασιν οἱ ἔμποροι 2 οἶς καὶ αὐτὸς συνέμπορος γενέσθαι τοὺς γεννήτορας παρεκάλει, οἱ δὲ ἐπένευσαν. καὶ παραχωρηθεὶς συνέκδημος [B f.194^{ra}] γίνεται. 3 ἐπεὶ δὲ εἰς τὰ τοῦ ὄρους ἐνδότερα γενόμενος ἦν, καὶ εἰς τὴν λίμνην τοῦ νίτρου ἀφικόμενος, μικρόν τι ἐκαθέζετο τῆς ὁδοιπορίας τῶν πόνων⁽²¹⁾ ἀναψύξων.

4 εἶτα εἰς ὕπνον αὐτῷ κατενεχθέντι φρικτή τις ἄμα καὶ θαυμαστὴ ὄψις ἐπέστη· ἄνδρα γὰρ ἐν τοῖς ἀοράτοις ὁρᾶν ἑῷκει ὀφθαλμοῖς, φῶς ἑξαστράπτοντα λίαν καὶ λαμπρόν, καὶ «"Ορα τοῦτο τὸ ὄρος» εἰρηκότα, «καὶ τὴν ἐν τούτῳ εἰσφερομένην πεδιάδα, καὶ κατανόησον αὐτῶν τὸ μῆκος καὶ τὸ εὖρος. 5 τοῦτο γάρ σοι καὶ τοῖς ἐσομένοις σοι τέκνοις διὰ τῆς χάριτος καὶ ἱερᾶς ὑποταγῆς ὁ πάντων δημιουργὸς δίδωσιν οἰκῆσαι καὶ πληρῶσαι ταύτην τὴν ἔρημον οἰκητόρων. 6 πολλῶν γὰρ υἱῶν γεννήτωρ ἔση πνευματικῶν, ἀλλὰ καὶ ἡγουμένων καὶ διδασκάλων διὰ τῆς σῆς διδασκαλίας ἔσονται πλήθη· καὶ οὐ ταύτης ἡγεμονεύουσι μόνης, ἀλλὰ καὶ πολλῶν ἄλλων τῶν ὧδε ἐφισταμένων. τοὺς [Α f.188^r] γὰρ ἀγαπῶντάς σε ἀγαπήσω, καὶ τοὺς καρποὺς ἀγαθοὺς εἰσφέρειν ποιήσω. 7 ἀναστὰς τοιγαροῦν κατανόησον ἄπερ τεθέασαι [Β f.194^{rb}] καὶ οἴκαδε ἐπανιῶν τὰ ὀφθέντα σοι καὶ ῥηθέντα ἐν κρυπτῷ τῆς καρδίας τήρει· καὶ ἐγώ σοι ἐν καιρῷ τῷ προσήκοντι ἃ δεῖ σε ποιεῖν διακελευόμενος ἐλεύσομαι.» καὶ ταῦτα μὲν ὁ φανεὶς εἰπὼν ἀφίσταται.

8 ὁ δὲ Μακάριος διυπνισθεὶς ἐκπλήξει καὶ φόβῳ συνείχετο, ξένα γὰρ καὶ παράδοξα τὰ τῆς ὀπτασίας αὐτῷ ἐδόκει· καὶ τί βούλοιτο⁽²²⁾ εἶναι περὶ αὐτοῦ

⁽²¹⁾ τῶν πόνων] scripsi; Α τὸν πόνον

⁽²²⁾ βούλοιτο] scripsi; Α βούλει τὸ

IX マカリオス、ニトリアの山に行く;最初の幻

1 彼に配慮をなさる神にとって、生まれる前からお選びになった者を見過ごしにすることはありえなかったのであって、速やかに神の経綸によって、親族のうちの幾人かがニトリアの山に行き、硝石をそこからエジプトに運ぶということがあった。というのも、商人たちはそこで硝石を手に入れるのがつねだったからである。2 彼もまた、商人たちの一人になることを両親に願い、両親は同意した。そこで、許されて彼は旅路を共にする者となる。3 山の奥まったところにやってきて、硝石の池に到着すると、彼は旅路の苦労から安らぐべく、少しそこに座っていた。

4 それから眠りに落ちた彼に、恐るべき、かつ同時に驚くべき、光景が立ち現れた、彼は、不可視のものを見る目で一人の男を、すなわち、稲妻のように輝きを放ちきわめて明るい光を、見たように思ったのである。そしてその男は言った、「この山と、その中に広がる平地とを見なさい、そしてその長さと幅とを観察しなさい。5 というのも、万物の造り主は、この砂漠を住人で住まわせ満たすために、この山をお前と、お前が授かることになる子らとに、恵みと神聖なる服従とを通じてお与えになるからだ。6 お前は多くの霊的な息子の生みの親となるだろう、そしてお前の教えを通じて、指導者や教師の群れが起こされるだろう。彼らはこの砂漠だけでなく、ここにやってくる他の多くの人々をも支配する。なぜなら、私はお前を愛する者たちを愛し、彼らが良い実をもたらすようにするからだ。7 だから立ち上がって、お前が見たものを観察し、そして家に戻ったなら、自分が見聞きしたことを心の秘かなところに保っておきなさい。そして私はお前に、適当な時に、お前がなさねばならないことを命じにやってくるだろう」。こう言って、現れた者は去っていく、

8 マカリオスは眠りから覚めて、驚きと恐れとに捉えられた、というの

τὸ ἐκβησόμενον διηπορεῖτο, μεγάλης οὖσης τῆς ὑποσχέσεως καὶ τῶν ῥηθέντων ὑπὲρ δύναμιν. 9 οἱ δὲ συνέμποροι ἐκ τοῦ χαρακτῆρος ἐστοχάζοντό τι διὰ τοῦ ὕπνου πεπονθέναι τὸν Μακάριον καὶ τὴν αἰτίαν ἤροντο μαθεῖν δι' ἢν οὕτως ἡλλοίωτο ὁ δὲ οὐδὲν τῶν κατ' αὐτὸν δῆλον ἐποίησε.

X 妻の死

1 Μετὰ δὲ ἡμέρας τρεῖς ἀπὸ τοῦ ὄρους ἐπάνεισι τῆς Νιτρίας, καὶ ἐν τῆ οἰκία γενόμενος εὖρε τὴν αὐτοῦ σύζυγον δεινῶς ἐν ἀσθενεία κατακειμένην. εἶτα λάβρφ πυρετῷ κατασχεθεῖσα τὸν βίον ἐξέλιπε, τῆς παρθενίας ἔτι αὐτῷ ἀφθάρτφ διατηρουμένης.

2 ὁ δὲ νεανίας, τὴν ταχεῖαν [B f.194^{va}] τοῦ θανάτου ὁρμὴν θεασάμενος, τὰ μεγαλεῖα τοῦ Θεοῦ δοξάζει καὶ τὸ ἀπόρρητον μυστήριον ἐκθειάσας «Μακάριε,» ἑαυτῷ διελέγετο, «σεαυτῷ πρόσεχε, καὶ ἀπὸ τοῦ νῦν μέλλησις (23) μὴ ἔστω σοι περὶ τῆς ψυχῆς σου καὶ γὰρ δεῖ σε τῆς αὐτῆς ὄντως ἐπιβῆναι ὁδοῦ. 3 καὶ αὕτη μὲν γὰρ πρὸς μονὰς τῶν ἀκηράτων παρθένων, άγνὰ ὡς ἄμωμος τὰ μέλη ἔχουσα, τῶν τῆδε μεταβαίνει ὅπου παραγίνονται οἱ ἐν σώματι ἀσπιλοι κεκαθαρμένοι, καὶ τοῦ τοιούτου καλοῦ ἔτυχε τέλους. σοὶ δὲ ἐτέρως (24) μὴ ἔστω ἡ ἐνθάδε ἀποδημία, μὴ δὲ τῶν χωρῶν (25) ἐκείνων ἀπολειφθήση.»

4 ἀμέλει τοίνυν τὸν Μακάριον μηδενὸς ἀντιποιεῖσθαι τῶν γηῖνων, μὴ δὲ φροντίδι τούτων περιλαμβάνεσθαι, ἀλλ' ἦν τῷ ναῷ διὰ παντὸς προσεδρεύων, καὶ ταῖς θείαις ἐνασχολούμενος γραφαῖς ἐμφρόνως ἐρωτῶν καὶ ἀκούων τὰ ἐν

⁽²³⁾ μέλλησις] scripsi; Α μέλησις

⁽²⁴⁾ ἐτέρως] scripsi; Α ἐτέρος

⁽²⁵⁾ χωρῶν] scripsi; Α χορῶν

も、その幻は彼には、異様なもの、信じがたいもののように思われたからである。そして、彼について起ころうとするそのことが何を意味するのか約束が大いなるものであり語られたことが人知を超えるものだったので、彼には見当もつかなかった。9同行した商人たちは、様子から見て、マカリオスが睡眠を通じて何かを受けたのだと推測し、彼がかくも変わってしまった理由を知ろうと尋ねた。しかし彼は、自分に関することの何一つとして、明らかにはしなかった。

X 妻の死

1 三日の後ニトリアの山から彼は戻り、そして家に着いて、自分の連れ合いが病でひどい状態で臥せっているのを見いだした。それから獰猛な熱に捕えられて、彼女は世を去った――汚されずに処女性を保ったまま。

2 若者は、死が速やかに襲ったのを目の当たりにして、神の偉大さを讃え、えも言われぬ奥義を崇めて自分に語らった、「マカリオスよ、自分に注意しろ、これからは自分の魂のことで躊躇するな、本当にお前も、彼女の行った道を行かなければならないのだから、3 この女は、責められるところのない者として四肢をきよく保ったまま、この世から清らな乙女たちの住まい、すなわち、体において汚れのない清められた者たちが赴くところへと遷っていき、かくてこのような麗しき終わりを遂げたのだ、お前にとっても、ここからの遷りゆきは異なったようであってはならない、かの所に入りそこなうことがないためにもし

4 ともあれこうして、マカリオスは地上的なものを何一つ追い求めず、 そのようなものに対する配慮に捕えられることがなかったという。むしろ 彼は、つねに神殿に赴いて、神の書に沈潜し、賢く尋ね求め、神の書の底 βάθει αὐτῶν ἀκριβέστατα. 5 καὶ ἦν ἡ χάρις περὶ τὴν ὄψιν αὐτοῦ φαινομένη διαλάμπουσα, τοῦτο μὲν παρὰ πολλοῖς θαυμαζομένου, τοῦτο δὲ καὶ πολλῶν στόμασιν ἐμφε'ρομένου [B f.194^{vb}] χρησταὶ δὲ τοῖς πᾶσι περὶ αὐτοῦ καραδοκούμεναι ἦσαν αἱ ἐκβάσεις. [A f.188^v]

6 ἀλλὰ καὶ οἱ τοῦτον φῦντες οὐκ ἀσφαλεστέροις τοῦτον ὁρῶντες, ἀλλὰ φιλοθέοις μᾶλλον τὸ οὖς προσχόμενοι· ἔτι δὲ καὶ τὰς περὶ αὐτοῦ γεγενημένας ὀπτασίας ἐν νῷ ἔχοντες, οὐκέτι τούτου ἐνώπιον γυναικὸς ἐπιμνησθῆναι ἐτόλμων, ἀλλὰ χαίροντες καὶ εὐχαριστοῦντες τῷ Θεῷ περὶ αὐτοῦ τοιαύτας ἀρετὰς κεκτημένου, πτωχοῖς καὶ πένησι διανεῖμαι⁽²⁶⁾ τὰ προσόντα παρεχώρουν.

7 τὸ αὐτὸ (27) δὴ καὶ αὐτὸς πρὸς τοὺς γεννήτορας ὑπέδειξε φίλτρον, πειθαρχῶν τε καὶ νέμων τὸ σέβας. ὅθεν καὶ πατρικῆς ἔτυχεν εὐλογίας.

XI 両親の死

1 'Αρτὶ γὰρ τὸν πατέρα γεγερακότα τῶν ὄψεων ἀποστερηθῆναι συνέβη· οὐκ ἄλλαις δὲ συνείχετο ὁ Μακάριος χεροὶν ἀλλ' οἰκείαις τοῦτον διακονεῖσθαι, καὶ καλῶς θεραπεύεσθαι, καὶ οὕτω δὴ πλήρη⁽²⁸⁾ ἡμερῶν γεγεμημένον τῶν τῆδε πρὸς τὴν ἀγήρω ζωὴν μεταπεμφθῆναι⁽²⁹⁾. 2 ὁ δὲ Μακάριος ὡς εἰκὸς τὰ περὶ τὸ σῶμα ἀφοσιωσάμενος, τῆ δὲ ψυχῆ τὰ καταλειφθέντα ἄπαν'τα [B f.195^{ra}] συνέπεσθαι εὐδοκήσας, μηδενὸς φεισάμενος ὑπὲρ τῆς ἐκείνου ψυχῆς, ταχεῖαν ἐποίησε τοῖς δεομένοις τὴν διανομήν, 3 καίπερ τῆς μητρὸς πολλάκις «Κατάσχου, ὧ τέκνον,» εἰπούσης, «βραχεῖα ἄττα τῶν πατρικῶν σου. Δεινὸν γάρ τι ἡ πενία καὶ ποικίλως ἔχει τὰ ἀνιαρά, ἤτις ὑποχειρίους τοὺς δεσπότας εἴωθεν ποιεῖν. Μἡ τί γε καί σοι συμβῆ τῶν ἀναγκαίων τις στέρησις· ἐν ἀδήλω γὰρ

⁽²⁶⁾ διανειμαι] scripsi; Α διένεμε

⁽²⁷⁾ αὐτὸ] scripsi; Α αὐτῶ

⁽²⁸⁾ πλήρη] scripsi; A πλήρης

⁽²⁹⁾ μεταπεμφθήναι | scripsi; Α μεταπεμφήναι

にあるものをきわめて正確に聞き取っていた。5 そして、一方で多くの人々の驚嘆の念の的となり、他方で多くの人の口の端に上っていた彼の顔には、恵みが現れ輝いていた。すべての人が、彼の良き生い先を期待していた

6 さて、この者 [マカリオス] を生んだ者たちは、彼を見て、彼の知人たちにではなく神を愛する人々に耳を傾けていた。そして、彼についてあった幻をなお念頭に置き、もはや彼の前ではあえて女のことには言及しなくなり、このような徳を得るに至った彼のことで喜び、神に感謝し、彼が余剰を貧しい人々や文無しの人々に分け与えるのを許可していた。

7 彼自身も同じ愛情を両親に対して示し、彼らに従い、かつ敬意を払っていた。それゆえ彼は父の祝福をも得た。

XI 両親の死

1 さて今や、父が年老い、視力を奪われることになった。マカリオスは他人の手でなく自らの手で父に仕え、よく世話をすることを続け、かくて父は日を満たして満ち足りて[創25・8]、この世から老いのない命へと遷されることとなった。2 マカリオスはその[遺]体に関することをふさわしく成し終えてから、残されたすべてのものが[父の]魂に付き従うことに同意し、父の魂のために何一つ惜しまず、貧窮する者たちに対して速やかなる施しを行なった。3 母親がしばしば「わが子よ、お前の父の[遺した]わずかなものを保っておきなさい。というのも、貧困は何か恐ろしいもので、しばしば悲惨を伴い、主人たちを人に服従する者へと変えることがつねだからだよ。必要なものの不足がお前に起こらないように、災難

πεφύκασιν αἱ συμφοραί, παρ' ἐλπίδα τε ἔρχονται.» 4 ἀλλ' οὐδὲν τῷ Μακαρίῳ τῆς ἀγαθῆς εὐποιίας ἔπεσχε τὴν ὁρμὴν ἢ ἐπέστρεψεν εἰς ἀναβολὴν, ἀλλ' ἦν ἐλέου χεὶρ ἀφθόνως τοῖς δεομένοις ἐφηπλωμένη· ἄμα δὲ καὶ σοφῶς τῆ μητρὶ τὰς παραινέσεις ποιῶν, ἐπὶ τοῖς δεομένοις μᾶλλον ἢ τοῖς ἐν χερσὶν οὖσι ταύτην εὐφραινομένην, καὶ τῶν ἐλπιζομένων ἐρᾶν πειθομένην ἢ τῶν ἐνεστώτων εἰς πενίαν ἐκπεσεῖν ἡττωμένην.

5 ἀλλ' οὖτος μὲν οὕτως ἀνθ' ὧν προείληφε καλῶς ἐδίδου τὰ τροφεῖα. 6 ἡ δὲ καὶ λίαν εὐσεβῶς $[B f.195^{rb}]$ ὑπ' αὐτοῦ περιεπομένη καὶ ὡς δεῖ ὑπηρετουμένη, ἑξαμηνιαῖον ζήσασα χρόνον μετὰ τὴν τοῦ ἀνδρὸς τελευτὴν καταλύει καὶ αὐτὴ τὸν βίον.

7 ὁ δὲ Μακάριος ἐν ἐλευθερίᾳ καὶ ἀδείᾳ γενόμενος, τί ἂν καὶ δράσειεν διὰ φροντίδος εἶχεν, ἔνδον τοῖς λογισμοῖς νυττόμενος καί τινι τὰ κατ' αὐτὸν ἐμφανῆ ποιῆσαι οὐχ' οἶός τε ἦν, τῷ $[A\ f.189^t]$ τοῦ πάλαι αὐτῷ φανέντος κελεύσματι πειθόμενος.

XII マカリオス、愛餐を催す;隠遁者との出会い

1 'Εν ὅσῳ δὴ τοῖς τοιαύτοις περιεπλέκετο διαλογισμοῖς, ἐπέστη τινὸς τῶν ἀγίων μνήμη ἑαυτῷ ἑορτάζεσθαι, καὶ ὃς πτωχοῖς καὶ πένησιν εὐωχίαν ποιήσας τῶν ἀπελθόντων ὑπερευχομένων συνήγαγε πληθύν, ὅπως αὐτοῖς οἶκτος γένηται, ὁ Θεὸς ἐν ταῖς σκηναῖς τῶν δικαίων ἀνάπαυσιν χαριζόμενος.

2 συνήντησε δὲ τούτοις ἄμα μοναχός τις ἀναχωρητὴς ὧ οὐ πολὺ ἀπὸ τῆς κώμης ἡ σκηνὴ ἐπέπηκτο διεστηκυῖα (οὕπω γὰρ ἦν τῆς ἐρήμου τότε οἰκήτωρ φανείς) ἀνὴρ ἀγαθὸς καὶ θείας ἡξιωμένος χάριτος, ὂς ἐν τῆ ἐκκλησία παραγενόμενος τῆς τῶν θείων [B f.195^{va}] μυστηρίων ἕνεκα μεταλήψεως. 3 τοῦτον ὁ Μακάριος ἰδὼν παρεκάλει συνεισελθεῖν τοῖς λοιποῖς ἐπὶ τὴν κοινὴν τράπεζαν ὁ δὲ τῆς ὑπακοῆς ὢν ἐραστής, τῷ πλήθει συνάπεισι καὶ συνέσθιος γίνεται.

は本来目に見えないもので、予想に反してやってくるのだから」と言っていたのだが、4 しかしいかなることであれ、マカリオスが良き善行へと突き進むのを阻むことはなく、またそれを遅らせることもなく、慈悲の手は貧窮する者たちに対して豊かに差し伸べられていた――と同時に、彼は賢明にも母に勧めをなし、母が、自分の手のうちにあるもののことよりも貧窮者たちのことを喜ぶようにし、また、打ちのめされて現在あるものから貧困へと落ちるよりも、希望の対象への愛を頼みとするようにした。

5 しかしこの者 [マカリオス] は、こうして自分が先に受けたものの対価として、麗しく食事を与えていた。6 母は彼から非常にうやうやしくもてなされ、また当然そうあるべきように奉仕を受け、夫の死後なお六ヶ月の期間を生き、そして彼女もまた人生を終える。

7 マカリオスは自由かつとらわれのない身となって、何をしたものか思 案の中にあり、内心ではさまざまな思念によって身をさいなまれていた。 そして、誰かに自分のことを明らかにすることが、彼にはできなかった。 かつて彼に現れた者の命令に彼は従っていたからである。

XII マカリオス、愛餐を催す;隠遁者との出会い

1 彼がこのような思念に取り囲まれていた間に、或る聖人の記念祭 [の日] が、彼がそれを祝うためにやってきた。そして彼もまた、貧しい人々や文無しの人々のために、亡くなった者たち [すなわち両親] の [ための] 宴会を催し、とりなしの祈りをする群集を集めた――神が義人の天幕にて安息をお与えくださり、亡くなった者たち [すなわち両親] のために慈悲が生じるようになるためである。

2 同じ時に、この人々に或る修道者隠者が出会った。彼の天幕は村からさほど遠くないところに設営されてあった(というのも当時、砂漠の住人は未だ現れていなかったからである)。良い人物であって神の恵みに値するとされた者である彼は、神の秘跡を受けるために教会に向かっていた。3 マカリオスはこの人を見て、他の人々とともに共同の食卓に入ってくれ

4 τῆς εὐφροσύνης δὲ ἤδη πάντες ἐμφορηθέντες εἰς τὰ ἴδια ἀναχωρεῖ ἔκαστος τῶν πολλῶν τὸν δὲ μοναχὸν ὑποχωρῆσαι ὁρμώμενον εἰς τὸ ἴδιον κελλίον ἐπισχών, ὁ Μακάριος «᾿Ανάσχου, πάτερ,» εἶπε, «μικρὸν τῶν ἐμῶν ἀκοῦσαι λόγων, ὄχλησιν γὰρ λογισμῶν ἔχω καὶ τῆς σῆς συμβουλίας ἐπιλαβέσθαι δέομαι. κέλευσόν με τῆ ἐπιούση παραγενέσθαι πρὸς τὴν σὴν ὁσιότητα πέπεισμαι γὰρ διὰ σοῦ ἀνέσεως τυχεῖν.» 5 ὁ δὲ τὸν Μακάριον ὁποῖος ἄν εἴη οὐκ ἀγνοῶν, ἐπέτρεψεν αὐτῷ παραβαλεῖν ὁπόταν καὶ βούλοιτο.

6 τῆ ἐπιούση οὖν ὁ Μακάριος παρὰ τὸν μοναχὸν ἀφικνεῖται, καὶ συνομιλῶν περὶ ὧν ἐν βάθει τῆς καρδίας εἶχε, διεπυνθάνετο εἰ ἔστι δυνατὸν ἀντέχεσθαι ἀναχωρήσεως καὶ τοῖς ἐν τῷ βίῳ ἀποιτάττεσθαι [B f.195^{vb}] τὸν μονήρη μεθέξοντι βίον, « "Οτι ἔρωτι τούτου κομιδῆ πρόσκειμαι.» 7 ὁ δὲ μοναχὸς ἐπὶ τῆ ὄψει τοῦ Μακαρίου τὴν τῆς θείας χάριτος ὁρῶν ἀκτίνα ἐκλάμψασαν, προσηνῶς ἀπεκρίνατο· «Μεῖνον ὧδε, ὧ τέκνον, ἵνα διαγρηγορήσαντες ἀμφότεροι τὸ θεῖον δυσωπήσωμεν ὅπως ἄν ἡμῖν τὰ κατὰ σὲ αὐτῷ δοκοῦντα δηλώση· Θεῷ μόνῳ τὰ ἡμέτερα εἰδέναι καὶ δηλῶσαι τὰ προσήκοντα.» 8 ὁ δὲ πεισθεὶς ἔμεινε κατατρυφῶν τῆς θείας τοῦ γέροντος διδασκαλίας.

9 ἥδη δὲ ἐπὶ δυσμὰς τοῦ ἡλίου κλίναντος [A f.189^v] εὐχὴν ποιησάμενοι, ἄρτου μετέσχον βραχέος καὶ μετρίαν τῷ σώματι δόντες ἀνάπαυσιν, εἰς προσευχὴν ἀνέστησαν.

XIII マカリオスに関する幻

1 'Εφ' ίκανὸν οὖν τὸν πρεσβύτην ἄϋπνον καὶ προσευχόμενον διαμεμενηκότα, καὶ τὸν νοῦν ἄνω ἐσχηκότα, τοῖς νοεροῖς ὀφθαλμοῖς ἀνοιχθεῖσιν ἐϣκει ὀρᾶν — ἢ τῶν κριμάτων σου, Χριστὲ βασιλεῦ, ὁ μόνος τῶν ἐσομένων γινώσκων τοὺς τρόπους καὶ τὰ ἀγωνίσματα — σμῆνος μοναχῶν τὸν Μακάριον κυκλούν⁴των [Β f.196^{τα}] λευχειμονούντων τε καὶ οἶά τινας πτέρυγας

るよう頼んだ. 修道者は従順の愛好者だったので、群集と一緒に行き、食事の仲間となる.

4 饗応に満足して、はや皆の者が各々自分のところへと退いていく、しかし、自分の僧房へと退こうとし始める修道者を引き止めて、マカリオスは言った、「師父よ、私の言葉を聞くために少し立ち止まってください。というのも、私は思念に悩まされており、ご助言を得ることを必要としているからです。明日御許にお伺いするよう私にお命じください。私はあなたによって安らぎが得られると確信しているのです」。5 修道者は、マカリオスがどのような者だったか知らないわけではなかったので、いつでも望む時に彼がやってくることを許した。

6 そこで翌日マカリオスは修道者のもとへやってきて、心の底にあったものについて彼と語らい、隠遁に専心し、修道生活を営むためにこの世のものを捨てることが自分には可能かどうか尋ねた。「なぜなら、私は修道生活への愛にとらえられているからです」。7 修道者は、マカリオスの顔に神の恵みの光が輝いているのを目にし、優しく答えた、「子よ、ここにとどまりなさい。私たち二人は徹宵して神に願うことにしましょう、あなたについて神の御心が私たちに示されるように、私たちのことを知り、ふさわしいことをお示しになるのは、神のみが為しうることです」。8 マカリオスは説得されてとどまり、老師から神の教えを楽しんだ。

9 既に没した日の入りの頃、彼らは祈りをし、多少のパンを味わった。 そして体に中庸の休息を与え、祈りのために立ち上がった。

XIII マカリオスに関する幻

1 さて、相当の間眠らずに祈り続けており、精神を上に[高めて]保っていた老師は、精神の目が開かれて、――おお、汝が裁きよ、王キリストよ、将来の事の次第と戦いとをただひとりご存じのお方――白い服を着て翼のようなものをつけている修道者たちの群れがマカリオスを取り囲み、次のように叫んでいるのを見たように思った。「立て、マカリオスよ、お

έχόντων, «' Ανάστηθι, ὧ Μακάριε,» βοώντων, «ἀρζόμενος τῆς δεδειγμένης σοι διακονίας καὶ μὴ ἀναβάλλου' καιρὸς γὰρ οὐκ ἔσται σοι ἀναβολῆς οὖτος.» καὶ ταῦτα μὲν τὰ τῆς ὀράσεως.

2 ὁ δὲ θεῖος ἀνὴρ ἐκεῖνος ἐκπλήξει τῶν τῆς ὀπτασίας θεαμάτων συνείχετο καὶ μέχρι πρωὶ διαπορούμενος τί δήποτε βούλεται εἶναι περὶ τὸν Μακάριον, διελογίζετο τὰ τῆς ὄψεως. 3 ἔπειτα τῷ Μακαρίῳ φησίν· «᾿Ο βούλει, τέκνον, ποιεῖν, ποίει· ὁ γὰρ Θεὸς συνεργός σοί ἐστιν ἐπὶ πολλῶν σε προσκαλούμενος σωτηρίαν. τοιγαροῦν μὴ ἔστω σοι μέλλησις, μηδὲ τῶν θείων ἔργων ἔση ὑπερθετικός.» 4 ταῦτα εἰπὼν τὴν ὀπτασίαν ἐξήει, καὶ ἵνα μὴ ὡς ἀπείραστος τοῦ σκοποῦ ἀμαρτάνη, διαθέμενος καὶ αὐτὸς τὰ δοκοῦντα αὐτῷ περὶ αὐτοῦ, πόρρω τούτῳ οἰκεῖν ἐξέπεμψε τῆς κώμης ἔν τινι κελλίῳ. 5 οὐ γὰρ ἦσαν, ὡς ἔφθημεν εἰπόντες, μοναστήρια καὶ οἱ τῆς ἐρήμου πολιταί· μόνος γὰρ τότε ὁ μέγας [Β f. 196²²] τῶν ἀσκητῶν ᾿Αντώνιος οἰκήτωρ ταύτης ἐτύγχανεν ὤν, ὃς πρὸ πάντων ὡς πρωταριστεὺς εἰς μονομαχίαν τῶν ἀσράτων εἰσήει, πάντας προσκαλεσάμενος τοὺς λεγεῶνας εἰς πόλεμον καὶ νικήσας ὡς ἄριστος τροπαιοῦχος· ἀλλὰ μὴν καὶ Παῦλος ὁ Θηβαῖος τότε τῆς ἡσυχίας ἐπιλαβόμενος λέγεται καὶ ἔν τινι σπηλαίφ καθεῖρκτο, πρῶτος εἰς τὰ ἐνδότερα τῆς ἐρήμου γενόμενος.

XIV マカリオス、修道生活を始める;司祭への叙品

1 ΄Ο δὲ Μακάριος οἴκαδε εὐθέως ἐπανίει, τῷ θείῳ πειθόμενος γέροντι, καὶ πάντα τὰ αὐτοῦ πτωχοῖς καὶ ἐνδεέσι διανειμάμενος, ἄπωθεν (30) τῶν τῆς κώμης θορύβων ἀναχωρῶν, καθὼς πρὸς ἐκείνου διετέτακτο ἔν τινι δωμάτιῳ ῷκησε, καὶ μόνος πρὸς μόνον ἦν ἀνυμνῶν καὶ δοξάζων τὸν πάντων Θεὸν καὶ αὐτῷ τὰς αἰσθήσεις καθαίρων καὶ τὸν νοῦν [A f.190^r] ἀνυψῶν διὰ τῶν συνεχῶν προσευχῶν.

2 έπεὶ δὲ τὰ ἐκείνου λαθεῖν τὴν κώμην οὐκ ἔδει ἀριστεύματα, ἀλλὰ καὶ

296

⁽³⁰⁾ ἄπωθεν] scripsi; Α ἄποθεν

前に示された務めを始めるために、ぐずぐずするな、お前にはそのような 猶予のいとまはないのだ | これが幻に関することである。

2 かの神の人はその幻の光景に対する驚きに捕えられ、これは一体マカリオスについて何を意味するのかと朝まで思案し、幻について思いめぐらしていた。3 それから彼はマカリオスに言った、「子よ、したいことをしなさい。神はお前に伴って働き、お前を多くの人の救いのために召しておられるのだから。だから先延ばしをせず、神の業に遅れをとらないようにしなさい」。4 こう言って、彼は幻のことを語り、そしてマカリオスが経験のない者のように的をはずすことのないよう、彼はマカリオスについて良いと思われることを自ら按配し、村から離れてとある僧房に住むよう彼を送り出した。5 というのも、先に述べたように、当時修道院もなければ砂漠の市民もいなかったからである。つまり当時、偉大な禁欲者アントニオスだけが砂漠の住人であり、彼はすべての人より前に第一の勇者として、見えない諸力との一回勝負へと突入しており、すべてのレギオンを戦いへと召集し、最良の勝利者としてそれらを負かしたのである。また当時テーバイ人パウルスが、静寂を手に入れたと言われており、砂漠の奥地に初めて入った者として、とある洞窟に閉じ込もっていたのである。

XIV マカリオス、修道生活を始める;司祭への叙品

1 マカリオスは、聖なる老師 [の言葉] に従って直ちに家へ行き、貧しい人々や窮乏している人々に自分のものを皆分け与え、村の喧騒から離れて退き、かの人から命じられていたようにとある住まいに住みつき、一人自らに向き合い、万物の神を讃美し崇め、自らの感覚をきよめ、不断の祈りによって精神を高めていた。

2 彼の功業に村 [の人々] が気づかずにいることはありえなかったのであって、彼はすべての人を驚嘆させ、そして、マカリオスが司祭の按手を

297

θαυμάζειν ἐποίει ἄπαντας καὶ κέρδος οὐ βραχὺ ἡγεῖσθαι τὸν Μακάριον [Β f.196^{να}] εἰς ἱερέα χειροτονηθῆναι καὶ ὑπὲρ αὐτῶν ἱερουργεῖν καὶ προσεύχεσθαι τοῦτον ἀξιωθῆναι ἀμέλει, ὡς εἶχον ἄπαντες πρὸς τὸν ἀγιώτατον ἐπίσκοπον ('Αγρίππας δὲ ἦν ὁ τηνικαῦτα τὸ τῆς ἐκκλησίας ἔχων πηδάλιον) παραγενόμενοι, τὸν Μακάριον ὑπ' αὐτοῦ πρεσβύτερον ἡξίουν χειροτονηθῆναι. 3 δυσωπηθέντος δὲ τοῦ προέδρου τὰς τούτων ἱκετείας, οὐχ ἥκιστα δὲ τὴν ἐκείνου ἐκλάμψασαν ἀρετήν, καὶ πληρῶσαι τούτοις τὸ σπουδαζόμενον ὑποσχομένου, παραυτίκα τὸν ὄντως Μακάριον καταλαβόντες, ἄκοντα τοῦτον καὶ μὴ βουλόμενον, πρὸς τὸν ἐπίσκοπον ἄγουσι, καὶ χειροτονηθέντα ἐπανάγουσι τῷ τῆς ἀναχωρήσεως καταλύμματι, νῦν μὲν τῶν τῆς ἡσυχίας καρπῶν ἡδέων ἐμφορηθῆναι, νῦν δὲ ὑπὲρ τοῦ λαοῦ τὴν ἀναίμακτον θυσίαν θύειν καὶ μυσταγωγηθῆναι.

4 ή δὲ χάρις πηγὴν ἀένναον λόγων τε καὶ γνώσεως τῆ αὐτοῦ καρδία ἀνεδίδου, πολλοὺς δι' αὐτοῦ πρὸς φωτισμὸν καὶ ἐπίγνωσιν προσκαλεσαμένη· καὶ ἦν ἱδεῖν τὴν κώμην ἀγαλλιάσεως $[B\ f.196^{\text{vb}}]$ καὶ χρηστότητος ὑπόπλεων, ταῖς τοῦ Μακαρίου διδασκαλίαις ὁδηγουμένην, καὶ παντοίαις ἀρεταῖς κεκοσμημένην.

XV 悪魔との闘い

1 'Αλλ' ὁ τῶν ἀνθρώπων ἀεὶ βασκαίνων τῷ γένει καὶ τὸ καλὸν διαφθείρων, οὐκ ῷετο δεῖν ἡττημένος τοῦ Μακαρίου φαίνεσθαι, καὶ Θεὸν μὲν δοξάζεσθαι αὐτὸν δὲ βλασφημεῖσθαί τε καὶ καταφρονεῖσθαι. 2 ἀλλ' οὐδὲ τὴν πολυάνθρωπον κώμην ταῖς τοιαύταις κατακομῶσαν χρηστότησιν ἦν ἰδεῖν ἐκείνῳ μόνον τὸ δυσχερές, ἀλλ' ὅτι μήπου καὶ πάσης τῆς ἐρήμου ἄνθρωποι κατὰ μικρὸν οἰκήτορες ἔσονται τούτῳ γὰρ σφοδρῶς ἡνιᾶτο καὶ ἤχθετο. 3 ὅθεν δὴ οὐκ ἐπαύσατο διεγείρων τὰς οἰκείας δυνάμεις κατὰ τοῦ δικαίου ἐπεὶ δὲ πάσαις ταῖς αὐτοῦ μεθοδείαις χρώμενος σὺν αὐτῷ καὶ τὰς οἰκείας ἡττημένας εἶχε φάλαγγας, ἐτέρῳ τρόπῳ ὁ ἀναιδὴς τὸ κακὸν μηχανᾶται διὰ γὰρ τῶν ἀφελεστέρων χωρῶν συνεργοὺς ἑαυτῷ ἐκείνους ποιεῖται. 4 τούτῳ γὰρ εἴωθεν ὁ τῶν

受け、彼が自分たちのために聖なる務めをなし祈りを為すに値する者とされることは、少なからぬ利益であると [人々をして] 思わしめた。ともあれ、自分たちになしうることとして、彼らは皆、至聖なる司教のところにやってきて(当時教会の階梯を持っていたのはアグリッパスだった)、マカリオスに司祭の按手をしてくれるよう願った。3 [教会の] 長がこの人々の嘆願に面食らい、また特にマカリオスの徳が輝いているのに面食らい、熱心な求めの件に応じることをこの人々に請け合うと、彼らは直ちに本物の幸かなる者を、本人が求めず嫌がっているのを捕まえ、司教のもとに連れてきて、按手を受けた者を隠遁の住まいへと連れ戻し、かくて彼は或る時には静寂の甘美な果実を満喫し、或る時には民のために血の出ない犠牲を献げ、秘儀を執り行なうこととなった。

4 恵みは彼の心に言葉と知識との絶えざる泉をほとばしらせており、彼によって多くの人々を照明と知識へと招いていた。そして村が、歓喜と善性とで満たされ、マカリオスの教えによって導かれ、あらゆる種類の徳によって飾られているのを目にすることができた。

XV 悪魔との闘い

1 しかし、人間の種族をつねにねたみ、良い物をだめにする輩は、マカリオスより劣った者に見られるようなことに、また神が崇められ自分が冒瀆され軽蔑されるようなことに、なるべきではないと思った。2 また、多くの人が住む村がこのような善性を繁茂させているのを見ることは、彼にとって単に不愉快だっただけではなかった。なぜなら、人間が少しずつ、砂漠全体の住人になるかもしれない[と彼は思いもした]からである。このことが彼をひどく悲しませ、また悩ませた。3 それゆえ、彼は義人[マカリオス]に対して自分の諸力を駆り立てることをやめなかった。彼に対して自らのあらゆる術策を用いて、自分の戦闘部隊が負かされると、この無恥な者は別のやり方で悪を企てる。すなわち、より単純な所を通じて彼

299

κακών σοφιστής καταχράσθαι τῷ ἐγχειρήματι· [B f.197^{τα}] ἡνίκα ἄν τοῖς προβαλλομένοις [A f.190^ν] ἀδυνατήση, ἄλλων χρῆται μεσιτείᾳ πρὸς τὸν κατ' ἐκείνων πόλεμον, ὡς ἑτεραλκέα συναντιλαμβανομένη τῆ ἡττωμένη ἀντιπαρατάξει. 5 ἀλλὰ μὴν καὶ τοῦτο κατ' αὐτοῦ ἀντιστρέφεται, οὐ γὰρ ἄν που τοῦτο παρεχωρήθη κατὰ τοῦ δικαίου ἐπινοεῖν τὸ μηχάνημα ἐν πᾶσι δεινός, εἰ μὴ τῆς ἄνωθεν προνοίας ὁποῖος ἄν καὶ εἴη Μακάριος ἐν τοῖς πειρασμοῖς προεγνωκυίας, καὶ νικηφόρον θαῦμα οἰκονομεῖν βουλομένης τῆ ἐσωτέρα ἐρήμω τοῦτον παραπεμφθῆναι. 6 καθ' ὅτι πάντες αὐτοῦ μέμνησθε ἐν τῷ γεροντικῷ τῆς ἐκεῖσε ἀφίξεως εἰρηκότος τὴν αἰτίαν, ἀλλ' ὅμως τὰ κατ' ἐκεῖνον, οἷς ἀφόρητος συνέβη ἐπήρεια, κατὰ πόδας ὁ λόγος δηλῶσαι βούλεται.

XVI マカリオスが子どもの父? 或る中傷とその結末

1 ⁷Ην τις τῶν τῆς κώμης ἐκείνης οἰκήτωρ θυγάτριον ἔχων⁽³¹⁾ παρθένον ἔτι καὶ ἄγαμον. καὶ νομίμως ὑπό τινος νεανίσκου συζεῦξαι αὐτῷ δυσωπηθείς, ἀπηνήνατο πτωχείας ἔνεκα τοῦ ζητοῦντος τὴν αἰτίαν τῆς ἀναβολῆς θέμενος.

2 πῦρ ἤδη μνηστείας ἀμφοιτέροις [B f.197^{rb}] ἀναψάσης ἐρωτικὸν, συχνῶς τε ἀλλήλοις συναντῶσι καὶ ὀφθαλμοῖς ἀλλήλων ἀλωμένοις, ἀμφοῖν συνέβη φθαρῆναι. εἶτα ἔγκυος γενομένη κατάδηλα ἡ ἀθλία κόρη τὰ κατ' αὐτὴν ἐδεδίει τοῖς γεννήτορσι γενέσθαι, καὶ πικρῷ θανάτῷ ὑποβληθῆναι. 3 ἀμέλει τῷ δυστήνῷ νεανίσκῷ ἐκείνῷ τὴν συμφορὰν δήλην ποιουμένη, τί ἄν τοῖς γονεῦσιν ὕποπτος γενομένη ἀπολογήσαιτο, καὶ πῶς τὸν κατὰ πόδας κίνδυνον ἐπηρτημένον ἀποδράσειεν ἐκοινοῦτο. 4 ὁ δὲ ἄθλιος καὶ ἔκφρων ἐκεῖνος ὑπὸ τοῦ ἐνοικοῦντος αὐτῷ δαίμονος διδαχθείς, ἄ μιαρᾶς συμβουλῆς, τοιαῦτα τῆ κόρη συνεβούλευε «Λέγε:» φήσας, «"ὁ ἀναχωρητὴς φεῦ διέφθειρέ με πρὸς αὐτὸν

⁽³¹⁾ ἔχων] scripsi; Α ἔχον

は自分の協働者を得るのである. 4 つまり、諸悪の智恵者は、次の試みを用いるのに慣れていた. すなわち彼は、自分の前にある者たちに対して無力な時には、その者たちに対する戦いのために他の者たちを媒介としたのである――決定的な戦いのために[そうするの]と同様に、負けている側に加勢することで. 5 しかしこれもまた、彼の意に反する結果となる. というのは、マカリオスが試練においてどのような者であるかを上なる摂理が予め知っていて、かつ、勝利の奇跡を手配し、この者が奥まった砂漠へと送られることを欲するのでなければ、万事において恐るべき者がこのような手口を義人に対して企てることは許されなかったろうからである. 6 奥まった砂漠への逢着の原因を彼がゲロンティコンで語っているのを皆さんはご記憶だろうが、しかしながら本書は、耐え難い侮辱に見舞われた彼のことを、順次述べていくことにしたい.

XVI マカリオスが子どもの父? 或る中傷とその結末

1 その村の住人の一人に、処女でまだ結婚していない娘がいた。合法的に自分と結婚させてほしいと或る若者から懇願されたが、父は、願った者の貧しさゆえに、遅延の理由を示して拒絶した。

2 求愛がはや両者に愛欲の火をつけたので、二人は絶えずお互いに会い、お互いの目によって捕えられて、二人が堕落するということが起こった。その後哀れな娘は身重になり、自分のことが両親に露見し、苛烈な死に処せられるのを恐れていた。3 ともあれ娘は、下劣な若者に惨事を明らかにし、両親から疑われた時に何と弁明したものか、また、次第に迫る危険をどう回避したものか、相談した。4 悲惨で愚かなその男は、内に住む悪霊に教えられ――おお、汚れた助言よ――、娘に助言して次のように言ったのである、「こう言えよ、『何と隠遁者が、祈りのために訪ねに行った私を堕落させました。いやがって望まなかった私がこういう目に遭ったのは隠

εὐχῆς χάριν παραγενομένην, ἄκουσαν γὰρ καὶ μὴ βουλομένην ταῦτα πεπονθέναι τῆ ἐκείνου βία συνέβη." ταῦτα οὖν σοι τοῖς γεννήτορσιν ἐρωμένοις τὴν αἰτίαν ἀπολογουμένη, οὐδὲν ὄντως ὑποστήση λυπηρόν.» 5 ἡ δὲ ὡς ἐδιδάχθη τοῖς πυνθανομένοις ἀπεκρίνατο, καὶ κατ' ἐκείνου, ὢ [Β f.197^{va}] δολίου στόματος, τοῦ ὀσίου τὴν ἄνομον μίζιν ἡ ἀνοσία μεταθεμένη, «Τὸν μοναστὴν ταῦτά μοι πεπραχέναι βιαζόμενον,» ἔλεγε, «καὶ μέχρι τοῦ νῦν φόβῳ καὶ αἰσχύνη συνεχομένη οὐδενὶ δεδήλωκα.»

6 ταῦτα [A f.191] δὴ ὁ γεννήτωρ ἀκούσας καὶ οἱ λοιποὶ τῆς κόρης συγγενεῖς, ὁμοῦ ἄπαντες ἄρμησαν μετὰ θυμοῦ καὶ κραυγῆς, τὸν Μακάριον καταλαβόντες καὶ τοῦτον τοῦ οἰκιδίου ἀρπάσαντες, ἀφειδῶς ἔτυψαν, καὶ πληγὰς ἐπιθέντες παρὰ τὴν κώμην ἤγαγον εἶτα χύτρας καὶ σαπρὰ ἀγγεῖα συλλεξάμενοι καὶ σχοινίοις ἀρμόσαντες, αὐτοῦ τῷ αὐχένι ἀπαιωροῦσι. 7 ἔπειτα πῦξ μὲν ταῖς χερσὶν, λὰξ δὲ τοῖς ποσὶ παίοντες (32), ἐλκόμενόν τε καὶ καταπατούμενον ἐπὶ τοῦ ἐδάφους ἔχοντες (παραχρῆμα τῷ θανάτῷ ἄν παρέπεμψαν, εἴ γε μὴ ἄνωθεν ἦν ἡ τοῦ κρατοῦντος χεὶρ ἀλκιμωτάτη ἐνισχύουσα), «Θνησκέτω οὖτος» εἰπόντες, «ὁ πλάνος καὶ φθορεὺς τῆς ἡμετέρας κόρης, εἴπερ ἄξιός ἐστιν εἰσπράττεσθαι ἀνθ' ὧν ἔπραξεν [B f.197^{νδ}] ἀτόπων.» ταύτη τοι κατωρχομένῷ καὶ ἀπὸ τῶν παίδων παιζομένῷ, συνέπασχε τῶν πάντων οὐδείς.

8 μόνος δὲ ὁ φιλόχριστος ἐκεῖνος, ὂς ἦν ἐμπεπιστευμένος τὴν αὐτοῦ διακονίαν καὶ τὰ αὐτοῦ ἐπιστάμενος ἀριστεύματα, λίαν ἡνιᾶτο καὶ τοῖς ὀνείδεσι βαλλόμενος ἀντιλέγειν ἢ ἀπεῖρξαι κᾶν μικρὸν οὐκ ἠδύνατο. ἀλλ' ἦν συνεπόμενος μεστὸς ἀνιαρῶν, τὸν Θεὸν ἐκείνῷ γενέσθαι βοηθὸν ἐκδεχόμενος, ὃ δὴ καὶ γέγονε, καὶ ἡ προσδοκία πέρας ἔλαβεν.

9 ἐν ὅσῷ γὰρ ἦσαν καθάπερ λέοντες ἀρυόμενοι, ἀνδρῶν αἰδεσιμοτάτων ἐπέστη πληθὺς τὴν ἄτακτον ἐκείνων ὁρμὴν ἐπισχοῦσα (ἀγγέλων οἶμαι ἦν ἐκείνη ἡ ἐπιστασία καὶ οὐκ ἀνθρώπων). 10 οἵ γε τοῦτον τῶν δεσμῶν

⁽³²⁾ παίοντες] Α παίον ταις

遁者の暴力によるのです』と、両親が尋ねたらこれが原因だと説明すれば、実際何らひどい目には遭わないだろうよ」、5娘は教えられたとおり、尋ねる親たちに答え、かの聖人に対して――おお、欺く口よ――この汚れた女は不法な交わりをなすりつけて言ったのである、「修道者が暴力を振るって、私にこのことをしたのです。そして今に至るまで、恐れと恥とに捕えられて、私は誰にも話さないで来ました」。

6 男親と、娘の血縁である他の者たちとはこれを聞くと、みな怒りまた 叫びながら一斉に突進し、マカリオスを捕まえ、彼をその小屋から拉致し 去り、容赦なく殴り、傷を加えながら村の方へ連れてきた。それから、土 器や腐った器を集め、いぐさで結び合わせて、彼の首にぶらさげる。7 そ の後、手のこぶしと足の蹴りとで打擲し、引きずってきては地面に踏みつ けにして(力ある者のこの上なく勇敢な手が上からその場を支配していな かったなら、彼らは彼をすぐにも死へと追いやっただろう)、言った、「こ のペテン野郎、我らが娘を堕落させた奴は死ぬがいい、自分が犯した不行 状の報いを支払うのが相当なのだから」。こうしてひどい扱いを受け、子 どもにもからかわれていた彼に、同情する者はひとりだになかった。

8 彼に対する奉仕を任され、彼の功業を知っていた者、キリストを愛するかの [奉仕] 者だけが、ひどく悲しみ、非難にさらされ、少しでも抗弁し或いははねのけることすらできずにいた、彼は、悲しみに一杯になりながら後についてきており、神が彼 [マカリオス] の助け主となることを待ち望んでいた、すると、それが現実に起こったのであり、期待は成就を見たのである。

9 すなわち、連中がライオンよろしく咆哮していた時に、この上なく尊敬すべき人々の群れがやってきて、連中の無秩序な襲撃を阻んだのだ(この顕現は人間のものではなく天使のものだったと私は思う)。10 彼らはこの者 [マカリオス] を縄目から解き放ち、「あなたがた、ひどいことをす

λύσαντες, «Παύσασθε, ὧ οὖτοι, τὸ χαλεπὸν διαπραττόμενοι. δίκαιον γὰρ τοῦτον εὖ οἴδαμεν εἶναι, καὶ τὰ κατ' αὐτοῦ λαληθέντα συκοφαντίας καὶ οὐκ ἀληθῆ εἶναι.» ταῦτα εἰπόντες, εὐθὺς ἔλαβε πέρας τὰ δεινά, καὶ κατεσβέσθη ἡ τῶν ἀτάκτων μανία.

11 πλην δὲ οί (33) τῆς κόρης γονεῖς, ἔτι ἀνίας τε καὶ ἀπειθείας [B f.198^{ra}] πληρούμενοι, «Τίς» ἔφασκον, «ἡμῖν ἔσται τούτου ἐγγυητης τῷ τεχθησομένῳ εἰσοίσων τὴν τροφήν;» 12 ὁ δὲ ἀθλητης Μακάριος πρὸς τὸν φιλόχριστον ἐκεῖνον τὸν αὐτῷ διακονοῦντα νεύσας ήξίου αὐτὸν περὶ αὐτοῦ ἐγγυητὴν γενέσθαι. ὁ δὲ προθύμως ὑπείξας, ὡς εἶχεν ἐγγυῆσαι ἠσφαλίσατο.

13 άνεθεὶς τοίνυν ὁ Μακάριος καὶ τοῦ θανάτου ῥυσθείς, ἐν τῷ αὐτοῦ δωματίῳ ἀποκαθίσταται. [Α f.191] 14 ἔπειτα τὸν πόνον ἀποσεισάμενος, τῶν τε πληγῶν ῥωσθεὶς καὶ ἀναψύξας, ἔλεγεν ἑαυτῷ διὰ τοῦ ἐργοχείρου καθεζόμενος: «Νῦν, Μακάριε, γυναῖκα ἔχων καὶ τέκνα, νύκτωρ καὶ μεθ' ἡμέραν ἐργάζου, καὶ τρέφε αὐτήν.» 15 καὶ οὕτως ἐν σπουδῆ ὅση τὴν σειρὰν ἔπλεκε καὶ προσευχόμενος: καὶ ἐκ τῆσδε τῆς ἐργασίας βραχύ τι κατείχε χάριν τροφῆς: τὰ δ' ἄλλα διὰ τοῦ αὐτοῦ διακόνου τῆ κόρη ἐξέπεμπε, «Λάβε ταῦτα τὰ ὁρισθέντα ὑπὲρ τῆς σῆς τροφῆς» εἰπών, «καὶ τοῦ μέλλοντος τεχθῆναι παιδίου, καὶ μὴ ἐνδεὴς εἶ δαπάνης, ἕτοιμοι [Β f.198^{tb}] γὰρ αὶ χεῖρές μου τὰ πρὸς τὴν χρείαν ἄπαντα ἀναπληρῶσαί σοι.» 16 καὶ ταῦτα μὲν οὖτος ὁ γεννάδας προθύμως ὑπομείνας, θαρσαλέως τοῦ ἐχθροῦ τὰς δυνάμεις κατεπάτησε καὶ τῶν αὐτοῦ μηχανῶν ὑπέρτερος πέφηνε.

17 ή δὲ τοῦ Θεοῦ ἀνοχὴ οὐκ εἰς μακρὰν ὑπερτίθεται, οὐδὲ ἡ δίκη διαμπὰξ τοὺς πονηροὺς ἀμύνασθαι ἀναβάλλεται, ἀλλὰ καιρῷ τῷ προσήκοντι ταμιεύεται τὴν εἴσπραξιν δαψιλεστέραν παρασχομένη· ὅμως δ' οὖν διδάξων ἥκει κατὰ πόδας οἵοις δεινοῖς ὑπεβλήθη ἡ ἀνομήσασα εἰς τὸν δίκαιον. 18 ἄρτι δὴ τοῦ καιροῦ τῶν ἀδίνων ἐπιστάντος τῆς δυστήνου κόρης ἐκείνης, ἐπὶ ξυροῦ τοῦ

304

⁽³³⁾ οί] scripsi; A ή

るのはおやめなさい。この者が義人であること、彼に対して語られたことが中傷のたぐいであり真実でないことを、私たちはよく知っているのです」と言い、[かくて] 恐るべき事態は直ちに終わり、無秩序な者たちの狂気は鎮火された。

11 しかし娘の両親は、悲しみと納得しない心とになお満たされていて、言った、「誰が私たちのために、生まれてくる子に食物を与えるべく、この男の保証人になるのだ」。12 闘技者マカリオスは、自分に仕えキリストを愛するかの男に合図を送り、自分のために保証人になるよう頼んだ。彼は喜んで同意し、自分にできる限りで保証することを請け合った。

13 そこでマカリオスは解放され、死地から救われ、自分の住まいに戻っていく、14 それから、痛みを振り払い、傷から癒され休息を得て、手仕事の間じゅう座りながら自分に語っていた、「さあマカリオスよ、妻と子を得たのだから日夜働け、そして妻を養え」。15 こうして、非常な熱心さで綱を編み、かつ祈っていた、そしてこの仕事から得られるもののうち少しだけを、自分の食料としてとっておき、残りのものは例の奉仕者を通じて娘へと送り、こう言い添えた、「あなたの食料のため、また生まれてくるであろう子どものため、取り分けておいたこれらのものを食べなさい。そして出費に困らないようになさい、私の両手はあなたのために、必要なものすべてをまかなう用意があるのですから」。16 さて、この高貴な者はこれらのことを進んで耐え忍び、敵の諸力を大胆に踏みつけ、その手管に勝利する者であることが明らかとなった。

17 神の忍耐は遅くまで引き延ばされるものではなく、また、裁きは悪者どもに徹底的に復讐することを遅らせるものではなく、それはより多量の刑罰をふさわしい時のためにとっておいて、もたらすものなのであるしかしながらそこで、[話は] 少しずつやってくる――義人に対して不法を為した女がどのような恐るべき目に遭ったかを教えるために、18 今や

θανάτου ἐπέστη τὰ χαλεπά καί, ἢ δίκης δικαίας, πάσαις ἐπὶ τρισὶν ἡμέραις τῶν ὀδυνῶν παρεκτεινομένων ὑπέστη τιμωρίας ἡ τάλαινα.

19 καὶ οὐκ ἔστιν εἰπεῖν οὐδ' ὅσα οἱ γονεῖς ἔπασχον δεινῶς ταύτην κυλινδουμένην ὁρῶντες ἄντικρυς καὶ μυρίοις θανάτοις προσβαλλομένην. 20 ἐπεὶ δὲ θεηλάτου ὀργῆς καὶ οὐ φυσικῆς ἐπισχούσης δυνάμειως [Β f.198^{va}] τὸν τόκον ἤσθοντο, μεγάλην ἡγήσαντο τὴν συμφοράν, καὶ διαποροῦντες τὴν αἰτίαν γνῶναι οὐκ εἶχον' ὅθεν τὴν κόρην συχνῶς ἐρωτώμενοι «Εἰπὲ ἡμῖν,» ἔλεγον, «ὧ φίλτατον τέκνον, τί τὸ τῆς ἐπαγωγῆς ταύτης αἴτιον; 21 πότερον παρ' ὃ ἐγνώκαμεν εἰργάσω ἀνομίαν; δῆλον οὖν ἡμῖν γενέσθω εἴ τι δ' ἄν γνοίης, ὅπως τὸν Θεὸν ἐκτενεστέρας ὑπερ σοῦ ποιούμενοι εὐχὰς δυσωπήσωμεν' ἴσως σοι ἵλεως ἔσται ἐνώπιον πάντων ἐξομολογουμένη. καὶ μὴ οὕτω τὸν βίαιον θάνατον ὧδε ὑποστήση, κάκεῖ τὴν αἰώνιον καὶ ἀνύποιστον τιμωρίαν.»

22 ή δὲ στενάζουσα καὶ ἀδυνωμένη ἀπεκρίνατο «Οὐαί μοι,» φήσασα, «μυρίων εἴην θανάτων ἀξία ἔγωγε ἡ ἀθλία: [A f.192^r] 23 ἥτις οὐκ ἀρκεσθεῖσα τῆ ἀνόμφ μίξει τῆς ἐμῆς παρθενίας φθορᾶς ἐπίβουλος γενομένη, ἀλλὰ καὶ κατὰ τοῦ Θεοῦ θεράποντος ἐκείνου τοῦ ἀναχωρητοῦ φεῦ συκοφαντίαν συρράψασα τῆς φθορᾶς τοῦτον αἴτιον τῆς ἐμῆς [B f.198^{vb}] ἐποιησάμην, βραβευτὴν ὄντα πάσης σωφροσύνης καὶ ἄριστον διδάσκαλον τῶν ἐντολῶν τοῦ κυρίου. 24 οὐχ οὖτός ἐστι, μὴ γένοιτο· ἀλλ' ὁ δεῖνα νεώτερος τῆς ἐμῆς φθορᾶς γέγονεν αἴτιος.»

25 ταῦτα ἀκηκοότες οἵ τε γεννήτορες καὶ οἱ παρόντες συγγενεῖς ἀπηνεώθησαν καὶ ἔκθαμβοι ἦσαν. καὶ τἱ ἄν γένοιντο ἀπειρηκότες, ἀθυμίας τε καὶ ἀηδίας σφόδρα ἀνεπίμπλαντο. 26 καὶ ἑαυτῶν κατεγνωκότες «Οὐαὶ ἡμῖν,» ἀνεβόων, «τἱ ἐδράσαμεν; καὶ πῶς ἐτολμήσαμεν κατὰ τοῦ θείου ἀνδρὸς ἐκείνου μηδὲν ἄτοπον δεδρακότος θρασυνόμενοι ἀτάκτως κινηθῆναι; οἱ καὶ τοῦτον παρανόμως τιμωρήσαντες καὶ ἀναιδῶς θριαμβεύσαντες παντοίοις εἰδέσι τῶν αἰκισμῶν ἡμυνάμεθα, ἀσπλάγχνως σύροντες καὶ διωθοῦντες, τῶν ἄνω κεραυνῶν κατεχομένων Θεοῦ μακροθυμοῦντος, τὴν εἴσπραξιν τῆς [B f.199^{ra}]

その哀れな娘の陣痛の時が来たり、難事が死のかみそりの上にあり、そして――おお、義なる裁きよ――まる三日間陣痛が続き、悲惨な女は罰を耐え忍ぶこととなった。

19 この女が恐ろしく転げまわり、幾千もの死に打ちつけられるのを目の当たりにして、両親がいかほど苦しんだかは、えも言われぬことである。20 自然の力でなく神から来る怒りが出産を阻んでいるのを彼らは見てとり、この災難は大いなるものだと思って途方にくれ、その原因を悟ることが彼らにはできなかった。そこで彼らは、娘にひっきりなしに尋ねて言った、「私たちに言ってくれ、愛する子よ、何がこの惨状の原因なのかを。21 私たちが知っていること以外にどんな不法をお前はしたのだ。お前が何か知っているかどうかが私たちに明らかになるように、私たちがお前のためにより熱心な祈りをして、神にお願いすることができるようにさせてくれ。お前がすべての人の前で告白すれば、或いはお慈悲があるかもしれない。そしてここで、お前がこのようにして暴虐な死に就くことがないように、またかしこで、永遠の耐え難い罰を受けることがないようにし

22 うめき苦しむ女は答えて言った,「私はわざわいです,この惨めな女は幾千もの死に値するがよいのです.23 不法な交わりで自分の処女性の破壊を企てる者となっただけではおさまらずに,ああ私は,神に仕えるかの隠遁者に対して,中傷を投げかけ,この方を私の堕落の原因に仕立てたのです,あらゆる純潔の判定者,主の戒めの最良の教師であられる方なのに.24 断じてこの方ではありません.そうではなく,某という若者が私の堕落の原因となったのです」.

25 親たちと居合わせた親戚とはこれを聞くと、言葉を失い仰天した. そして、自分たちが何をしたかを否んで、落胆と嫌悪の念とに圧倒的に満たされた。26 そして自らを罪して叫んだ、「私たちはわざわいだ、何をしでかしたのだ。どうして、何ら悪を行なわなかったかの神の人に対して、厚かましくも目茶苦茶なことをしたのだろう――上なるいかずちがとどめられ、私たちの酩酊に対する報いをすることに対して神が忍耐強くあられ ήμῶν παροινίας ἀποδοῦναι 27 ἀλλ' ἀπίωμεν τάχιστα καὶ τοῖς ἱεροῖς ἐκείνου προσπέσωμεν ποσί, συγγνώμης δεόμενοι ὑπὲρ ὧν εἰς αὐτὸν παρωνήσαμεν.»

28 ταῦτα δὴ ἐκείνων εἰρηκότων ἀκούσας ὁ τοῦ ἀγίου διακονητής, ὡς εἶχε τάχους παραγίνεται πρὸς αὐτόν, χαίρων καὶ ἀγαλλόμενος, καὶ πάντα διεξήει τὰ συμβάντα τῆ κόρη, καὶ «Εὖγε ἡμῖν,» τῷ Μακαρίῳ ἔφη, «ὧ πάτερ· ἡ σήμερον λαμπρὰ καθέστηκεν ἡμέρα, τῆς ἄνω χειρὸς εἰς κλέος μεταβάλλεσθαι τὰ ὀνείδη ποιουμένης. 29 κἀντεῦθεν ἀνύποπτος μὲν ἔγωγε τῆς ὑπὲρ σοῦ μαρτυρίας ἔσομαι, καὶ πάσης ἐλεύθερος ἐγγυήσεως· σὰ δὲ ἀπαθὴς καὶ δίκαιος τοῖς πασιν ὀφθήση, καὶ πανευκλεὴς ἀθλητής. 30 τοῖς γὰρ ἀδίκοις πέρας ἡ δίκη εἴληφεν, οἶα εἴωθεν τοῖς πονηροῖς ἡ ἔνθεος ἀνοχὴ ἡμέραν ταμιεύεσθαι πονηράν· ἐκείνη γὰρ τῆ γυναικὶ ἔνδικος ἐπέστη ὅλεθρος τῆς οἰκείας συκοφαντίας ἕνεκα. 31 καὶ ἰδοὰ οἱ τῆς κώμης [Β f.199^{rb}] οἰκήτορες παραγίνονται ἄπαντες, συγγνώμην αἰτήσασθαι βουλόμενοι ὑπὲρ τῶν εἰς σὲ πλημμεληθέντων.»

32 ταῦτα ἀκούσας, [A f.192°] ὁ θεῖος Μακάριος τὸν⁽³⁴⁾ μολυσμὸν τῆς ματαίας δόξης ἀποστρεφόμενος, τῆς πρὸς αὐτὸν τοῦ πλήθους ἀφίξεως οὐκ ἠνέσχετο, ἀλλὰ διαδράσαι ἐκ τοῦ οἰκίσκου εἰς ἕτερον ἐπενόει.

XVII ケルビムの登場

1 Έπεὶ δὲ τῆς θείας λειτουργίας κατεπείγοντος τοῦ καιροῦ, ἀνέστη τὴν θείαν τελῶν μυσταγωγίαν, μετασχεῖν τῶν θείων βουλόμενος μυστηρίων, εἶθ' οὕτως ἄψασθαι τῆς ὁδοιπορίας. 2 εἰς πέρας οὖν τοῦ θείου ἔργου ἐλθόντος, καὶ ἤδη τὴν ἀναίμακτον ἱερουργοῦντος θυσίαν, αὐτίκα οὐρανόθεν

⁽³⁴⁾ τὸν] scripsi; A τὸμ

たものだから、不法にもこの方を罰し、恥知らずにもあらゆる種類の暴虐で勝ち誇って、無慈悲に引きまた突きして復讐を行なった、この私たちは27 さあ、なるべく急いで行って、かの方の聖なる御足に取りすがろう、あの方に対して私たちがひどいことをした所以となったことについて、お赦しを乞うために」.

28 彼らがこう言ったのを聞いて、聖人の奉仕者はできるだけ急いで、彼のところに喜び歓喜してやってきて、娘に起こったすべてのことを語った。そしてマカリオスに言った、「私たちはよくやりました、師父よ、上なる御手が恥を名声に変えてくださって、今日は晴れ晴れした日になりました。29 これからは私は、あなたのための証で疑われることはないでしょう。そして、あらゆる保証から自由の身となるでしょう。あなたは皆の目に無情動な方、義人、そして、全く評判の良い闘技者と映ることでしょう。30 神の忍耐は悪人たちのために悪い日を用意しておられるのがつねである、そのごとくに、不義なる者たちに裁きが到来したのですから。自らの中傷のゆえに、あの女には義なる破滅が到来しました。31 そして、ご覧なさい、村の住人たちが皆やってきますよ、あなたに対して犯した過ちのために赦しを乞うために」。

32 これを聞くと、空しい栄光の汚れを避ける人である聖なるマカリオスは、群集が自分のところにやってくるのに耐えられず、今の住まいから別の住まいへと逃れようと考えていた。

XVII ケルビムの登場

1 聖なる務めの時が迫ってきて、彼は立ち上がり、聖なる儀式を行なった。神の秘跡に与るため、それから旅路に就くためである。2 そこで聖なる業の終わりに至り、はや彼が血の出ない犠牲を献げたところ、直ちに天からケルビムが下ってきて、聖なる祭壇のわきに立った。見る者にとって

309

χερουβεὶμ κατιὸν τῷ θείῳ θυσιαστηρίῳ παρίστατο, θέαμα φρικτὸν τοῖς ὁρῶσι καὶ λίαν φαιδρόν ἐξαπτέρυγον πολυόμματον τοῖς οἰκείοις χαρακτήρσι κομιδῆ κεκοσμημένον.

3 κατανοήσαι δή την φαιδρότητα της μορφής έκείνης ὁ Μακάριος μή δυνάμενος, τῶ [B f.199^{va}] ἐδάφει πρηγής ἐπιπεσών, ἔμεινε πεπηγώς νεκρῶ έοικώς. 4 τὸ δὲ θεῖον ἐκεῖνο χερουβεὶμ⁽³⁵⁾ τούτω προσπελάσαν, καὶ τῆς τοῦ Μακαρίου κρατήσαν χειρός «Ἐγερθείς, ὧ Μακάριε,» ἔφη, «τρόμου παντὸς καὶ φόβου ἔσο χωρίς και γαρ έγω της των χερουβιμ ὑπάρχω τάξεως, ἀποσταλὲν δοῦναί σοι χείρα βοηθείας ἐν γῇ εὐθεία ὁδηγόν. 5 τοιγαροῦν ἐπιμνησθῆναι τῶν πάλαι σοι γεγενημένων ὄψεων, καὶ μὴ τελείως ἐπιλησθῆναί σε χρὴ τοῦ προδειχθέντος σοι τόπου ὃν οἰκῆσαι μέλλεις καὶ πατὴρ γενέσθαι πολλῶν τέκνων, ώς προώρισται, πνευματικών έν αὐτώ. 6 πλην οὖν οὐκ ἀγεννώς ὑπέμεινας τούς άνθρωπίνους πειρασμούς Θεού συγχωρούντος, ὅπως τέλειος αὐτῷ διὰ τούτων ὀφθήση, ἄμα καὶ πειρασθήση πρὸς τὴν τῶν ἀοράτων παράταζιν ἀντιτάττεσθαι έν ταῖς ἐσομέναις σοι πρὸς τούτων προσβολαῖς. 7 μέλλεις γὰρ πειρασθείναι ταίς τῶν δαιμόνων ἐπηρείαις ἀφορήτως καὶ ποικίλως εἰ [Β f.199^{vb}] καί τις άλλος, καὶ πολλὰ ὑποστῆναι δεινά: άλλὰ τῆς κραταίας θάρσει οὐκ ἀπολειφθήση βοηθούμενος χειρὸς κυρίου, ἥτις διὰ ταῦτα λαμπροτέρω τελειωθήναι στεφάνω βούλεται. 8 άλλ' άγε δη την θείαν τελείωσον μυσταγωγίαν, καὶ τοῦ τιμίου σώματος μετάσχου καὶ αἵματος τοῦ μονογενοῦς καὶ θείου λόγου, ὅπως σοι δύναμις προσληφθείη στηρίζουσα καὶ ἀγνίζουσα τὰ αἰσθητήριά σου, καὶ πρὸς θεῖον ἔτι διεγείρουσα ἔρωτα. 9 εἶθ' οὕτως πάσης ἀναβολῆς άφέμενος τῶν τῆδε [Α f.193^r] μετανάστης γενόμενος, ἐκεῖσε μετάβηθι οὗ σοι δι' ἐμοῦ δειχθήσεται· ἐγὼ γὰρ ἐλεύσομαι καὶ ὁδεύσω σοι διὰ τῆς νυκτὸς ταύτης καὶ γνῶσις οὐδενὶ ἔσται τῶν παρενοχλούντων σοι ἐνθένδε ἀπάραντι. 10 τοιγαρούν ἄπαν ἀπὸ σοῦ ἀποσείου δέος, καὶ ἔτοιμος ἔσο τῆς ἐνθέου ἐπιλα-

310

⁽³⁵⁾ χερουβείμ] Α χερουβίμ

は恐るべき、またきわめて輝かしい光景である。実にケルビムは、六つの 翼と多くの目と、独自の諸々の特徴とによって、身を装っていた。

3 その形の輝きのわけをマカリオスは理解できず、床に倒れ、硬くなっ たままで死人のようだった。4かの聖なるケルビムはこの者に近づいて。 マカリオスの手を摑んで言った、「起きよ、おおマカリオス、いかなる震 えも恐れも抱くな、私はケルビムの序列のもので、まっすぐな地において、 お前の導き手として助けの手を差し伸べるべく遣わされたのだ. 5 だから、 前にお前に現れた幻を思い出し、以前にお前に示された場所を全く忘れて しまわないようでなければならない。お前はそこに住み、そこにおいて、 予め定められたように、多くの霊的な子らの父となるのだ、6 さてそれに しても、神のお許しのもと、お前は数々の人間的な試みに、卑しくない仕 方で耐え抜いた、これらを通じて神の目に完全な者と見られるようになる ためだ。またお前は、見えない諸力からお前に対して今後加えられるだろ う攻撃の中で、それらとの対峙で耐え抜くよう、試みられるだろう、7 実 際 お前は悪霊どもの攻撃によって、耐え難いほどに、またさまざまな仕 方で、他の誰よりも試みられることとなろう、また、恐るべき多くのこと を耐えることとなろう。しかしお前は、主の力強い手の勇気によって助け られるので、取り残されはしないだろう、その御手はこれらのゆえに、よ り輝かしい冠によって[お前が]完全な者となるのを欲しているのだ.8 さあ、聖なる秘儀を営み終わらせよ、そしてひとり子なる神の言葉の尊い 体と血とに与れ、お前の感覚をしっかりさせきよくし、さらに神的な愛へ と促す力がお前に増し加えられるために、9 それから、いかなる引き延ば しも捨ておいて、この地を離れるさすらい人となって、私がお前に示す所 へと行きなさい、私は来て、この夜の間お前のために旅をするだろう、そ して、ここから出発するお前を悩ませるようないかなる者にも、知られる ことはないだろう。10 だから、あらゆる恐れを振り捨てなさい、そして、

XVIII マカリオス、ケルビムに導かれて砂漠に向かう

1 'Ο δὲ Μακάριος ὡς ἐδιδάχθη πεποίηκεν' ἐλθούσης δὲ τῆς νυκτὸς ἔστη ἐν [Β £200^{ra}] προσευχῆ ὡς εἰκός, διὰ τῶν νυκτερινῶν ἀδῶν τοῦ Θεοῦ δεόμενος.

2 καὶ εὐθὺς ἀντικρὺ αὐτοῦ στύλος ὡράθη πυρός, ὢ φρικτῆς ὄψεως, ἀπὸ τῆς γῆς εἰς οὐρανὸν ἀφικνούμενος, τὰς ἡλιακὰς ὑπερβάλλων ἀκτῖνας, λίαν ὑπέρλαμπρος κατὰ τὸν πάλαι ἐκεῖνον τὸν ἐν ἐρήμῳ τὸν Ισραὴλ ὁδηγήσαντα. 3 ἐκπληττομένῳ δὲ τῷ Μακαρίῳ «Ἐγώ εἰμι τὸ χερουβείμ,» φωνὴ ἐκ τοῦ στύλου αὐτῷ ἡκούετο· «στερεώθητι τῷ ἀηττήτῳ δυνάμει τοῦ Θεοῦ, καὶ μὴ δέδιε, ἐμοί τε ἐπείγου ἐπόμενος.» 4 ὁ δὲ τὴν φωνὴν συνιὼν ἐκεῖνο εἶναι τὸ χερουβεὶμ μεταμορφωθὲν εἰς στύλον πυρός, καὶ εὐθὺς τῷ οἰκίσκῳ «Χαίρειν» εἰπών, μηδέν τι ἐξ αὐτοῦ εἰληφώς, ἐξιὼν συνεπορεύετο πεφωτισμένος καθάπερ ὁ θεόπτης πάλαι τὸν λαὸν ὁδηγήσας Μωϋσῆς, μὴ τραπεὶς τῆς ἐν τῷ ἐρήμῳ φερούσης πορείας.

5 δύο δὲ διελθουσῶν ἡμερῶν, διεσφθη ἐν τῷ ὅρει τῆς Νιτρίας, καὶ πάντα περιιὼν ἐπεδείξατο τὸν τόπον τῷ Μακαρίῳ. 6 ὁ [Β f.200^{rb}] δὲ «Καὶ ποῦ» φησίν, «οἰκήσω, ὧ θεία δύναμις;» 7 «Ὅπου δ' ἄν συ βούλοιο,» τῷ Μακαρίῳ ἀντεφθέγξατο· «καν ἔγωγέ σοι περιορισμὸν δίδωμι ἐνθάδε ἢ ἐκεῖσε οἰκεῖν, τοῖς τῆς ἀκηδίας ὑποβληθήση δεινοῖς διαλογισμοῖς, εἶθ' οὕτως ἀποστάτης ὀφθήση, παραβαίνων τὴν ἐντολήν. 8 ἀλλὰ δεῦρο δὴ οἴκησον οὖ σοι ἔνεστι πόθος, δοκιμάζων καὶ ἐν παντὶ τόπῳ προσέχων· τοῦ δὲ ὄρους παραχωρούμενος ἔση, ρῷον γὰρ ὑποφέρει τις (36) ἄπαν δ ἐν ἐπιγνώσει καὶ γυμνασία προκαταβάλλεται.» 9 καὶ ὁ μὲν φανεὶς ταῦτα εἰπών, «'Εγώ σοι» προσθείς, «ὀφθήσομαι ὅταν ὁ Θεὸς εὐδοκήση,» ἀφανὴς ἐγένετο.

⁽³⁶⁾ πς] scripsi; A τίς

神の隠遁にとりかかる用意を万端にしておきなさい」 こう言って彼はその場から離れた.

XVIII マカリオス、ケルビムに導かれて砂漠に向かう

1 マカリオスは教えられたとおりに行なった。そして夜が来ると、祈りのうちにしかるべく立ち。夜の歌を通じて神に願っていた。

2 するとすぐ、彼の真正面に火の柱が現れた――おお、恐るべき光景よー―. 地面から天に届くほどで、日の光を凌ぎ、その昔イスラエルを砂漠で導いたもののように、きわめて非常に明るかった。3 驚くマカリオスに、柱の中から声が聞こえてきた。「私はケルビムだ、神の不敗の力によってしっかりせよ、そして恐れず、私に従って急ぎなさい」。4 マカリオスはその声を、火の柱に変貌したかのケルビム [のもの] だと悟り、そしてすぐに自分の住まいに「さらば」と言い、そこから何も取らずに外に出て、かつて民を導いた見神者モーセよろしく、照明を受けて一緒に歩いた――砂漠に通じる道から迷い出ることなく。

5 二日経って、彼は無事ニトリアの山にたどり着き、そして[ケルビムは]経めぐって場所全体をマカリオスに示した。6 マカリオスは言った、「どこに住みましょうか、おお神の力よ」。7「お前が望むところに」と[ケルビムは]マカリオスに答えた、「どこそこに住むようにと[住む場所の]境界を私がお前に与えても、お前は倦怠の恐るべき思念に服せしめられ、その後、戒めに違背して離反者とみなされることになろう。8 むしろ、さあ、お前の願いのあるところに住むのだ、吟味し、そしてどこにあっても注意しつつ。お前はこの山から隠遁することとなろう、というのも人は、知識と鍛錬があるところにもたらされるものは、何であれ、より耐えやすいからだ」。9 そして、現れた者はこう言ってから、「神がよしとされる時にはいつでも、私はお前の前に現れるだろう」と付け加えて、見えなくなった。

XIX マカリオス、洞窟に住む;悪霊との闘い

1 'Ο δὲ Μακάριος τὴν ἔρημον περιιών, πλησίον πηγῆς εὖρεν ἐπιτήδειον τόπον, καὶ σπήλαιον ἐν αὐτῷ ὀρύξας ἐκεῖσε ῷκησεν. εἶτα ὀχληθεὶς ὑπὸ τῶν ἀφικνουμένων, ἔτερον πορρωτάτω τοῦ ὕδατος λατομήσας ἐν τούτῷ κατεσκήνωσε. 2 λέγεται δὲ καὶ παρὰ τόδε τὸ σπήλαιον [A f.193] σπάδωνες (37) δύο ἀσκηταὶ [B f.200^{να}] γενόμενοι γένος 'Ρωμαῖοι, ἐν ταῖς ἐφεξῆς κατασκηνώσαντες χρόνοις ὑπὸ τῶν βαρβάρων ἀνηρέθησαν. 3 εἶτα μετά τινα χρόνον ἔτερον τῆς προσευχῆς ἀνέδειξε τόπον, καὶ ἕτερον τῆς σειρᾶς, ταύτην γὰρ εἶχεν ἐργόχειρον. καὶ τοῖς ἐκεῖσε παραγινομένοις καμηλίταις διὰ νίτρον τὸ ἐργόχειρον διδούς, πωλῆσαι κελεύων καὶ ἄρτον ἀνήσασθαι, διετρέφετο.

4 ἐπεὶ δὲ ἡ τῶν κατοικούντων ἐκεῖ δαιμόνων πληθὺς ὑπόπλεω τὸν Μακάριον θάρσους ὁρῶσα, ἄμα καὶ θείῳ πυρπολούμενον ἔρωτι, καὶ τὴν ψυχὴν διὰ τῶν ἀρετῶν φαιδρυνόμενον, περιεκύκλωσαν αὐτὸν δίκην σμήνους μελισσῶν, πάντοθεν θηριωδῶς ὁρμῶσα· ἐπεὶ δὲ ἤνυσεν οὐδέν, ἀνιαθεῖσα καὶ ὁλολύζουσα ἀνεχώρησεν. 5 οὐδέπω γὰρ ἡ ἀκάθαρτος ἐκείνη τῶν δαιμόνων φάλαγξ ἦν κατὰ τοῦ Μακαρίου ἐξουσίαν λαβοῦσα (τοῦ Θεοῦ μὴ συγχωροῦντος), ἔτι ἀπείρου ὄντος, μηδέπω ἔτι ὀφθέντος [Β f.200^{νb}] ποθὲν ὁδηγοῦ ἐν τῆ ἐρήμῳ, ὃς πρὸς πάλην τῶν ἀοράτων ἐπαλείφειν δύναται καὶ ἑτέρῳ συναντιλαμβάνεται.

XX アントニオスを初めて訪問

1 Έπὶ τρισὶν οὖν ἔτεσι τῆ ἐρήμῳ ἐκείνη συναυλισθείς, κατὰ μόνας Θεῷ προσομιλῶν, καὶ τὴν διάνοιαν ἐκ τῶν κάτω πρὸς οὐρανὸν ἀνυψῶν, ἐπεὶ οὐκ ἐξὸν ῷετο τὰς προσβολὰς τῶν ὑπεναντίων καὶ τοὺς ἀκαθάρτους λογισμοὺς ἐπιγνῶναι καλῶς ἄνευ διδασκαλίας καὶ ἐμπείρου συνομιλίας, ἀλλ' οὐδὲ τῶν ἀρετῶν περιγενέσθαι εὐχερῶς τούτων χωρίς, καὶ τί ἄν καὶ δράσειεν οὐκ εἶ-χεν, «Ἄπειμι» ἔλεγε, «πρὸς τὸν μέγαν 'Αντώνιον' 2 καὶ γὰρ περὶ τούτου πά-

⁽³⁷⁾ σπάδωνες] scripsi; Α σπαδώνες

XIX マカリオス、洞窟に住む;悪霊との闘い

1 マカリオスは砂漠を行きめぐって、泉の近くに適当な場所を見つけ、洞窟を掘ってそこに住んだ。その後、やってくる者たちに悩まされて、水から遠い別の場所の石を切り出して、そこに滞在した。2 こちらの洞窟のそばで、ローマ人で禁欲者となった二人の宦官が、後の時代に住まって、蛮族によって殺されたと言われている。3 それから少し後に、一つの場所を彼は祈りの場所とし、もう一つの場所を網の場所とした。というのは、彼は網を手仕事としていたからである。そして、硝石のためにそこにやってくるらくだ引きたちに手仕事[の成果]を渡し、それを売ってパンを買うよう命じ、養いを得ていた。

4 そこに住まう悪霊どもの群れは、マカリオスが勇気に満たされ、また 同時に神の愛によって燃え立っており、そして魂を諸々の徳によって輝か せているのを目にして、蜂の群れのように彼を取り囲み、至るところから 獣のように攻撃したが、何もできなかったので、悲しみ叫びながら退いた. 5 というのも、マカリオスがまだ未経験であり、見えない諸力の戦いに対して [マカリオスを] 励ますことができかつ他人を助けられる導き手が、砂漠で未だ現れていないため、悪霊どものこの汚れた軍団は、(神がお許しにならず) マカリオスに対する権限を得ていなかったからである.

XX アントニオスを初めて訪問

1 そこでマカリオスはその砂漠に三年間住んで、ひとりで神と交わっており、思惟を下から天へと高めていたが、その彼は、敵対する者どもの攻撃と汚れた思念とを、教えなしに、また経験者との語らいなしに、十分に知ることはできないと思っていたので、また、これらの者どもをたやすく打ち負かすことは徳なしにはできないと思っていたので、そして、何をしたらよいかわからなかったので、「偉大なるアントニオスのところへ行こ

λαι ἡκηκόειν ἔτι ὢν ἐν τῷ κόσμῳ, ὅτι τε (38) τὴν ἔρημον οἰκῶν χρόνους εἶχε συχνούς, καὶ ὅτι πεῖραν ἔσχηκε τῆς ἀγγελικῆς πολιτείας. 3 καὶ ἤδη τούτῷ ἐντυχὼν τὰ κατ ἐμὲ πάντα δηλώσω, καὶ οἴαν δόξει τῆ ἀρίστη αὐτοῦ συμβουλίᾳ μετελεύσομαι διαγωγήν· καὶ εὐθαρσὴς γενόμενος [B f.201^{ra}] ἐπανιὼν ἀδιστάκτως πολιτεύσομαι ἐν ῷ ὁ Θεὸς προσεκαλέσατο τόπῳ.» 4 ταῦτα εἰπὼν καὶ εὐχὴν ποιησάμενος· « Ἐπὶ σοὶ πεποιθώς εἰμι, ὁδηγὲ Χριστὲ τῆς σωτηρίας· χεῖρά μοι ὄρεξον ὁδηγοῦσαν τῆς παντοκρατορικῆς σου δεσποτείας,» τῆς ὁδοῦ ἡψατο.

5 καταλαβών τοίνυν τὸ ὄρος τοῦ Φαράν, καὶ τῷ μεγάλῳ [A f.194^r] 'Αντωνίῳ παραβαλών, ἡδέως ἠσπάσατο τοῦτον, καὶ πάντα καθεξῆς τὰ κατ' αὐτὸν διηγήσατο τούτῳ. 6 ὁ δὲ μέγας καὶ θεῖος ἀνὴρ 'Αντώνιος ἀσμένως αὐτὸν δεξάμενος, «Καλῶς ἦκες πρὸς ἡμᾶς, ὧ τέκνον Μακάριε,» εἶπε· «μεγάλας οὖν τῷ Θεῷ τὰς χάριτας ὁμολογῶ τῷ τῆς σῆς σήμερον ἀξιώσαντι ἀπολαῦσαι θέας. 7 πρὸ γὰρ πολλῶν γε ἡμερῶν τά τε κατὰ σὲ καὶ τὴν πρὸς ἡμᾶς σου ἔλευσιν ὁ πάντων κύριος δεδήλωκέ μοι· ὅθεν κἀγὼ καραδοκῶν λίαν ἐφιέμην ταύτην ἱδεῖν καὶ τῆς σῆς ὁμιλίας κατατρυφῆσαι, ὧ τῆς μακαριότητος ἐπώνυμέ τε καὶ κλήσεως [B f.201^{rb}] ἐπάξιε.» 8 εἶτα πολλοῖς τε λόγοις καὶ προρρήσεσι τῷ Μακαρίῳ συνομιλήσας περὶ τῆς μοναδικῆς πολιτείας, τάς τε τοῦ ἐχθροῦ ἐνέδρας καὶ πολλὰς μεθοδείας διεξιών, πολυτρόπως πολεμηθῆναι μέλλειν αὐτὸν προείπεν ὑπὸ τῶν ἐναντίων, εἶθ' οὕτως διὰ τῆς ὑπομονῆς τέλειος ὀφθῆναι.

9 ὁ δὲ Μακάριος πολλαῖς παρακλήσεσι τὸν μέγαν ἐλιπάρει αὐτῷ σύνοικον γενέσθαι καὶ συνδίαιτον. 10 ὁ δὲ οὔπω συνεχώρει «Οὐκ εἰς δέον συνοικῆσαι τόπῳ ἐνί,» φήσας, «ἀλλ' ἕκαστον ἐν ῷ ἐκλήθη οἰκῆσαι τόπῳ δίκαιον ἄν εἴη καὶ μὴ τοῖς θείοις ἀντιτάττεσθαι διατάγμασιν.» 11 ὁ δὲ Μακάριος τῷ λόγῳ ὑπείξας καὶ παρ' αὐτῷ ἐφ' ἱκανὸν χρόνον προσκαρτερήσας, πῶς τε δεῖ παρ' αὐτοῦ καταμαθὼν διάγειν καλῶς, ἐφόδιόν τε καὶ ἐπίκουρον τὰς ἐκείνου εὐχὰς

⁽³⁸⁾ ὅτι τε] scripsi; A ὅτι τὲ

う」と言った、2「この方については以前、まだ世にあった時に聞いたことがある。砂漠に住んで長い時間を過ごし、天使的生活の経験を持っているということだ。3 この方に会って私のことを皆話そう、そして、彼はその最上の助言によって、私がどのような生き方を営むべきか教えてくれるだろう。そして勇気にあふれて帰ってきて、神が招いておられる場所で、私は迷いなく生きることとなろう」、4 こう言い、「救いの案内者たるキリストよ、あなたに私は頼ります。すべてを支配される主としてのあなたの導きの手を、私に差し伸べたまえ」と祈って、彼は旅路に就いた。

5 さて、マカリオスは目的地のファランの山を見つけ、偉大なるアントニオスのところにやってきて、この人物に気持ちよく挨拶し、そして自分に関するすべてのことを順序だててこの人物に物語った。6 偉大にして聖なる人アントニオスは喜んで彼を迎えて言った、「よく私たちのもとに来られた、おお、子なるマカリオスよ、今日あなたを見るのに値する者としてくださった神に、私は大いなる感謝を献げています。7 というのも、何日も前に万物の主は私に、あなたのことと、あなたが私たちのもとに来られることとをお示しになったからです。そこで私は、大いに期待しつつ、ご来訪を目にし、あなたとの交わりを楽しむことを願っていたのです、おお、幸かいなうと同名の方、召命にふさわしい方よ」。8 それから多くの言葉と預言とを以て、アントニオスは修道生活についてマカリオスと語らい、敵の策略と数多くの方法とを詳しく述べながら、マカリオスが敵対者どもによって後が完全な者とみなされるようになることを預言した。

9 マカリオスは何度も願って、自分の同居人・同食者となるようこの偉大なる者に願った。10 後者は「一つのところに共に住まうのは正しくありません。各々が [そこに住まうようにと] 召された場所に住まい、神の命令に逆らわないことが正しいでしょう」と言って、決してそれを許さな

λαβών, ἐπανήει.

12 καὶ ἦν προθύμως τοὺς ἐφεξῆς εὖ διανύων ἀγῶνας καὶ ἃ μὲν ἐκεῖνον ποιοῦντα εἶδε, ταῦτα καὶ [B f.201^{va}] αὐτὸς πρὸ πάντων ποιῶν ἐδείκνυτο. 13 τοῖς δὲ μετὰ ταῦτα ὑφηγητὴς καὶ διδάσκαλος τῆς ἐκείνου ἀγγελικῆς καθίστατο πολιτείας, χρόνον δὲ οὐ βραχὺν οὕτω διανύσας κατὰ μόνας νοερῶς τὰς θείας ἐποπτεύων ἐμφάσεις, καὶ ἐκεῖθεν αὐγαζόμενος.

XXI マカリオス、天から預言の声を聞く

1 'Αλλὰ καὶ τὸ θεῖον χερουβεὶμ ἐκεῖνο διηνεκῶς παρ' αὐτὸν ἀφικνούμενον ὁρῶν, καὶ πρὸς αὐτὰς τὰς θείας τρίβους ἰθυνόμενος, οὐκ ἔμελλε μόνον ἑαυτὸν διὰ τῶν ἀνδρικῶν αὐτοῦ πόνων καταπλουτίσαι, ἀλλ' ἔδει καὶ ἄλλους πολλοὺς δι' αὐτοῦ σωθῆναι καὶ τὴν ἰσάγγελον ἐκείνου διαγωγὴν καλῶς μετιέναι, ὡς διὰ τῶν ἐφεξῆς ὁ λόγος δηλώσων ἔρχεται.

2 πορευομένφ [A f.194^v] αὐτῷ τῷ Μακαρίῳ ἐπὶ τὴν πηγὴν ὕδωρ ἀντλῆσαι καὶ διὰ τῆς ὁδοῦ τοὺς δαυιτικοὺς ἄδοντι ψαλμοὺς (πορρωτάτω γὰρ ἦν τὸ ὕδωρ), φωνὴ οὐρανόθεν ἡκούετο «Μακάριε, Μακάριε» λέγουσα. 3 ὁ δὲ σταθεὶς ἔνθεν κἀκεῖσε, πόθεν ἂν καὶ εἴη ἡ φωνὴ περιεργαζόμενος [B f.201^{vb}] ἦν. εἶτα ἐκ δευτέρου καὶ τρίτου τῆς αὐτῆς γενομένης φωνῆς, φόβου πλησθεὶς χαμαὶ ἐκαθέζετο. 4 ἔπειτα τῆς φωνῆς ἥκουσε τοιάσδε πρὸς αὐτὸν λεγούσης· «Ἐπειδὴ τῶν ἐμῶν, Μακάριε, οὐ παρήκουσας ἐντολῶν, ἀλλ' ὅλῳ ποδὶ ἡκολούθησάς μοι, ἰδού σοι πλήθη πολλῶν ἐνθάδε συναθροίσω λαὸν ἐκ παντὸς γένους ἀνθρώπων, καθώς σοι προδεδήλωται· 5 οἵ γε διὰ τῶν χρηστῶν ἔργων ἐμοὶ ἔσονται θεραπευταί. σὸ δὲ μὴ ἀπώση μηδένα τῶν παρὰ σὲ ἐρχομένων.»

6 ταῦτα ἀκούσας ὁ Μακάριος λίαν ἡσθεὶς τῆ χάριτι καὶ τῆς αὐτῆς δωρεᾶς ἐμφορηθείς, τῷ Θεῷ εὐχαριστηρίους ἀνέπεμπεν ὕμνους· ἀντλήσας δὲ ὕδωρ かった. 11 マカリオスはその言葉に従い、彼のところで十分な期間とどまり、どのようによく生きるべきかについて彼から十分学び、彼の祈りを旅路の養いまた守り手として得て、帰路に就いた.

12 こうしてマカリオスは、続いて起こった闘いを進んでよく闘っていた、彼 [アントニオス] がしていることとして見たことを、彼もまた皆の前でそれを行なう者として、自らを示していた。13 この人々にとって彼 [マカリオス] は、これらのことの後、彼 [アントニオス] の天使的な生活の導き手また教師だった——少なからぬ時間を一人で過ごし、神的な顕現を精神によって眺め、そこから輝きを受けることによって.

XXI マカリオス 天から預言の声を聞く

1 さてまた、神のかのケルビムが絶えず自分のところにやってくるのを目にし、また神の道へと導かれていたマカリオスは、その男らしい労苦を通じて自分だけを富ませることになっていただけではなく、他の多くの人々もまた、彼を通じて救われて、天使と同じ彼の生き方をよく営むのでなければならなかった――続く話によって、本書が示すであろうように、

2 水を汲むために泉の方へ歩いており、道すがらダビデの詩篇を歌っていた(というのは、水場が遠かったからである)マカリオスに、「マカリオスよ、マカリオスよ」と言う声が天から聞こえてきた。3 そこで彼はその場所に立ち止まり、声がどこからしたのか探っていた。それから二度目、三度目と同じ声があったので、恐れに満たされて彼は地面に座った。4 その後彼は次のような声が自分に語るのを聞いた。「マカリオスよ、お前は私の戒めに違背せず、御頭徹尾私に従ったので、見よ、お前に以前に示したように、私はお前のために大勢の人々を、民を、人間のあらゆる種族の中からここに集めよう。5 彼らはその良い業を通じて私に仕える者となるだろう。お前は、自分のところにやってくる者を誰一人追い払うなし

6 これを聞いてマカリオスは、この恵みに大変喜び、また同じ贈り物に満たされて、感謝の歌を神に献げた。そして水を汲んで、自分の洞窟へと

XXII 悪霊との一層激しい戦い

1 Δύναντος δὲ τοῦ ἡλίου εὐχὴν ποιησάμενος ἄρτου βραχυτάτου μετασχών, έκαθέζετο μικρόν τι τὸ σῶμα ἀναψύξας, εἶτα διὰ τάχους ἀναστὰς ὡς εἰώθει τῷ Θεώ προσευχόμενος, ήκουσε των δαιμόνων πρός άλλήλους φθεγγομένων· « Ορᾶτε, [B f.202^{ra}] ὧ οὖτοι, ποίαν οὗτος ὁ ἀνὴρ κατὰ μόνας τὴν καρτερίαν ἐπεδείξατο: ποίω δὲ θράσει καθ' ἡμῶν ἐγρήσατο ἀναιδῶς, ἡμῖν ἀντιταττόμενος: 2 οὐκ ἆρα ἄθλιοι ἡμεῖς ἐσμεν καὶ τρισάθλιοι, εἰ τοῦτον οὕτως θρασυνόμενον έάσαιμεν καὶ συνοικοῦντα παραγωρήσαιμεν; καὶ οὐκ ἂν έκποδών τοῦτον ποιήσωμεν, ἵνα μὴ πολλούς οἰκήτορας τῆς ἐρήμου ταύτης κατ' αὐτὸν τῶν οὐρανίων μιμητὰς κατεργάζηται; 3 καὶ μέντοι δι' αὐτοῦ ἡκηκόαμεν ὅτι ἡ ἔρημος αὕτη ἐκ παντὸς μέλλει ἐμπλησθῆναι γένους ἀνθρώπων καὶ ἀγαθῶν ἔσεσθαι πληρουμένη, ἡμῖν δὲ οὐδεμία ἔσται ἄνεσις ἐνθάδε, χαλεπῶς γὰρ ἡμᾶς ταῖς ἑαυτῶν προσευγαῖς ἀμειβόμενοι, μαστιζομένους ἐξωθήσουσι. καὶ τί αν γενώμεθα οὐκ ἔχομεν. 4 δεῦτε τοίνυν ἀθρόαν τὴν ὁρμὴν πρὸς αὐτὸν ποιησάμενοι, τῶν τῆδε ἀποπέμψωμεν.» 5 τοιούτων δὴ ὑπ' ἐκείνων διαβεβουλευμένων⁽³⁹⁾ ὁ Μακάριος ήκρο^ιατο, [B f.202^{rb}] ήκιστα δὲ ἐπτοείτο· άλλὰ θάρσους πλησθείς, ετοιμος ην των επερχομένων [A f.195°] ὅσα δεινὰ γενναίως προσδέξασθαι, τῆ θεία χάριτι κατ' αὐτῶν ἐμβριμώμενος ήτις αὐτοῦ τὰς ἀκοὰς ἀκοῦσαι ἤνοιξε τὰ τῶν ἀοράτων ἀκατάσγετα βουλεύματα καὶ τὰς άσθενείας αὐτῶν ἐγνώρισεν.

6 εἶτα ὁ μὲν εἰς προσευχὴν ἵσταται, οἱ δὲ ἀθρόως περινοστοῦσι θρασυνόμενοι καὶ δεινῶς ταῖς ὁρμαῖς μαινόμενοι. ἀπελείφθη δὲ δύναμις οὐδεμία τῶν πονηρῶν ἥτις οὐ παρῆν. 7 καὶ οἱ μέν, ἄνωθεν τοῦ ἄντρου ἀνερχόμενοι, κτύπους καὶ κλόνους ἐποιοῦντο· οἱ δέ, ἐξ ἐναντίας μετὰ ἵππων καὶ ἀρμάτων,

⁽³⁹⁾ διαβεβουλευμένων] A haud legitur

XXII 悪霊との一層激しい戦い

1 目が沈んだので、マカリオスは祈ってごくわずかのパンに与り、座っ て少しの間体に休息を与え、それから、神に祈るのが習いだったので速や かに立ち上がって、彼は悪霊どもが語り合っているのを耳にした、「見ろ、 ご同畫。この男が一人でどんな堅忍を示しているかを、また、我々に対立 して、恥知らずにも我々に対してどんな蛮勇を用いているかを、2 もし、 この男がかくも尊大なままで我々とともに住むのを、我々が許し許容した なら、我々は惨めな、三倍惨めな者ではないだろうか、この男を除こうで はないか、この男が自分のように大勢の者をこの砂漠の住人とし、天的な 者たちの模倣者に仕立てることがないためにも、3 しかも、この砂漠が人 間のあらゆる種族によって満ちあふれるようになり、善人たちで満たされ るようになるだろうということを、我々は彼を通じて聞いた、そんなこと では、ここでは我々には休息がないことになる、というのも、彼らは自分 たちの祈りによって我々をひどくあしらい、鞭打って追い出すことになる だろうから、そして我々がどうなるか、我々にはわからないのだ、4 さあ、 だから、集まって彼に攻撃をなし、ここから追い出そう | 5 彼らによっ てこういうことが議論されるのをマカリオスは聞いており、少しも恐れを 覚えなかった。むしろ勇気に満たされて、攻撃してくる者たちが「行なう であろう]いかなる恐ろしいことをも高貴に受け止める用意ができていた。 彼は、聞くために自分の耳を開いてくださり、見えない諸力の無制御な決 定と彼らの弱さとをわからせてくださった神の恵みによって、彼らに対し て意気軒昂だったのである.

6 そこで彼は祈りのために立ち上がり、彼らは無謀にも回りに群がり、 攻撃のためにひどい狂乱状態にあった。邪悪な者どものいかなる諸力であ ἄντικρυς εἰς πόλεμον ὡρμῶντο· ἄλλοι δέ, πυρκαιὰν ἐξάψαντες, κατὰ τὸν σκοπόν, τὰ ἔνδον τοῦ ἄντρου, βάλλοντες ἔπαιον. 8 άλλ' οὐδὲν ἐντεῦθεν ἤνυσαν οἱ ἄθλιοι, θερμοτέρα γὰρ οὖσα ἡ τοῦ δικαίου εὐχὴ τὴν τούτων ὁρμὴν δεινῶς κινουμένην κατέπαυσε. καὶ ταῦτα μὲν διὰ τῆς νυκτὸς οἱ ἐργάται τοῦ [Β £202^{va}] σκότους καταφανὲς εἰργάσαντο ἐμμανῶς.

9 τὰ δὲ τῆς ἡμέρας, φέρε, εἰπεῖν πόσω δεινότερα ἐπινοοῦντες ἐφ' οἶς νοητῶς οὐκ ἐπαύσαντο πολεμεῖν, παντοίφ τρόπφ χρησάμενοι καθάπερ γὰρ ἐν πανδαισία παντοίων καὶ ποικίλων πεπληρωμένη ἐδεσμάτων, οὕτω τὰ τῶν παθῶν θέμενοι πλήθη, αὐτὸν δελεάζουσι. 10 καὶ νῦν μὲν ἀκαθάρτους ὁ τῆς πορνείας δαίμων λογισμούς διὰ τῆς καρδίας ἐμβάλλει, νῦν δὲ ὁ τῆς γαστριμαργίας τὰ της τρυφης είδη προβάλλει καί ποτε (40) μεν ό της κενοδοξίας θρασύνεται, καὶ πρὸς τὸν τῆς ὑπερηφανίας ἐκπέμπει, ποτὲ δὲ ὁ τῆς ἀπογνώσεως δαίμων εἰς τὰ βάραθρα καταβάλλει καὶ ἄρτι μὲν ὁ τῆς ἀκηδίας τὰ ἔνδον πιέζων αἰσθητήρια πόνους καὶ σκοτασμοὺς ἀναφύει, ἄρτι δὲ τὸ τῆς βλασφημίας πνεῦμα ἕρπει θηριωδώς, ἀνίατον ἄλγος ἐπιφερόμενον καὶ ἰὸν ἐκγέον θανατηφόρον τοῖς τῆς ψυχῆς ἐνδοτέροις μέλεσι. 11 καὶ συνελόν τα [B f.202 b] φάναι, διὰ παντὸς τρόπου καὶ σχήματος περιϊόντες μαχόμενοι τὸν ἀριστέα καὶ γενναῖον οὐκ ένίκησαν άθλητήν, ού παντελώς, ώς (41) της άνωθεν προνοίας έώσης τοῦτον άβοήθητον, άλλ' ήδη μικρὸν παραχωρούσης τὸν Μακάριον πειρασθῆναι 12 είθ' οὕτως ὐπομένοντα προθύμως ὁρῶσα, «Πύργος» τὸ τοῦ θείου φάναι Δαυίδ «ἰσχύος ἦν», ἔσται οὐκ [A f.195^v] ἀφισταμένη τούτου.

⁽⁴⁰⁾ καί ποτε] scripsi; Α καὶ ποτὲ

⁽⁴¹⁾ ώς] scripsi; A δς

れ、そこに居合わせないようなものはなかった。7 或る者どもは洞窟の上からやってきて、がちゃがちゃいう音、ざわざわいう音を立てた。別の者どもは、馬と戦車とで真正面から戦いへと突っ込んできた。また別の者どもは、薪に火をつけて、的である洞窟の中へと投げ込んでいた。8 しかし、惨めなこの連中はこれによって何もなしえなかった。義人マカリオスの祈りの方が熱く、この連中の襲撃が恐るべく働くのを阻んだのである。こうして夜の間じゅう、闇の仕事人どもは狂ったように、あからさまなことを行なっていた。

9 さて、日中のことを話すと、ずっと恐ろしいことを連中はたくらみ ――それを携えて、彼らは精神に対する攻撃をやめなかったのである --- あらゆる方法を用いて、あらゆる種々の食事で満たされた饗宴にお けるように、そのごとく情動の数々を「皿に〕置いて、彼らは彼を釣ろう とする。10 或る時には不品行の悪霊が汚れた思念を心に投げ込み。また 或る時には大食の悪霊がご馳走のイメージを眼前に掲げ、或る時には虚栄 の悪霊が尊大に振る舞い、傲慢の悪霊へと送り込み、また或る時には絶望 の悪霊が深淵へと投げ落とし、今や倦怠の悪霊が内面の感覚を締め上げて、 労苦と暗闇とを増え広がらせ、また今や冒瀆の霊が獣のように這い来たり、 悲しみの痛みを持ち来たり、魂の内なる肢体に死の毒を撒き散らす。[1] そして、要約して言えば、あらゆる仕方とあらゆる形によって連中は、彼 のまわりを行きめぐって戦ったが、この勇敢で高貴な闘技者を負かすこと ができなかった。全くできなかった、上なる摂理が、彼が助け手なしでおり、 試みを受けることを,多少とも許していたにもかかわらずである.12 こ うして、彼がよく耐え、聖なるダビデの言葉によれば「力強い塔だった」「詩 60・4] のを見て、[上なる摂理は] この者から離れることはないだろう。

XXIII 二度目にアントニオスを訪問

1 'Επεὶ δὲ χρόνον (42) βραχὺν ἤνυεν οὕτω πειραζόμενος, πάλιν πρὸς τὸν μέγαν ἀφικνεῖται Αντώνιον, ὃς τοῦτον πόρρωθεν ἐρχόμενον ἰδὼν εὐαγγελικῶς
ἔφη περὶ αὐτοῦ, «'Αληθὴς 'Ισραηλίτης οὖτος ἐν ῷ δόλος οὐκ ἔστιν.» εἶτα τοῖς
παροῦσί φησιν «'Ορᾶτε, ὧ τέκνα, τὸν ἄνδρα τοῦτον; ὄντως πολλῶν ἔσται εἰς
παράκλησιν καὶ πλείστους προσάξει Θεῷ.»

2 έπεὶ δὲ προσπελάσας $^{(43)}$ ὁ Μακάριος χαμαὶ προσεκύνησε προσπεσών, ταχέως τοῦτον ἤγειρεν ὁ μέγας ᾿Αντώνιος καὶ ἡδέως ἠσπάσατο, «Καλῶς παρεγένου,» φάσκων, «ὧ γενναῖε τοῦ Χριστοῦ ἀθλητὰ Μακάριε· λίαν γάρ $[B\,f.203^{ra}]$ σε ὁρῶ ὑπό τε τῶν ἀσκητικῶν πόνων καὶ ὑπὸ τῶν ἐναντίων πολέμων ἡλλοιωμένον τὸ σῶμα, τὴν δὲ ψυχὴν θάρσει ἐνισχυόμενον.»

3 εἶτα εὐχὴν ποιησάμενοι καὶ καθεσθέντες, πάλιν ὁ θεῖος 'Αντώνιος τὸν Μακάριον ἤρετο' «Πῶς διήνυσας, ἀδελφὲ Μακάριε, τὸν τοῦ Χριστοῦ δρόμον καὶ πῶς τοὺς πολέμους ὑπέμεινας τοῦ ἀντικειμένου ἐχθροῦ;» 4 ὁ δὲ «Οὐ χρείαν ἔχεις παρ' ἐμοῦ γνῶναι,» φησί, «εἴπερ σοὶ τὰ κατ' ἐμὲ ἀπεκάλυψεν ὁ Θεός.»

5 εἶτα ὁ μέγας πολλὰ διεξήει τὰ περὶ τῶν ἀοράτων ἐχθρῶν παλαισμάτων καὶ ὅσα ὁσημέραι (44) ἡ πονηρὰ φύσις ἐπινόει κατὰ τοῦ ἀνθρωπίνου γένους, καὶ στηρίξας «Ἰπόμεινον γενναίως,» ἔφη, «ὧ θαυμασία ψυχή ὁ γὰρ ὑπομείνας, ὡς τὰ θεῖά φασι λόγια, εἰς τέλος σωθήσεται. 6 οὕτω γὰρ ἡμᾶς δεῖ πειρασθῆναι, εἶθ οὕτως τὴν τῶν ἑτέρων ἐπιστασίαν ψυχῶν ἐμπιστευθῆναι καὶ τῆς ἄνω φιλοσοφίας διδασκάλους ὀφθῆναι. 7 ὁ γὰρ ἐπαλείφων σε πρὸς ἀγῶνας διὰ τῆς πείρας ὡς εἰκὸς ἐπάξιόν [Β f.203^{rb}] σε ἀναδείξει ἐκείνων τῶν ἐπηγγελμένων σοι πάλαι, καὶ τῶν ὕστερον διὰ τῆς γενομένης ἄνωθεν φωνῆς παρὰ τὴν πηγὴν ἀφικομένω.»

⁽⁴²⁾ χρόνον] scripsi; Α χρόνου

⁽⁴³⁾ προσπελάσας] scripsi; Α πρὸς πελάσας

⁽⁴⁴⁾ ὁσημέραι] scripsi; Α ὁσημέρα

XXIII 二度目にアントニオスを訪問

1 このように試みを受けて若干の時を過ごした後、彼は再び偉大なるアントニオスのもとにやってくる。後者は彼[マカリオス]が遠くからやってくるのを見て、彼について福音書風に言った、「まことのイスラエル人だ、そのうちには偽りがない」[ヨハ1・47]。それから、居合わせた者たちに言う、「子たちよ、この男を見たか、実に彼は、多くの人々を慰める者であり、非常に多くの人々を神へと導くだろう」。

2 マカリオスが近づいてきて地に伏して拝すると、偉大なるアントニオスは速やかに彼を起こし、気持ちよく挨拶して言った、「よくお越しになった、キリストの高貴な闘技者マカリオスよ、あなたが、禁欲の労苦と敵対的な戦いとによって体が変容し、他方で魂が勇気によって強められたのが、私には痛いほどよくわかる」。

3 それから祈りをなし、座して、再び聖なるアントニオスはマカリオスに尋ねた. 「兄弟マカリオスよ、どのようにしてキリストの走路 [cf. II テモ4・7] を走り抜き、敵対する敵との戦いをどのようにして耐え忍んだのかね」. 4 マカリオスは言う、「私からお知らせする必要はないでしょう、神があなたに私のことをお明かしになっておられるのですから」.

5 それから偉大なる者は、見えない敵どもの格闘について、また、邪悪な本性 [の者] が人類に対して日々どのようなことをたくらんでいるかについて、多くのことを語り、そして力づけて言った、「高貴に耐えなさい、おお驚嘆すべき魂よ、というのも、神の言葉が言うように、最後まで耐え忍ぶ者は救われるからだ [マタ 10・22、24・13]. 6 このようにして私たちは試みを受けなければならない、その後他の [人々の] 魂に対する配慮を任せられ、上なる哲学の教師とみなされるのでなければならないのだ、7というのも、試みを通じてお前を戦いのために整えられるお方は、かつてお前に約束として語られたことども、また後に、泉にやってきたお前に上からあった声を通じて約束として語られたことどもに、ふさわしい者でお前があることを、相応な仕方でお示しになるだろうからだ」.

XXIV 二度目にアントニオスを訪問(続き):アントニオスの死

1 Καὶ ταῦτα μὲν τὸν μέγαν εἰρηκέναι 'Αντώνιον' ἀγαμένω δὲ τῷ Μακαρίω τὸ μέγιστον χάρισμα, ὅτι μηδὲν τῶν κατ' αὐτὸν ἐκεῖνον ἔλαθεν, φησὶ πάλιν τούτω ὁ μέγας 'Αντώνιος' 2 «Ό καιρὸς τῆς ἐμῆς ἀναλύσεως ἤδη, ἀδελφέ μου Μακάριε, ἐφέστηκε. διὸ ἡ σὴ ἄφιξις οὐν ἁπλῶς γέγονε πρὸς ἡμᾶς, ἀλλ' οἰκονομικώς καὶ γὰρ ἡ ἐμὴ ὑπὸ σοῦ ταμιεύεται κήδευσις.» 3 ταῦτα τοῦ μεγάλου εἰρηκότος 'Αντωνίου, λύπη καὶ ἀηδία συνείχετο ὁ Μακάριος, [A f.196^r] ἀφόρητον ήγησάμενος συμφοράν εἶναι τὸ ἀπ' ἐκείνου διαζυγήναι καὶ τῆς ἐνθέου αὐτοῦ διδασκαλίας λίαν ἡδίστης οὔσης ἀπολειφθῆναι. 4 εἶτα τοῖς τοῦ θείου ' Αντωνίου ποσὶ προσπεσών, καὶ πρόσωπόν τε καὶ μέτωπον τῆ γῆ προσερείσας «Τί τὸ περὶ ἐμέ,» ἔφη, «ὧ ἱερωτάτη κεφαλή, ἐφθέξω ἐπάγγελμα; 5 καὶ τί [B f.203^{va}] τὸ μυστήριον τῆς ἐμῆς δυστυχίας: (45) καὶ πῶς ἡμᾶς καταλιπὼν τοὺς δεομένους χειραγωγίας οἰχήση, τὸ φέγγος τῆς ἡμῶν ποδηγίας; καὶ διατί ἀπολειφθήσομαι μόνος; καὶ οὐκ ἔσομαι Θεόν σοι δυσωποῦντι συνέκδημος;» 6 ταθτα εἰπόντα καὶ τὰ τούτοις ὅμοια τὸν Μακάριον μετὰ συνεχῶν δακρύων καὶ στεναγμῶν, ὁ θεῖος ἐπισχὼν 'Αντώνιος «'Ανάσχου,» φησίν, «ὧ θεία ψυχὴ Μακάριε, καὶ θαρραλέος ἴσθι, ὅτι χρηστὰ τὰ περὶ ἡμῶν δοκοῦντα Θεῷ. 7 έμοι μέν, ὡς ὥρισται, νῦν πρόκειται ἡ ἐκδημία, καὶ οὐ μετὰ συγνὰς ἡμέρας ή άναχώρησις ἐκδέχεται· σοὶ δὲ τῶν τῆς ἐρήμου ἐραστῶν μετ' ἐμὲ ἐμπεπίστευται ποιμαίνειν ψυγάς. 8 πλήν σοι βραγύν ἔτι ὁ τῶν λογισμῶν πόλεμος ἔγει γρόνον είτα έκποδών γίνεται, καὶ ἀντ' αὐτοῦ αἰσθητὸς ἐπελεύσεται ἕτερος. καὶ πρόσωπον πρὸς πρόσωπον πολεμηθήση, καθάπερ ἔγωγε ὑπ' ἐκείνων ὑπέμεινα πολλάκις τῆ δυνάμει κρατούμενος. ἔπειτα $[B\ f.203^{\text{vb}}]$ κράτος κατ' αὐτῶν άναδήση, και τὰς πονηρὰς αὐτῶν δυνάμεις νικήσεις. 9 ἀνδρίζου τοιγαροῦν καὶ κραταιούσθω ή καρδία σου τὴν παντοδύναμον χάριν ἐπίκουρον ἔχων. 10 άλλ' οὐδὲ τὸ θειότατον ἐκεῖνο χερουβεὶμ ἀφίσταται ἀπὸ σοῦ, ἐφ' ὅσον ἄσυλος

⁽⁴⁵⁾ δυστυχίας] scripsi; Α δυσστυχίας

XXIV 二度目にアントニオスを訪問(続き):アントニオスの死 1 偉大なるアントニオスはこのように言ったという、そして、この大い なる贈り物を喜ぶ(なぜなら、自分に関する何事であれ、アントニオスの 知らないことはなかったからである)マカリオスに、再び偉大なるアント ニオスは言う、2「我が兄弟マカリオスよ、私の死の時が近づいた、だか ら、あなたが私たちのもとにやってきたのは単なる出来事ではなく、経綸 によっているのだ、私の葬りも、あなたによって執り行なわれることとな っている 1.3 偉大なるアントニオスがこう言うと、マカリオスは、アン トニオスから切り離され、きわめて甘美なものであるその聖なる教えを奪 われることは、耐え難い災難だと思ったので、悲しみと嫌悪とに捕えられ た、4 それから、聖なるアントニオスの足にすがり、顔と額とを地面にこ すりつけて言った、「おお、この上なく神聖なる頭よ、なぜ私に関する約 東をおっしゃったのでしょうか、5 また、私の不幸に関するこの奥義はど ういうことなのでしょうか、手ずから導いてくださることが必要な私たち をどうして見捨てて行かれるのですか、我らが導きの光よ、なぜ、私は一 人で残されるのでしょうか、あなたが神に願うなら、私はあなたの同道者 となるのではないでしょうかし

6 こういったこと、またこれに類することを、滂沱の涙とうめきとともに語ったマカリオスを、聖なるアントニオスは抑えて言う、「おやめなさい、聖なる魂マカリオスよ、そして勇ましくあれ、私たちに関して神がよしと思われることは良いことなのだから、定められているように、7 私には出発が待ち受けており、そして幾日も経たない後には、退去が予期されているが、あなたには、私の後、砂漠の愛好者たちの魂を養うことが任せられているのだ。8 しかし、あなたには思念の戦いが今少しの時間あり、それからその戦いがなくなって、代わりに別の感性的な[戦い]がやってこよう、そして、少なくとも私は何度も連中によって力ずくで摑まえられて耐える

εἴης τοῖς ὀλεθρίοις παθήμασιν ἀλλ' ἔσται σοι συμμαχῶν καὶ βοηθῶν μέχρις ἐσχάτης περιέπων πνοῆς.» 11 ταῦτα εἰπὼν καὶ ἕτερα ἑτέρους διδάξας τῶν μαθητῶν καὶ νουθετήσας, καὶ οἶα εἰκὸς ἕκαστον πρὸς εὐθείας ἰθύνας ὁδούς, βραχὺν ἔτι ἐπιβιοὺς χρόνον πρὸς τὸ τῆς ζωῆς πέρας κατέληξεν ἀλλ' ὢ τῆς ἱερᾶς ἐκείνης ἀνακλήσεως καὶ χωρισμοῦ, εἴπερ θάνατον ἀπλῶς οὐ χρὴ λέγεσθαι ἐκεῖνου τὸν θάνατον.

12 ἄρτι γὰρ τοῦ τῆς ἑξόδου ἐπιστάντος καιροῦ, ἀναστὰς πάντων ὑπερηύξατο· εἶτα τὸν Μακάριον ποθεινῶς τε καὶ πατρικῶς ἀσπασάμενος εὐλόγησε, καὶ τὴν προσοῦσαν αὐτῷ $[A f.196^v]$ βακτηρίαν φιλοτίμως ἐνεχείρισεν. 13 ἔπειτα σὺν αὐτῷ τοῖς παροῦσι $[B f.204^{ra}]$ συνταξάμενος, τοῦ ποθουμένου χεροῦ Θεοῦ τὴν ἀγίαν καὶ μακαρίαν αὐτοῦ παρέδωκε ψυχήν.

14 καὶ ἡ μὲν τῆς ἄνω πορείας εἴχετο, πρὸς τὰς οὐρανίους καὶ ἀἰδίους σκηνὰς ἐπειγομένη· τὸ δὲ τίμιον καὶ πάνσεπτον ἐκεῖνο σῶμα φιλοτίμως ὁ Μακάριος ταφῆ παραδούς, καὶ πάντα ὡς εἰκὸς ἐν ψαλμοῖς καὶ ὕμνοις ἀφοσιωσάμενος, καὶ λόγοις ἐπιταφίοις στηρίξας τοὺς ἐκείνου μαθητάς, ἐπανήει (46).

XXV 至る所から人々がマカリオスのもとにやってくる

1 Γεγονώς οὖν ἐν τῷ οἰκείῳ ἄντρῳ, προθυμότερος ἦν τοῖς τραχυτέροις ἀγῶσι. βραχὺ τὸ ἐν μέσῳ, καὶ ὁ λαὸς πανταχόθεν ἐπέρρει πρὸς τὸν θεῖον Μακάριον, τῆς αὐτοῦ κοινωνεῖν πολιτείας ἐφιέμενοι καὶ τῶν ἴσων ἀγώνων

⁽⁴⁶⁾ ἐπανήει] scripsi; Α ἐπανείη

こととなった、そのように、あなたも顔と顔とを合わせて戦うこととなろう。それからあなたは、彼らに対する力を身に帯びるようになり、彼らの邪悪な力を打ち負かすだろう。9 だから、万能なる恵みを助け手として得て、雄々しくあり、心強くあることだ [詩 26・14]。10 また、かの非常に聖なるケルビムは、滅びをもたらす情動からあなたが無傷である限りは、あなたから離れず、むしろあなたが息を引き取るまで、あなたと共に闘い、あなたを助け、あなたに付き従っているだろう」。11 こう言い、他の弟子たちに他のことを教え戒めた後、そして各々をふさわしい仕方でまっすぐな道へと導いた後、なお少しの間彼は生きて、命の終わりへと行き着いた。おお、神聖なる召天、別離よ――彼の死を単に死と呼ぶべきではないのだから――。

12 つまり今や、出離の時が追ってきて、彼[アントニオス]は立って皆のために祈った。それから、思い入れ深く父親のように彼はマカリオスを抱擁して祝福し、手にあった杖をいとおしく彼に委ねた。13 それから、彼と共に、その場にいた者たちに別れを言って、願わしき神の手に自らの聖なる幸いなる魂を委ねた。

14 そしてその魂は上なる旅路に就き、天の永遠なる幕屋へと向かっていった。他方、かの尊く至聖なる体は、マカリオスがこれをいとおしく墓に置き、そして彼[マカリオス] は詩篇と賛美とを以てすべてのことをふさわしく成し終え、葬送演説によってアントニオスの弟子たちを力づけ、帰っていった。

XXV 至る所から人々がマカリオスのもとにやってくる

1 さて自分の洞窟に着いて、彼はより一層苛酷な闘いにより一層専心していた。ほどなくして、至るところから民が聖なるマカリオスのところへ押し寄せてきた――彼の生き方に与ることを望み、また同等の闘いに対峙

άντέχεσθαι γλιχόμενοι.

2 άλλ' οὖτοι μὲν οὕτως ἦσαν προθύμω ποδι ἐπειγόμενοι, καὶ τοῖς ἐκείνου ἴχνεσιν ἔπεσθαι ποτνιώμενοι· οὖτος δὲ πῶς λίαν πρόθυμος ἦν, καὶ οἷα εἰπεῖν ὑπτίαις χερσὶν τοὺς πάντας δεχόμενος, καὶ τῆς αὐτῶν πλέον ἢ ἐκεῖνοι ἦραν σωτηρίας. [B f.204^{rb}] 3 συνέπασχέτε καὶ πάντα τρόπον αὐτοὺς ἐθεράπευε· καὶ συναυλισθῆναι καὶ συνδιαιτηθῆναι οὐκ ἀπαξιώσας, ἀλλ' ἐκάστω ὡς οἷόν τε κανόνα ὑποδείξας πρὸς ὑψηλοτέρας ἀνήγαγεν ἀρετάς.

4 οἶς μὲν οὖν οἰκείαν ἤδει τὴν ὑποταγήν, ἐτέροις τούτοις συναρμόσας ὑποταγῆναι πατράσιν ἐκέλευεν· οἶς δὲ ἀρμόζειν κατὰ μόνας, τούτοις τὴν τῆς ἡσυχίας διένειμεν ἄδειαν. 5 καὶ οῦς μὲν ἄντρον ὀρύττων, οῦς δὲ τὴν σειρὰν (47) πλέκειν διδάσκει, ἐπεὶ καὶ στέγης καὶ τροφῆς ἀναγκαία ἡ χρῆσις. 6 καὶ ἄλλους μὲν παρ' αὐτῷ ἐφ' ἱκανὸν χρόνον ἐπέσχεν ἀρχομένους παιδεύων τε καὶ ἐπαλείφων, ἐτέρωθεν οἰκήτορας καὶ ἀγωνιστὰς ἐκπέμπει· ἑτέρους δὲ διηνεκῶς παρ' αὐτῷ καταλιμπάνει, τὴν τῶν πάντων, συνελόντα εἰπεῖν, ὅθεν ἄν καὶ γένοιτο, πραγματευόμενος σωτηρίαν. 7 καὶ ἡν ἰδεῖν τὴν ἔρημον πεπληρωμένην οἰκητόρων ἄμιλλαν θεϊκὴν κεκτημένων.

XXVI 二人のローマ人に関する別の物語の告知

1 Δύο [B f.204^{va}] τοίνυν νεώτεροι αὐτάδελφοι, γένος 'Ρωμαῖοι ἐκ τῆς αὐτοῦ συνοδίας κομιδῆ ἀξιάγαστοι, πρὸς τὸν θεῖον Μακάριον ἀφικόμενοι, φόβω τε καὶ θείω πόθω διεγηγερμένοι, ἐδέχθησαν ταύτην οἰκῆσαι τὴν ἔρημον. 2 καὶ βίον λίαν λαμπρὸν καὶ ἰσάγελλον διανυσάντες, ἐξ ἀνθρώπων γίνονται καὶ ταφῆς παρ' αὐτοῦ [A f.197^r] ἀξιοῦνται.

3 τίνες τε εἶεν καὶ πόθεν ὥρμηντο, καὶ ἡ ποία αὐτοῖς διήνυστο διαγωγή, καὶ εἰς ποῖον ἐξαίσιον κατέληξαν πέρας, νῦν μὲν οὐκ ἔστιν εἰπεῖν· ἄλλη γὰρ τού-

⁽⁴⁷⁾ σειράν] scripsi; A συράν

することを願って.

2 こうしてこの人々は心躍る足取りで急ぎ来たり、彼の足跡に従うことを切に願っていた. こちら [マカリオス] は非常に熱心で、言わば後ろ手で [つまり、阻むことなく] すべての人々を迎え入れ、彼らは自分たちの救いより以上のものを持ち込んできた. 3 彼は共に苦しみ、あらゆる仕方で彼らを癒し、共に会し共に住まうことを拒まず、各々に可能な限り規準を教え示し、より崇高な徳へと[彼らを]導いた.

4 服従がふさわしいと彼の目に映った人々には、「他の人々を」この人々に結び合わせ、彼らが他の師父たちに従うようにと命じた。また、独居が合っている人々には、彼は静寂の自由を分け与えた。5 そして、或る者たちには洞窟を掘ってやり、他の者たちには綱を編むことを教えた。屋根と食事の使用もまた必要だからである。6 そして或る者たちは、自分のところに十分な時間引き止めて初心者として薫陶し励まし、他所に住み闘う者として送り出す。また他の者たちは、絶えず自分のもとに留めておき、万人の救い――それがどこで成るのであれ――を作り上げつつあった。7 こうして砂漠が、神的な競争心を自らのものとした住人であふれるのを、見ることができた。

XXVI 二人のローマ人に関する別の物語の告知

1 さて、二人の実の兄弟たる若者、生まれがローマ人で彼の群れ [=キリスト教徒] に属し、全く賞賛に値する者たちが、恐れと聖なる願いとに目覚めさせられて、聖なるマカリオスのもとにやってきて、この砂漠に住むことを受け入れられた。2 そしてきわめて輝かしい、天使に等しい生活を送って、彼らは人々の間から出て行き、マカリオスによる葬りに値する者とされる。

3 彼らは誰であってどこから始まったのか、彼らはどう生き、そしてど

331

τους ἰδία τε καὶ θαυμαστὴ τοὺς μακαριωτάτους ἐκδέχεται διήγησις. 4 ὕστερον δὲ ταύτην χρὴ διαλήψεσθαι, τὰ τούτων παράδοξα καὶ ἄγαν ἥδιστα θαύματα διηγησομένοις ἀλλ' ἡμῖν νῦν ἐπανιτέον τῆς τοῦ λόγου ἐχομένοις ἀκολουθίας.

XXVII マカリオス 弟子たちのために礼拝堂を建てる

1 "Ηδη δὲ ὡς φθάσαντες ἔφημεν, τῆς ἐρήμου ἐκείνης τῆς ἀγγελικῆς τε καὶ πνευματικῆς πλησθείσης ἀγέλης, οὐκ ὅετο δεῖν ταύτην ἐᾶν διεσκεδασμένην ἐν τῷ καιρῷ [Β f.204^{νb}] τῆς προσευχῆς ὁ θεῖος Μακάριος. 2 ἀλλ' εὐαγῆ ναὸν δειμάμενος, ἐκεῖσε πάντας συναθροισθέντας τῶν θείων μυστηρίων μετασχεῖν ἐπεποίητο, καὶ λόγων ἀκροασαμένους στηριχθῆναι τῶν θείων γραφῶν, ἔτι δὲ καὶ ὅσα τῆς ἀσκητικῆς πολιτείας ἀπόρρητα παρ' αὐτοῦ ἐκπαιδευθῆναι. 3 καὶ ἦν ὁρᾶν τοῖς πᾶσιν ἕνα καὶ ἄρρητον σύνδεσμον καὶ εὐθῆ κανόνα ἀρετῆς κινοῦντά τε καὶ ἰθύνοντα ἀεὶ πρὸς ἀνάβασιν. 'Αλλ' οὖτοι μὲν οὕτως.

XXVIII マカリオス, 白昼に悪霊から攻撃される

1 Οἱ δὲ βάσκανοι καὶ ἄσπονδοι τῶν ἀνθρώπων ἐχθροὶ οὐκ ἠνέσχοντο τοιαύτην δόξαν πρὸς οὐρανὸν ὅθεν αὐτοὶ ἔπεσον ἀναπεμπομένην ὁρᾶν. 2 ἀμέλει, μεμηνότες καὶ κυσὶν ἐοικότες τὸν θεῖον περιεκύκλωσαν Μακάριον, εἶτα κατ' αὐτοῦ ὁρμὴν ποιησάμενοι μεσημβρίας οὕσης, τοῖς ὀδοῦσι τὰς σάρκας διεσπάραξαν, καθάπερ οἱ δήμιοι τοῖς σιδηρίοις ὄνυξι. 3 τριῶν δὲ ἡμερῶν διανυσθεισῶν ἡμιθανεῖ ὄντι, ἔγνω οὐδείς.

4 μετὰ δὲ ταῦτα, στηριχθεὶς προνοία θεϊκῆ ἦλθεν εἰς τὴν [B f.205^{ra}] ἐκκλησίαν καὶ διηγήσατο τὴν τῶν δαιμόνων μανίαν καὶ οἶα παρ' αὐτῶν ὑπέστη ἐν τῆ ἡσυχία δεινά. 5 ἐπεὶ οὖν μαρτύρας οὐκ ἀδήλους εἶχε τὰς πληγάς, θαῦμα κατέστη τοῖς ὁρῶσι μέγιστον καὶ ξένη διήγησις τοσούτων γὰρ εἶχε πλήθη

のような非常な最後を終えたのかといったことを、今語ることはできない. このきわめて幸いなる人々のことは、他の固有の驚くべき物語がとりあげることとなる。4後にこの物語を取り扱う必要があろう、この人々による驚くべきこと、非常に甘美な驚嘆事を語ろうとする人々のために.しかし今は、本書の続きにかかずらう我々は[本題に]戻らなければならない.

XXVII マカリオス、弟子たちのために礼拝堂を建てる

1 既に先に述べたように、かの砂漠が天使的・霊的な群れによって満ちあふれることとなったので、聖なるマカリオスは、祈りの時にこの群れがばらばらでいるのを容認するべきではないと思った。2 彼は清らかな宮を建て、そこにすべての者が集まり、神の秘跡に与るようにし、また彼らが聖なる書物の言葉を聞いて強められるようにし、さらに、禁欲的生活に関する秘義について彼から教えを受けるようにした。3 こうして、一つのえも言われぬ絆と徳のまっすぐな規準とが、前進のために絶えず[人々を]駆り立て正しているのを、すべての者は見ることができた。この人々に関してはこういうことである。

XXVIII マカリオス, 白昼に悪霊から攻撃される

1 人々をねたむなだめ難い敵どもは、堕落した自分たちのかつての居場所だった天へとこのような栄光が立ち上っていくのを見るのに耐えられなかった。2 ともあれ、怒りに駆られ犬のようになって、彼らは聖なるマカリオスを取り囲み、それから、真昼だというのに彼に対して攻撃を行ない、死刑執行人が鉄の爪でやるように、歯でその肉を引き裂いた。3 三日経っても半死状態だった彼に、誰も気づかなかった。

4 その後、神の摂理によって力づけられて、彼は教会にやってきて、悪霊どもの狂気と、静寂にあって彼が彼らから [受けて] 耐えた恐るべきことどもを話して聞かせた。5 明らかな証拠として彼には傷があったので、見ている者たちには非常な驚きとつねならぬ言葉のやりとりとがあった。

τραυμάτων ὅσα μηδεὶς ἔτερος ἐν πολέμοις δέξαιτο ἄν. Καὶ ταῦτα μὲν ὧδε.

XXIX 「マカリオスの修道院」の起源

1 Οὐ πολὺ τὸ ἐν μέσῳ, καὶ τῷ Μακαρίῳ ῥωσθέντι ἐκ τῶν πληγῶν, ἄφθη αὐτῷ ὁλολαμπὴς νεανίσκος «Ἐγερθεὶς» λέγων, «δεῦρο ἀκολούθει μοι ἱκανὸν γὰρ ὁ τόπος οὖτος γέγονε σκήνωμα θεῖον. 2 οὐκοῦν μεταναστὰς εἰς ἕτερον οἴκησον ὄν σοι ἔγωγε δείξω τόπον, ἐν ῷπερ τὸν τῆς ζωῆς χρόνον καλῶς τελέσεις.» 3 οὕτως εἰπὼν ἐπὶ τὰς ἐξοχὰς τῶν ὀρῶν ἀναφέρει τὸν Μακάριον, [Α f.197] εἶτα «Ἐνθαδε τὴν σὴν ποιήσας σκηνὴν» φησί, «κατασκήνωσον. 4 ἀλλὰ καὶ ναὸν οἰκοδόμησον διὰ τοὺς ἐρχομένους λαὸς γὰρ πολὺς ἐνθάδε μέλλει ἀναληφθῆναι. σύσκηνοί τε καὶ ἐφάμιλλοι ἔσονται, τῆς [Β f.205^{rb}] θείας ὄντως οἰκονομούσης προνοίας.»

5 ὁ δὲ ὡς ἐδιδάχθη ποιήσας, αὐτόθι μέχρι τελευτῆς καὶ ἐν τραχυτέροις πόνοις ἀσκητικοῖς βιώσας, τὸν βίον κατέληξε. 6 διὸ καὶ ἄχρι τῆς σήμερον ἡ τοῦ Μακαρίου μονὴ ἐκεῖνο τὸ χωρίον ἐπονομάζεται.

XXX マカリオス、悪霊にほとんど生き埋めにされる

1 'Εν τούτῳ οὖν τῷ τόπῳ πολλὰς καὶ ποικίλας ὑπέστη ἐπηρείας, δεινῶς ὑπὸ τῶν δαιμόνων ἐνοχλούμενος καταφανῶς καὶ ἀδήλως μαχομένων, καὶ ταῦτα μόνος κατὰ μόνας. 2 ἐπεὶ δὲ τῶν παρ' αὐτὸν ἀφικνουμένων καὶ συνοικῆσαι αἱρετισαμένων πλεῖστον ἦν τὸ πλῆθος, καὶ ἡ τοῦ ὕδατος πολλὴ ἦν χρεία, λάκκον ὀρύσσειν ἐπεχείρει σὺν τοῖς προσοῦσιν αὐτῷ μαθηταῖς. 3 τελεσθέντος οὖν τοῦ ὀρύγματος καὶ τῆς τῶν λίθων οἰκοδομῆς μέχρις ἡμίσεος ἀνερχομένης, τοὺς μαθητὰς ἀναπαῆναι τοῦ ἔργου ἐξέπεμψε.

4 μόνφ οὖν παρὰ τῷ λάκκφ καταλειφθέντι, ἀθρόον πλῆθος δαιμόνων τούτφ ἐπέστη, ὅπερ αὐτὸν μανικῶς περιαρπάξαν τῷ [Β f.205^{va}] λάκκφ κατηκόντισε καὶ τὴν οἰκοδομὴν πᾶσαν κατ' αὐτοῦ κατέστρεψε. 5 καὶ ὃς τοῖς λίθοις

他の誰であれ、戦いにおいて受けないであろうほどの傷の多さを彼は負っていたのである。これらのことは以上.

XXIX 「マカリオスの修道院」の起源

1 ほどなくして、傷から癒されたマカリオスに、輝きわたる若者が現れて言った、「立って、さあ私について来なさい。この場所は十分な神の幕屋となったのだから。2 そこで [ここから] 離れて、私があなたに示す別の場所に住まいなさい。そこであなたは人生の時間をよく終えることになるだろう」。3 こう言ってから彼はマカリオスを山の高みに引き上げ、そして言う、「ここであなたの天幕をつくって住みつきなさい。4 また、来る者たちのゆえに宮をも建てなさい。多くの民がここで受け入れられることになるからだ。神の摂理の取り計らいによって、彼らはあなたと天幕を同じくする者。あなたの競争者となるだろう」。

5 彼は教えられたようにし、死の時までそこに、苛酷な禁欲的労苦を行なって生き、生涯を終えた。6 それゆえに、今日に至るまでその場所はマカリオスの修道院と呼ばれている。

XXX マカリオス, 悪霊にほとんど生き埋めにされる

1 さて、この場所で彼は多くのさまざまな攻撃に耐えた、公然と、また秘密裏に戦いを挑む悪霊どもにひどく悩まされたのであり、これらを彼は一人で独力で [耐えていた]. 2 彼のところにやってきて共に住むことを選んだ人々の多さは非常なものだったので、そして水の必要が大きなものだったので、彼は自分とともにいる弟子たちと一緒に水ためを掘ることに着手した。3 掘ることが終わり、石を建て上げることが半分まで済んだところで、彼は弟子たちを、仕事から休むよう送り出した。

4 水ためのところに一人残っていた彼に、悪霊の大群がいっせいに攻撃 してきて、狂ったように彼を拉し去って水ために叩きつけ、建造物全体を 彼に向けて倒壊させた。5 彼は怒りを向けられ、石によって首まで攻囲さ

335

μέχρις (48) αὐχένος χωσθεὶς πολιορκούμενος ἦν, καὶ παρόντος τῶν μαθητῶν μηδενός, ἐπὶ πολὺ τοῖς δεινοῖς ὁ Μακάριος ἐνεκαρτέρει.

6 ἐλθόντες δὲ μετέπειτα βραδέως οἱ μαθηταί, καὶ τὴν πτῶσιν θεασάμενοι τοῦ ἔργου «Εἰς μάτην ἐκοπιάσαμεν,» ἔλεγον, «ἰδοὺ γὰρ ἡμῶν τὸ ἔργον ἄπαν καταλέλυται. τἱ ἄρα τὸ αἴτιον;» 7 ταῦτα εἰπόντες καὶ τὰς ὄψεις τοῖς ἔνδον ἐπερείσαντες καὶ καλῶς περιεργασάμενοι, φρικτὸν θέαμα ἑώρων, τὸν οἰκεῖον διδάσκαλον τοῖς λίθοις ἄχρις αὐχένος συγκεχωσμένον. 8 καὶ ὡς εἶχεν ἕκαστος ταχέως ἐν τῷ λάκκῳ κατιὼν «Τίς σοι τοῦτο εἰργάσατο τὸ δεινόν, ὧ πάτερ» ἤρετο ἀνιώμενος. 9 ὁ δὲ τῆ θεία χάριτι ῥωννύμενος, μειδιάσας «Σπουδάσαντες» ἔλεγε, «τῶν λίθων ἀποσπάσατε, καὶ μηδένα ἔτερον ταῦτα δεδράκεναι λογίσησθε ἢ τοὺς μισοῦντας ἡμᾶς ἐχθρούς.» 10 οἱ δὲ σπουδῆ [Β f.205^{νb}] ὅση ἔξω πεποίηνται, εἶτα οἰκοδομήσαντες πάλιν τὸν λάκκον, ἐπὶ τῆ ἐκείνου προσηγορία ἀνόμασαν.

11 καὶ μετὰ τὴν [A f.198^r] αὐτοῦ ἀποβίωσιν πολλὰ θαύματα διὰ τοῦ ὕδατος ἐκείνου τοῦ λάκκου γεγενῆσθαι λέγεται, ποικίλαι γὰρ νόσοι τῆ ἐπικλήσει τοῦ Μακαρίου καὶ τῆ ἐκχύσει τοῦ νάματος ἐδραπέτευον.

XXXI 治癒者マカリオス

1 'Επεὶ δὲ τῆς φήμης τοῦ όσίου Μακαρίου πανταχοῦ διαθεούσης καὶ βασιλεῖς καὶ ἄρχοντας ἀνηκόους τῶν ἐκείνου καλῶν μὴ λιπούσης, οὐκ ἔμελλεν Αἴγυπτος μόνη παρ' αὐτὸν ἀφικομένη σωματικῶν τε καὶ ψυχικῶν ἱαθῆναι νοσημάτων, 2 ἀλλὰ καὶ τῶν λίαν διεστηκυιῶν πολλῶν πόλεών τε καὶ ἐπαρχιῶν τοὺς οἰκήτορας παραγενέσθαι ἔδει, τοὺς νοσοῦντας αὐτῶν ἔχοντας καὶ πάντας ἐκ τῆς ἀεννάου πηγῆς τῆς χάριτος ἀρρυομένους, τὰς νόσους ὑγιεῖς ἐπανιέναι εἰς τὰ ἴδια. 3 καὶ ἦν ἱδεῖν περὶ τὴν κέλλαν τοῦ ὀσίου πλήθη τῶν ἀσθενούντων πλεῖστα, τῶν μὲν ἐπὶ κραββάτων, τῶν [B f.206^{ra}] δὲ ἐν φορίοις

⁽⁴⁸⁾ μέχρις] scripsi; Α μέχροις

れた状態にあった. そして、弟子たちが誰もいなかったので、マカリオスは長い間この恐るべき状況を耐え抜いた.

6 その後遅くなって弟子たちがやってきて、自分たちの仕事が崩壊したのを見て言った、「努力が無駄になった、見ろ、私たちの仕事はすべて壊れてしまった。何が原因なのだろう」、7 こう言って顔を中へと向け、よく見回して、彼らは恐るべき光景、すなわち自分たちの師が石で首まで埋まっているのを目にした。8 各々できる限り速やかに水ためへと降りてきて、悲しい様子で尋ねた、「誰があなたにこんな恐ろしいことをしでかしたのですか、師父よ」。9 彼は神の恵みによって強められ、微笑んで言った、「急いで [私を] 石から引き抜いてくれ、これをしたのは他の誰でもなく、私たちを憎む敵どもだと思いなさい」。10 彼らは一生懸命に [彼を] 外に出した、それからもう一度水ためを建て上げ、彼の名に因んで命名した。

11 そして彼の死後、多くの奇跡がその水ための水によって起きたと言われている。すなわち、さまざまな病が、マカリオスの名を呼ぶことと、水を注ぐこととによって、退散したのである。

XXXI 治癒者マカリオス

1 聖なるマカリオスの評判は至るところを行きめぐり、彼の善業を聞かずにいるよう王や支配者たちを放置しておくこともなかったので、エジプトだけが身体及び魂の病から癒されるよう彼のもとにやってきたのではなく、2 非常に遠く隔たった多くの都市・属州の住人たちもまたやってこなければならなかったのであって、病める者を抱えていた人々は、またすべての人は、恵みの尽きざる泉から汲み、病が癒されて自分たちのところへと帰っていくこととなったのである。3 こうして聖人の僧房の周りに、病んでいる者たちのものすごい大勢が、或る者は寝台の上に、或る者は担架

καὶ ἐτέρων ἄλλοις ἐπιστηριζομένων τε καὶ χειραγωγουμένων.

4 ὁ δὲ τῆ ἀλοιφῆ τοῦ ἐλαίου καὶ ἐπικλήσει τοῦ Χριστοῦ μόνη ὑγιεῖς πάντας ἐδείκνυ. 5 πηροὺς μὲν βλέπειν, ἀναπήρους δὲ ἄλλεσθαι, καὶ τοὺς μὲν ὑπὸ πνευμάτων ἀκαθάρτων ἐνοχλουμένους σώφρονας ἐποίει λεπροὺς δὲ ἐκάθαιρεν, ἐνίοτε δὲ καὶ νεκροὺς ἤγειρε.

6 ταῦτα οὖν τῆς ὑπερβαλλούσης αὐτοῦ ταπεινώσεως καὶ πολλῆς ἀγάπης πρὸς τὸν Θεὸν πλεονεκτήματα καὶ ἔτερα τῶν χαρισμάτων ἄπειρα. ὀλίγα δὲ ἐκ τῶν πολλῶν ῥηθήσεται ἐπὶ τῶν ἐφεξῆς.

XXXII 悪霊に憑かれた者の癒し

1 'Ηνέχθη τῷ Μακαρίῳ ποτὰ κωφός τε⁽⁴⁹⁾ καὶ ἄλαλος δαιμονίων μεστός, ἀλύσεσί τε καὶ κλοιοῖς πεπεδημένος. 2 καὶ ἰδὼν αὐτὸν ὁ μέγας ἐν θαύμασι Μακάριος ἀνεθῆναι τῶν δεσμῶν κελεύει τὸν ἄνδρα. 3 οἱ δὰ «Τοὺς παρόντας συντρίψει» ἔλεγον, «καὶ συνθλάσει, εἴγε ἄνετος γίνεται.» 4 τοῦ δὰ καὶ αὖθις τῶν δεσμῶν κελεύοντος εἴξαντες τοῦτον ἀφέντες, πορρωτάτω φεύγοντες ῷχοντο. [Β f.206^{rb}]

5 ὁ δὲ μόνος τὰς ἀλύσεις βιαζόμενος εἰς μέρη κατακόψας ἀνεῖται, εἶτα ἐπὶ τὰς κορυφὰς τοῦ ὄρους ἀπήει (50) ἀφρίζων, καὶ ὡς κάμηλος ἀσήμους ἀποπέμπων φωνάς: εἶτα ἐπάνεισι δεινῶς ὁρμώμενος. 6 οἱ δὲ ἄνδρες ἄγαν ἐδεδίεισαν, τῷ ὑσίῳ λέγοντες: «"Οντως ἡμᾶς ἀφανιεῖ διὰ τῆς ὑπερβολῆς τῆς αὐτοῦ ἰσχύος, ἐὰν πρὸς ἡμᾶς ἐάσης αὐτὸν ἐλθεῖν.» 7 τὸν δὲ μέγαν «Μὴ φοβεῖσθε» [A f.198] φάναι «ὑμεῖς.»

8 ἐπὶ πολὺ δὲ ὧδε κἀκεῖσε περιϊόντα, πιεζόμενον ἐπανιέναι τὸν ἄνδρα πρὸς τὸν ἄγιον, καὶ ὃς «Τὶ σοί ἐστιν ὄνομα» ἤρετο· τὸν δὲ λεγεῶνα καλεῖσθαι αὐτὸν

⁽⁴⁹⁾ κωφός τε] scripsi; Α κωφὸς τὲ

⁽⁵⁰⁾ ἀπήει] scripsi; Α ἀπείη

の中に,他の者は別の人々によりかかり導かれて,[群れを成しているのを] 目にすることができた.

4 彼は塗油と、キリストの名を呼ぶことのみで、すべての人を健康にしてみせた。5 彼は盲人が見えるようにし、足の不自由な者が跳ねるようにし、汚れた霊に悩まされる者が正気になるようにした。またらい病人を清め、時には死者をよみがえらせすらした [cf. マタ11.5].

6 さて、これらのすぐれた行為、またその他無数の賜物は、彼の過剰なまでの謙遜と、神への非常な愛との成せる業である。続く箇所で、多くの中から少しが語られることとなる。

XXXII 悪霊に憑かれた者の癒し

1 或る時マカリオスのところに、耳が利かず話せず、悪霊に満たされた者が、鎖と首輪とにつながれて連れてこられた。2 奇跡において偉大なるマカリオスは彼を見て、男を縄目からほどくよう命じる。3 人々は言った、「もし自由の身になれば、彼は居合わせる者たちを打ちのめしてぶちのめしますよ」。4 マカリオスがなおも命じるので、彼らは譲歩してこの者を縄目からほどき、遠くへと逃げて離れた。

5 男はひとりで、鎖を力で粉々に砕いてほどき、それから山の頂へと向かった、泡を吹き、かつらくだのようにはっきりしない声を出しながら、それから彼は恐ろしい勢いで突進して戻ってくる。6 人々はひどく恐れ、聖人に言った、「本当に奴は、そのべらぼうな強さで私たちを亡き者にするでしょう、もしあなたが、彼が私たちの方に来るのをお許しになるなら」。7 偉大なる者は「あなたがたは恐れるな」と言ったという。

8 長い間ここかしこを行きめぐった男は窮迫して聖人のもとに戻ってきて、そして聖人は、「お前の名は何という」と尋ねた、男はレギオンとい

εἰρηκέναι. 9 καὶ ὁ Μακάριος «ἐν τῷ ὀνόματι τοῦ κυρίου ἡμῶν Ἰησοῦ Χριστοῦ ῷ πᾶσα τῶν δαιμόνων διώκεται δύναμις, ἔξελθε ἀπ' αὐτοῦ, καὶ μηκέτι εἰς αὐτὸν εἰσέλθης.» 10 ταῦτα εἰπόντος, παραχρῆμα τὰ μὲν τῆς κακίας πνεύματα ὁλολύζοντα καὶ κακῶς αἰκιζόμενα τῆ τοῦ λόγου μάστιγι ἐξίασιν.

11 ό δὲ ἀνὴρ χαμαὶ πεσὼν ὡσεὶ νεκρὸς ἔμεινε κείμενος. 12 ὕδωρ δὲ λα-ι βὼν [Β f.206^{va}] ὁ ἄγιος ἐν χερσὶ, καὶ σφραγίσας αὐτὸ τῷ τιμίῳ καὶ ζωοποίῳ σημείῳ καὶ ἐπ' αὐτοῦ καταρράνας, εἶτα καὶ ἐκ τῆς φωταγωγοῦ ἄγιον ἔλαιον ἐπευλογήσας, τήν τε γλῶτταν καὶ τὰς ἀκοὰς ἐπαλείψας, καὶ χερσὶν κρατήσας ἤγειρεν αὐτόν «Ἄπελθε» λέγων, «οἴκαδε ἐν εἰρήνη.» 13 ὁ δὲ λαλῶν καὶ ἀκούων ἐμφρόνως, ἀπήει τὸν Θεὸν ἀνυμνῶν καὶ τῷ ὁσίῳ εὐχαριστῶν εἰς τὰ ἴδια. καὶ ταῦτα μὲν περὶ τούτου.

XXXIII 霊の識別

1 Δεῖ δὲ καὶ περὶ κρίσεως πνευμάτων καὶ ἀοράτων ἐπιγνώσεως, ὅπως τε (51) ἢν ταχέως τὰς ἐναντίας διακρίνων δυνάμεις καὶ ἀπρόσιτος ταῖς σφῶν μηχαναῖς, καὶ πῶς τῶν θείων εὐπρόσιτος, διὰ βραχέων εἰπεῖν.

2 ἐν μία οὖν νυκτὶ πληθὺς δαιμόνων ἐπιστᾶσα τῷ θείῳ Μακάριῳ ἄνωθεν τῆς κεφαλῆς κοιμωμένῳ « Ἔγειρε, Μακάριε,» φησί, «συμψάλλων ἡμῖν τὰς θεϊκὰς καὶ οὐρανίους ὑμνωδίας.»

3 ὁ δὲ ἀναστὰς καὶ περιεργαζόμενος ἰδεῖν τίνες τε (52) εἶεν οὖτοι οἳ (53) πρὸς τὰς νυκτερινὰς αὐτὸν διεγείρουσιν [Β f.206^{νδ}] ῷδάς, καὶ τίς ἡ περὶ τοῦτο τούτοις σπουδή, ἐπεὶ τὰς ἀντικειμένας δυνάμεις ἔγνω εἶναι τοὺς ἐπιστάντας, «Πορεύεσθε ἀπ' ἐμοῦ,» ἔφη, «οἱ κατηραμένοι εἰς τὸ πῦρ τὸ αἰώνιον τὸ

⁽⁵¹⁾ ὅπως τε] scripsi; Α ὅπως τὲ

⁽⁵²⁾ τίνες τε] scripsi; Α τίνες τὲ

⁽⁵³⁾ oil scripsi; A oi

う名だと言ったという[cf. マコ5·9]. 9 そしてマカリオスは[言った],「悪霊のあらゆる力を追い出す名である, 我らの主イエス・キリストの名によって, お前は彼から出て行け, そしてもう彼の中には入るな」. 10 彼がこう言うと, 直ちに悪の霊どもは, 叫び声を上げ, また言葉の鞭によってひどく痛めつけられて, 外に出てくる.

11 男は地面に倒れて、死者のようにそこに横たわったままだった。12 聖人は手に水をとり、命をもたらす尊いしるしによって水にしるしをし、彼の上に振りまき、それから光をもたらすものから取り出して聖なる油を祝福し、舌と耳に塗り、手で摑んで男を立たせて言った、「平和のうちに家に行きなさい」。13 男は正気で話し、聞くことができ、神を賛美し聖人に感謝しつつ自分のところへと戻っていった。この男に関してはこういったことである。

XXXIII 霊の識別

- 1 霊の弁別、見えないものの認識についても、彼がどのように速やかに 敵対的な諸力を識別し、彼らの策略に対して動じず、またいかによく神的 なものに近づきえたかということを、短く語らなければならない。
- 2 そこで、或る夜悪霊の群れが、寝ている聖なるマカリオスに頭上から 近づいてきて言う、「起きろ、マカリオス、我々と一緒に聖なる、天の讃 歌を唱えよう」.
- 3 彼は起き上がり、夜の歌のために自分を起こすこの者たちは何者か、これに関するこの者たちの熱意は何なのかを知ろうと、あたりを探り、近寄ってきた者どもが敵対的な諸力だと知ったので、彼は言った、「私から離れろ、おまえたちに用意された永遠の火の呪いに定められた者ども」[cf.

ήτοιμασμένον ύμιν.»

4 οἱ δὲ «Ἐβλασφήμησας» ἔφασαν, «ὑβριστικῶς οὕτως ἀντιφθεξάμενος ἡμῖν. 5 ἔγειρε τοιγαροῦν ἀδιστάκτῷ γνώμη καὶ προθύμῷ καρδίᾳ· οὐδεὶς τῶν δαιμόνων πρὸς δοξολογίαν ποτὲ διεγείρει, ἢ εἰς προσευχὴν παροτρύνει καὶ ἐπαλείφει τινά.»

6 εἶτα δὶς καὶ τρὶς φωνήσαντες «Ἔγειρε, ἔγειρε συμψάλλων ἡμῖν,» διὰ τῶν τριάδος δηλωτικῶν φωνῶν πεισθῆναι τὸν Μακάριον ἄοντο· ὁ δὲ θαρραλέως ἀλογήσας αὐτῶν κατηρᾶτο. 7 οἱ δὲ πληγέντες τὴν καρδίαν, μὴ φέροντες ὑπ' αὐτοῦ καταφρονούμενοι [A f.199^r] ὀφθῆναι, εὐθὺς ὡρμῶντο ἐπ' αὐτὸν, καὶ τρίζοντες τοὺς ὀδόντας αὐτῶν τὰς σάρκας αὐτοῦ ἔρρηξαν, καὶ τὸ ψιάθιον κατεσπάραξαν τοῖς ὀδοῦσιν αὐτῶν δεινῶς θρασυνόμενοι.

8 ὁ δὲ ἄγιος «Βοήθει μοι, φιλάνθρωπε [B f.207^{ra}] Χριστέ» ἔφη. καὶ ώσεὶ καπνὸς διαλυθέντες, παραχρῆμα γίνονται ἀφανεῖς. καὶ ταῦτα μὲν περὶ τῶν πονηρῶν δαιμόνων.

XXXIV マカリオスの非常なまでの謙遜

1 'Ρηθήσεται δὲ καὶ περὶ ἀγαθῶν ἐπιστασίας καὶ ἐνθέου ὁμιλίας· καθεζομένφ τοίνυν ἐν τῷ αὐτοῦ κελλίφ, ἐφίσταται τῷ Μακαρίῳ ἄγγελος
ἀγαθός. 2 καὶ θεασάμενος τὸν ὀφθέντα ὁ ὅσιος καὶ ἐπιγνοὺς αὐτὸν τίς ἄν καὶ
εἴη, λίαν τῆ ὄψει ἐχάρη. 3 ὁ δὲ «Μὴ φόβου, Μακάριε,» ἔφη, «μηδὲ δέδιε τὰς
τῶν δαιμόνων προσβολάς, νῦν γάρ σοι δέδωκεν ὁ ἀγωνοθέτης Θεὸς ἰσχὺν
κατ' αὐτῶν. ἀνδρείως οὖν πολέμησον, καὶ τὰς ἀρχὰς καὶ τὰς ἐξουσίας τοῦ σκότους νίκησον. 4 πλὴν οὖν τὸν δοτῆρα τῶν χαρισμάτων διὰ παντὸς ἔσο δοξάζων
καὶ εὐχαριστῶν. καὶ πρόσεχε σεαυτῷ ἐπ' ἔργῳ μὴ ἐπαρθῆς, ἵνα μὴ ἐκπέσης ἐκ
τῶν σῶν καμάτων καὶ πολλῶν ἱδρώτων.»

5 ἀποκριθεὶς δὲ ὁ θεῖος Μακάριος «Κατὰ τίνα» ἔφη, «τρόπον ἐπαίρομαι, ὧ θειότατε; ἰδοὺ δὴ ταῖς δυσωδίαις τῶν ἀκαθάρτων καὶ τῶν ἐναντίων λο\γισμῶν [Β f.207^{rb}] τῶν ἀεὶ ὑπὸ τῶν δαιμόνων εἰσφερομένων, τέτηκταί μου ἡ ψυχή, καὶ

マタ 25・41].

4 彼らは言った、「我々にそのようなひどい答えをして、我々を冒瀆したな. 5 さあ、ためらわぬ考えとはやる心とをもって起きるのだ、賛美のために人を起こす悪霊は、また人を祈りへと促し励ます悪霊は、かつていたためしがない |

6 それから二度、三度彼らは「起きよ、起きよ、我々とともに歌うのだ」と声を上げた後、彼らは、マカリオスが三位一体の明示的な声によって確信を得ているのだと思った。彼はと言えば、言葉を出さずに勇敢に彼らを呪っていた。7 彼らは心を [鞭] 打たれ、彼に軽蔑された者と見られることに耐えられず、すぐに彼に突進していった。そして歯ぎしりして彼の肉を食いちぎり、恐ろしく大胆にもござを歯で粉々に嚙みちぎった。

8 聖人は「人間を愛するキリストよ、私を助けてください」と言った. すると煙のように彼らは溶解して、たちまち見えなくなった. 悪い悪霊ど もについてはこういったことである.

XXXIV マカリオスの非常なまでの謙遜

1 善いものの顕現、聖なる交わりについても語られることとなる。そこで、僧房で座していたマカリオスのところに、善い天使が現れる。2 現れた者を見た聖人はそれが誰かを知って、その現れに非常に喜んだ。3 現れた者は言った、「恐れるなマカリオス、また、悪霊どもの攻撃をも恐れるな。闘いの審判者であられる神は今やお前に彼らに対する強さをお与えになったのだから、だから、男らしく戦い、闇の権威を負かしなさい。4 そこで他方、賜物の与え主をつねに崇め、その方につねに感謝しなさい。そして、思い上がらないよう、自分の労苦と流した多くの汗とから逸脱しないよう、自分自身の行ないに気をつけなさい」。

5 聖なるマカリオスは答えて言った、「おお最も神聖なる方、どうして 私が思い上がりましょうか、ご覧ください、悪霊どもによって絶えず持ち 込まれる汚れた敵対的な思念の腐臭によって、私の魂は溶けてしまい、望

343

μετὰ τῶν ἀπεγνωσμένων ἔοικε πόρνη ἡ ἀθλία. 6 καὶ οὔτε ἔργον, οὕτε σπούδασμα, οὔτε ἄλλό τι εὑρίσκω βοηθὸν ἐν τοῖς πειρασμοῖς, εἰ μὴ τὸν Θεὸν καὶ τοὺς ἀγαθοὺς αὐτοῦ οἰκτιρμούς » 7 τὰς δὲ ἰάσεις, τίνος ἄλλου ἣ τοῦ μόνου Θεοῦ ὑποληπτέον εἶναι, καὶ τῆς ἐκείνου ἔργα δυνάμεως μετὰ πάσης μὲν οὖν ταπεινοφροσύνης τὸν Μακάριον εἰρηκέναι.

8 ὁ δὲ ἄγγελος, ἐνισχύσας αὐτὸν καὶ δοὺς εἰρήνην, ἀπήει. ᾿ Αλλὰ ταῦτα μὲν ὧδε.

XXXV マカリオス、奥まった砂漠で二人の裸の隠者を発見

1 Τῷ δὲ θείφ ἀνδρὶ λογισμὸς ἔπεισιν εἰ ἔστι τίς ἐν τῆ ἐνδοτέρᾳ ἐρήμφ οἰκήτωρ διάγων. καὶ ἐπὶ τρισὶν ὑπέμεινε χρόνοις τῷ λογισμῷ μαχόμενος· ἐπεὶ οὖν οὐ τῶν ἐναντίων εἶναι ἐπέγνω τὸν λογισμόν, ἀναστὰς ἐπὶ τὰ ἐνδότερα τῆς ἐρήμου εἰσήει. 2 τεσσάρων δὲ ἡμερῶν διανύσας ὁδόν, εὖρε λίμνην καὶ πεδιάδα ἐν ἢ καὶ φυτὰ κατάκομα δένδρα. 3 ἔνθεν δὲ κἀκεῖθεν τὸν [B f.207^{va}] τόπον [A f.199^v] κατανοήσας, δύο ἄνδρας ἑώρα γυμνούς, οῦς πνεύματα εἶναι οἰόμενος ἐταράχθη.

4 οἱ δὲ τοῦτον τεταραγμένον ὁρῶντες, προσῆλθον αὐτῷ λέγοντες «Μὴ φόβου, ὧ Μακάριε, ἡμᾶς· ἄνθρωποι γὰρ καὶ ἡμεῖς τυγχάνομεν ὁμοιοπαθεῖς καὶ ἐκ μιᾶς φύσεως, ταύτην οἰκοῦντες τὴν ἔρημον, καὶ οὐχ, ὡς σὸ ὑπέλαβες, πνεύματα.»

5 ὁ δὲ Μακάριος «βαβαί,» φησίν, «ὧ θειοτάτη ξυνωρίς, ὅπερ γὰρ ἐζήτησα, οὐ μακράν με τούτου διίστησιν ὁ Θεός. εὐχαριστῶ οὖν αὐτοῦ τῷ ὀνόματι, ὅτι ἡξίωσέ με τὸν εὐτελῆ ὑμᾶς ἰδεῖν τοὺς θεοφόρους πατέρας, καὶ τῶν τιμίων εὐχῶν ὑμῶν ἀπολαῦσαι.» 6 ταῦτα εἰπών, ὡς εἶχε τάχους τούτοις προσέδραμε, καὶ προσπελάσας χαμαὶ προσκυνήσας, τῷ ἐδάφει προσερρείσας πρόσωπόν τε καὶ μέτωπον, εὐχὴν ἡτήσατο. καὶ ὑπερευξάμενοι ἀλλήλων, ἀσμένως ἠσπάζοντο ἀλλήλους.

7 ἔπειτα πῶς τε ἔχοιεν καὶ πῶς ἀσκήσειαν καὶ πότε τὴν ἔρημον ικησαν

みを全く失った者たちとともに、みじめな私の魂は娼婦に似ています.6 そして、試みにおいて私の助けは、わざでもなく熱心な行ないでもなく、神とその善き憐れみとのほかにはありません」.7 そして癒しは他の誰でもなくただ神の業であり、その方の力の成せることだと理解しなければならないと[いうこと] ——さて、マカリオスは非常な謙遜と共に[これらのことを]言ったのだという.

8 天使は彼を強め、平和を与えて去った。これらのことは以上、

XXXV マカリオス. 奥まった砂漠で二人の裸の隠者を発見

1 自分より奥まった砂漠に誰か住人として過ごしている人がいるかどうかという思念が、聖なる男にやってくる。そして三年の間彼は思念と戦い、思念が敵からのものでないと知ったので、立って砂漠の奥まったところへと彼は入っていった。2 四日の間歩き通した後、池と、生い茂った木が生えている平原とを彼は見つけた。3 そして、そこかしこと場所を探ったところ、彼は二人の裸の男を目にした。彼らは霊だろうと思って、彼は動揺した。

4 彼らの方は、彼が動揺しているのを見て、近寄ってきて言った、「私たちを恐れなさるな、おおマカリオスよ、私たちもまた、同様に感じる、一つの本性から成り、この砂漠に住む人間なのであって、あなたが想像したような霊ではありません」.

5 マカリオスは言う、「おお至聖なるお二人組、私が探したところのものから遠くないところに、神が私を置いておられるとは、それゆえその御名に私は感謝します、なぜなら神は粗末な私を、神を担う師父であるあなた方を見、あなたがたの尊い祈りを享受するに値する者としてくださったからです」。6 こう言って、彼は速やかにこの人々のもとに走りより、着くと地にひれ伏して、顔と額とを地面にこすりつけて、祈りを求めた。そして互いのために祈った後、彼らは喜んで互いに挨拶した。

7 それから彼は、彼らがどのように過ごし、どのような禁欲生活を行い、

[Β f.207°^b] διεπυνθάνετο. 8 οἱ δὲ «Ἡμεῖς» εἶπον, «οὐδέποτε μοναστηρίφ ψκήσαμεν, οὐδὲ μὴν ἔνδυμα τοιοῦτον ὁ νῦν σε περιβεβλημένον ὁρῶμεν (54) ἐνεδυσάμεθά ποτε. 9 ἀλλ' οὕτως ἔτερος ἐτέρφ συμφωνήσαντες (θεῖος γὰρ ἡμᾶς ἐκίνησεν ἔρως καὶ πόθος ἀκατάσχετος), καὶ πάντα τὰ τοῦ βίου τερπνὰ καὶ τὰ τῆς νεότητος θέλγητρα τοῖς ταῦτα ποθοῦσιν ἐάσαντες, ἐν τῆδε τῆ ἐρήμφ ἤκομεν. 10 καὶ ἔκτοτε οὐδεὶς ἡμῖν ὤφθη θεατὴς ἄχρι τῆς σήμερον ἄνθρωπος πλὴν οὖν θηρίων παντοίοις εἴδεσι συμπεριϊόντες πανταχοῦ, ἀσινεῖς τῆ χάριτι διεφυλάχθημεν. 11 καὶ ἐσμέν, ὡς ὁρᾶς, γυμνοὶ ὕπαιθροι (55) ὄντες χειμῶνι καὶ θέρει, πάσχοντες οὐδὲν τῶν λυπηρῶν, τῆς θείας ἡμᾶς περιεπούσης προνοίας. καὶ ταῦτα μὲν τὰ καθ' ἡμᾶς, ὧ φιλότης. 12 εἰπὲ δὲ ἡμῖν καὶ σὰ τὰ κατὰ τὸν κόσμον, καὶ πῶς ἔχει τὸ χριστιανῶν φύλον καὶ οἱ προσκυνηταὶ τῆς ἀγίας τριάδος.»

13 ὁ δὲ Μακάριος καλῶς ἔχοιεν ἀπε'κρίνατο, [B f.208^{ra}] « Υμῶν αὐτῶν ὑπερευχομένων ἐπεσκέψατο γὰρ ὁ Θεὸς τοὺς δούλους αὐτοῦ μέχρι τῆς δεῦρο διαφυλάξας αὐτούς. καὶ πάντες εἰρηνικὴν πολιτείαν διάγουσιν οἱ Χριστώνυμοι. 14 πλὴν οὖν ἔγωγε σήμερον πρὸς τῆς θείας οἰκονομίας μεγάλως ὑπὲρ πάντας εὐηργετήθην, ὑμᾶς [A f.200^r] θεάσασθαι καταξιωθεὶς τοὺς τιμίους πατέρας.»

15 ταῦτα εἰπών, εὐχὴν ποιησάμενοί τε καὶ συνταξάμενοι ἀλλήλοις, ἐπανῆκε δοξάζων τε $^{(56)}$ καὶ εὐχαριστών τῷ τῆς εὐχαριστίας ἀξί φ Θε φ .

XXXVI 墓に泊まって死人と話す

1 'Αλλ' ἵνα μὴ μόνη ἡ ἔρημος τῶν ἐκείνου καλῶν κατάκομος εἴη ὑποπτευθεῖσα, ἀλλ' εἶναί τε καὶ ἐν διαφόροις τόποις τοὺς λαμπροὺς αὐτοῦ

⁽⁵⁴⁾ ὁρῶμεν] scripsi; Α ὡρῶμεν

⁽⁵⁵⁾ ὕπαιθροι] scripsi; Α ὕπεθροι

⁽⁵⁶⁾ δοξάζων τε] scripsi; Α δοξάζων τὲ

いつ砂漠に住みついたかを尋ねた.8 彼らは言った,「私たちは修道院に住んだことは一度もありません,また,今あなたが着ているのを目にしている,そのような服を私たちは一度として着たことがありません.9 互いが互いと同意見となって(神の愛と抑えがたい憧れとが私たちを突き動かしたのです),人生のあらゆる喜びと若さの魅力とを,そういうものを欲しがる者たちに任せて,私たちはこの砂漠へやってきました.10 そしてそれ以降今日に至るまで,私たちを見に来た人間に会ったことは一人としてありません.しかし獣のあらゆる種類とはそこらじゅうで出くわし,恵みによって私たちは無傷で守られてきました.11 ご覧のとおり,私たちは裸で,冬も夏も屋根なしで,神の摂理が私たちを取り扱ってくださるので,いかなる苦痛も受けずにいます.これが私たちに関することです,おお親愛なる方.12 私たちに世のことを,キリスト教徒の種族,三位一体の礼拝者がどうなっているかを言ってくださいし

13 マカリオスは、彼らはうまくいっていると答えた、「あなたがたご自身がお祈りくださっているので、すなわち神はご自身のしもべたちを今日に至るまで守ってこられ、彼らを見守っておられます。14 しかし私は今日神の経綸によって、すべての人に優って良い扱いを受けました、尊い師父であるあなたがたを見るに値する者とされたのですから」

15 こう言って、彼らが祈りをし互いに暇乞いをした後、彼は感謝に値する神に感謝し、かつあがめながら戻っていった。

XXXVI 墓に泊まって死人と話す

1 さて、砂漠だけが彼の善業で飾られていたとみなされることのないよう、さまざまな場所においても彼の輝かしい闘いに対する驚嘆が見られる

θαυμάζεσθαι άγωνας ὁ λόγος διδάσκειν βούλεται.

- 2 ἔννοιά ποτε τὸν θεῖον ἐπεισῆλθε Μακάριον κώμης οἰκῆσαι πλησίον, καὶ παραγενόμενος ἔν τινι Ἑλληνικῷ εἰσιὼν ῷκησε μνημείῳ χρόνοις ἐπὶ τρισί.
 3 μετὰ δὲ τὸν τρίτον, τὴν πήραν αὐτοῦ λαβὼν παρὰ τὴν ἔρημον ἐπανιέναι ὀρμώμενος ἦν ἀψαμένου δὲ τῆς θύρας τοῦ [B f.208^{rb}] μνημείου καὶ οὔπω τελείως ἐξιόντος, εν τῶν κειμένων σωμάτων ἀναστὰν ἐπέσχε τε καὶ ἐκώλυε τὴν τοῦ μεγάλου ἔξοδον, εἰπὼν «Ποῦ ἀπέρχη, δοῦλε τοῦ Θεοῦ ὑψίστου;»
 - 4 ὁ δὲ «Τίς εἶ σὺ ὁ τὴν ἐμὴν ὁρμὴν ἐπισχών;»
- 5 ὁ δὲ «Τῶν νεκρῶν εἷς ἔγωγε ὑπάρχω,» φησίν, «θείω νεύματι ἀρτίως άναστάς, την σην πρός Θεόν οἰκείωσίν τε καὶ μεγίστην τιμην δηλώσαί σοι, καὶ οἵας ἐπιτεύξονται παρακλήσεως μετὰ θάνατον οἱ τῆς σῆς τυχόντες εὐχῆς. 6 πάντων γὰρ τῶν ἐνθάδε κειμένων Ἑλλήνων ὄντων σωμάτων τῶν πάλαι τεθνηκότων, καὶ μηδεμιᾶς ἀνέσεως διὰ τὴν εἰς Θεὸν ἀσέβειαν ἀξιωθέντων, άλλ' έν μυχοίς του άδου ταίς πικροτάταις τιμωρίαις παραδοθέντων, 7 άμα τή έλεύση σου πρὸς ἡμᾶς ἐνθάδε, εἴτε διὰ τῆς ἐντεύξεώς σου περὶ ἡμῶν πολλάκις γενομένης, είτε διὰ τῆς συνοικήσεώς σου παρ' ἡμῖν, ἀπέδρα ἀφ' ἡμῶν ἡ σφοδροτάτη τῶν βασάνων ἐκείνων ὀδύνη, καὶ ἀνέσεις οὐ βραχεῖαι ἐγένοντο ήμιν. 8 έπει δε [B f.208^{va}] και ό Θεός σοι δήλα τα καθ' ήμας γενέσθαι βουλόμενος, διά τε ὑπερβολὴν ἦς πρὸς αὐτὸν ἐνεδείξω ἀγάπης, καὶ διὰ τὸ μὴ ἐπιδοιάζειν ὑπερεύχεσθαι τῶν ἀπελθόντων, μὴ δὲ εἰκῆ τοὺς εὐχομένους νομίζεσθαι, τοῦ ἄδου ἀποκαθίστησί μου τὴν ψυχήν· μὴ οὖν γε καὶ νῦν, τῶν καλῶν εὐεργέτα, ἡμῶν ἀποστῆναι θελήσειας, δέομαι. 9 διὸ καὶ τὴν ἔξοδόν σου ἀπρὶξ έπισχεῖν βούλομαι ἔγωγε, πρᾶγμα γὰρ οὐκ ἀνεκτὸν ἔγομεν τὴν σὴν ἀφ' ἡμῶν ἀναχώρησιν.»

10 ταῦτα εἰπόντος [A f.200°] ἐκείνου, εὐθέως φωνὴ ἄνωθεν ἡκούετο «Ἄφες» λέγουσα, «τὸν δίκαιον ἐπὶ τὸν ἴδιον ἐπανιέναι τόπον.» 11 καὶ ἄμα τῆ φωνῆ ἐκεῖνος μὲν ὁ τῶν νεκρῶν ἀναστάς, παραχρῆμα τῷ ἐδάφει πεσών, τοῖς νεκροῖς ὡς πάλαι ἐπέκειτο νεκρός.

ということを、本書は教えたいのである.

2 或る時、村の近くに住むという思いが聖なるマカリオスのうちに入り 込み、そこで彼は行って、或る異教徒の墓に入り、そこに三年間住んだ。 3 三年目の後、彼は自分の頭陀袋を持って砂漠へと戻ろうとし始めた、そ して墓の戸に触れ、まだ完全に出切っていなかったところ、横たわってい た体の一つが起き上がり、偉大なる者の出離を抑え阻んで言った、「どこ へ行くんだ、いと高き神のしもべ」。

4 マカリオスは言った。「私の出立を邪魔するお前さんは誰だね」

5 彼は言う、「死人の一人だよ、神様のお許しが出たので、今しがた起 き上がったのさ、あんたが神様と親しくしていること、大変な名誉〔を得 ていること].また.あんたの祈りを得た人々が死後にどのような慰めを 味わっているかを、あんたに示すためにね、6 つまり、ここに横たわって いる昔の死者の体はどれも異教徒のもので、神に対する不敬のゆえにいか なる和らぎにも値せず、ハデスの底でこの上なくつらい刑罰に付されてい る連中なんだが、7 あんたがここのわしらのところにやってくるや否や、 あんたがわしらのことでよくなさった願いのゆえにか、あんたがわしらと 一緒に住んでいることのためにか、かの拷問の非常な苦しみがわしらの中 から消え去ってね、なまなかでない和らぎがわしらに与えられたんだよ。 8 それでね,神様が,あんたにわしらのことが明らかになるようお望みな もので――あんたが神様に対してお見せになったべらぼうな愛のゆえに. また、過ぎ去った者たちのために祈ることに躊躇しないようになるため、 また、祈る者たちが無意味に「祈っているのだ」と思わないために――、 わしの魂をハデスからお戻しになってね、善を行なうお方よ、今もまた。 わしらから去ることを望まないようお願いしたいのだ. 9 だからあんたが 出て行くのをしっかり阻止したいと思ってね、というのも、あんたがわし らのところから去るのは受け入れられないものだから」.

10 男がこう言った後、すぐに上から次のように言う声が聞こえてきた、「義人が自分のところに戻るままにしなさい」、11 そして、声がするや否

349

12 ὁ δὲ θεῖος Μακάριος παρὰ τὴν οἰκείαν ἔρημον δοξάζων ἐπανῆκε τὸν τῆς δόξης ἄξιον Θεόν. Καὶ τοῦτο μὲν οὕτως.

XXXVII 復活について、或る禁欲者との議論

1 Έτερον δέ τι τούτου φρικωδέστερόν τε καὶ λίαν παράδοξον ὑπομνῆσαι ὁ λόγος [B f.208^{νb}] βούλεται, δι' οὖπερ δειχθήσεται, ὅπως τὲ εἴη ἀσφαλῶς βαδίζων ὁ τῆ διακρίσει χρησάμενος, καὶ πῶς δεινῶς εἰς βάθη μοχθηρίας ἐξ ἀπροσεξίας καταποθείη ὁ ταύτην τὴν ἱερὰν μὴ ἔχων χρῆσιν.

2 ἦν δέ τις τῶν ἀσκητῶν πλησίον οἰκῶν κωμοπόλεως ὑψηλοτέρας ἀγωγὰς μετερχόμενος. 3 ἐπεὶ δὲ τὴν τῶν ἀρετῶν ἀκρόπολιν οὐκ εἶχε, φημί τὴν διάκρισιν, πάντων ἐξέπεσε τῶν καμάτων ὡς εἰκῆ ὀφθέντων, καὶ βυθοῖς κατηνέχθη ἀπωλείας, καὶ οὐ μόνος αὐτός, ἀλλὰ καί τι πλῆθος τῶν ἑπομένων ἄπειρον τούτφ συνηπείγετο (57), τῆ πλάνη οἰκειούμενον καὶ βλασφημίας ῥήματα φθεγγόμενον. 4 καὶ εἰ μὴ ἡ τοῦ Θεοῦ χρηστότης διὰ τοῦ Μακαρίου φθάσασα τὰς ἀτάκτους ἐπέσχεν ὁρμάς, οὐκ ἄν ἐσώθη πᾶσα σὰρξ, ὡς ὁ λόγος, ἀσεβεία ἐπομένη 5 ἀνοία γὰρ καὶ βλασφημία, ὧν οὐδὲν τῶν ὀλεθρίων παθῶν χαλεπώτερον, ἐάλω ὁ ἀγωνιστής, ἀδύνατον ἔσεσθαι φήσας μετὰ τὴν τοῦ σώματος φθορὰν [Β f.209^{ra}] ἐκ νεκρῶν ἔγερσιν, τοὺς δὲ γάμους πορνείας ἐπὶ ἴσης (58) εἶναι θεσπίσας, τῆς τούτων ἀντέχεσθαι ἀπήρξατο νομοθεσίας. 6 καὶ πολλοὺς ἐπὶ τῷ τοιούτφ ἀθέφ ἐπεσπάσατο δόγματι ὁμόφρονας ἄνδρας μέχρι πεντακοσίων, οῦς ἐκ τῶν οἰκείων γυναικῶν ἀνέπεισε χωρισθῆναι (59).

⁽⁵⁷⁾ συνηπείγετο] scripsi; Α συνεπείγετο

⁽⁵⁸⁾ ἐπ' ἴσης] scripsi; Α ἐπίσης

⁽⁵⁹⁾ χωρισθήναι] scripsi; Α χωρησθήναι

や,死人の中からよみがえったその男はたちまち地面に倒れ,以前同様,死人たちの横に死人として横たわった.

12 聖なるマカリオスは、栄光にふさわしい神を賛美しながら自分の砂漠へと戻った。これはこういうことである。

XXXVII 復活について、或る禁欲者との議論

1 さて、このことよりもさらに身震いすべき、きわめて信じがたい別のことに本書は言及したい、それによって、[霊の] 識別を行なう者がいかにしっかりとした歩みをするか、そのような神聖なる行ないができない者が、不注意ゆえにどのようにして、邪悪の深みへと恐るべく沈んでいくか、ということが示されるだろう。

2 或る町の近くに禁欲者が住んでおり、彼は高尚な闘いを営んでいた. 3 しかし徳の中のアクロポリス([霊の] 識別のことを私は言っているのである)を彼は持っていなかったので、あらゆる労苦から(その労苦が無駄なものと見えたかのごとくに)落ちてしまい、滅びの深みへと落ち込み、そして単に自分だけでなく、この者に従う人々の非常に大勢が[滅びの深みへと]急いでいき、誤謬に親しみ冒瀆の言葉を吐いていた。4 そして、マカリオスによって届いた神の善性が無秩序な攻撃を阻まなかったなら、言われるように、——不敬に従ってしまって——いかなる肉も救われなかっただろう[マタ 24・22].5つまり、かの闘争者[たる禁欲者]は、滅びをもたらす情動の中でこれ以上に厄介なものはないという愚昧と冒瀆とによって捕えられ、体が腐った後での死者からの復活は不可能であるだろうと言い、また、結婚は不品行に等しいという託宣を述べ、結婚の法に逆らいだしたのである。6 そして、五百人に及ぶ同じ考えの男たちを神な

7 ὁ δὲ ἐπίσκοπος τῆς ἐπαρχίας ἐκείνης σφοδρῶς ἡνιᾶτο καὶ ἔστενεν ἐπὶ τῆ τοῦ λαοῦ ἀπωλεία (60), καὶ πολλὰ τοὺς πεπλανημένους διδάξας καὶ νουθετήσας τῆς μιαρᾶς ἐκείνης ἀποστῆναι δόξης, διήνυεν οὐδέν, καὶ τί δράσειεν οὐκ εἶχε τοῖς ἀπειθέσιν. 8 ἐπεὶ δὲ ταῖς τῶν πάντων ἀκοαῖς εἰσφερόμενος ἦν ὁ περιβόητος Μακάριος, οὐκ ἔλαθε τοῦτον τὰ ἐκείνου χαρίσματα, [Α f.201^r] ἀλλὰ ἐπ' αὐτῷ μόνῳ τὰς ἐλπίδας ἐσάλευε· καὶ πρὸς αὐτὸν ἐποιεῖτο τὴν καταφυγήν. 9 τοῖς οἰκείοις γὰρ ποσίν, ὡς εἶχε, χρησάμενος ὁ ἐπίσκοπος ἀφικνεῖται πρὸς τὸν ὅσιον Μακάριον ἐν τῷ ὅρει τῆς Νιτρίας· 10 καὶ ἐντυχὼν αὐτῷ, προσέπεσε τοῖς ἱεροῖς [Β f.209^{rb}] αὐτοῦ ποσὶ, δάκρυσί τε καὶ στεναγμοῖς ἐποδυρόμενος τὴν συμφορὰν, «Πρὸς τῆς ἐν σοὶ χάριτος,» βοῶν, «ἄγιε, βοήθησόν μοι τῷ ταλαιπώρῳ ποιμένι. τῶν ἀπολωλότων γὰρ οἴμοι πέφυκα θρεμμάτων ὁ τάλας ποιμήν.»

11 ὁ δὲ θεῖος Μακάριος τὴν θρηνώδη τοῦ προέδρου δυσωπηθεὶς ἱκεσίαν καὶ τὴν μετριοπάθειαν αἰδεσθείς, «Τί τὸ ξένον» ἔφη, «παρὰ σοῦ δεδειγμένον, ὅ καὶ παρὰ τὴν ἀξίαν τὴν σὴν φαίνη ποιούμενος, δέσποτα; 12 ἐπίσχες, ὧ ἱερὰ κεφαλή, τὸ ἡμῖν ἀφόρητον διαπράττεσθαι· ὄντως λίαν ἄχθομαι τῆ συγκαταβάσει σου καὶ συμπάσχω σοι (61) ἕνεκεν τῆς ὑπερβαλλούσης σου κατηφείας. 13 ἀνάσχου οὖν, παρακαλῶ ἡμᾶς παρὰ σοῦ εὐλογηθῆναι καὶ τὰ κατὰ σὲ γνῶναι.» 14 ταῦτα εἴποντος καὶ εὐχῆς γενομένης, πάντα τῷ ὀσίῳ διεξήει ὁ ἐπίσκοπος.

15 ὁ δὲ πάσης συμπαθείας βραβευτὴς Μακάριος τὴν λύπης μὲν κοινωνὸς γίνεται ἀνάξιον δὲ αὐτὸν τῆς ἐπικουρίας ποιεῖται, «Τί με» λέγων, «χρὴ [Β f.209^{va}] ποιῆσαι, ὧ δέσποτα, εὐτελῆ ὄντα καὶ ἀμαρτωλόν; 16 πολλὰ γὰρ

⁽⁶⁰⁾ ἀπωλεία] scripsi; Α ἀπωλία

⁽⁶¹⁾ συμπάσχω σοι] scripsi; Α συμπάσχο σοι

きこのような教えへと彼は導き、彼らを自分の妻から分かれるよう彼は説 き伏せた。

7 その管区の司教はひどく悲しみ、また民の滅びのゆえに嘆き、誤れる 人々に多くのことを教えてかの汚れた考えから離れるよう戒めたが、何に もならなかった。そして彼は、不信者たちに何をしたものかわからなかっ た、8 さて、高名なマカリオスのことは万人の耳に届いていたので、彼の 賜物のことはこの司教も知らないわけではなかった。むしろ。彼はマカリ オスにのみ希望を掛けていたのである。そして彼はマカリオスのところに 避難した。9 すなわちできる限り自分の足を使って、司教はニトリアの山 の聖なるマカリオスのところにやってくる。10 そして彼に会うと、彼の 神聖なる足にすがりついて、涙とうめきとを以て己が不幸を嘆き、叫んだ、 「聖人よ,あなたのうちにある恵みによって,悲惨な牧者である私を助け てください、何しろ、ああ私は、失われた家畜の惨めな牧者なのですから |. 11 聖なるマカリオスは指導者の涙ながらの嘆願に面食らい、その奥床 しさに恥じ入って言った、「貴殿にふさわしからぬことをなさる、あなた がなさったこの異なことは何なのですか、我が主よ、12 おお神聖なる頭 よ. 我々に対して耐えがたいことをなさるのをおやめください、実に私は、 ご謙遜を眼にして大変に混乱し.非常なまでのご落胆のゆえにご同情申し 上げているのです.13 ですからおやめになって.まず祝福をお与えくだ さるよう.そしてご自身のことをお教えくださるようお願いいたします |. 14 彼がこう言い、そして祈りが行なわれると、司教は聖人にすべてを物 語った.

15 あらゆる同情の判定者であるマカリオスは悲痛の共有者となるが、彼は次のように言って、自らを助力にふさわしくない者とする.「おお我が主よ、粗末な者であり罪人である私が何をしなければならないでしょう

οὖτος ὃν εἴρηκας ἄνδρα πονηρὰ καὶ ἀκάθαρτα πνεύματα ἐν ἑαυτῷ ἐμφωλεύειν παραχωρεῖ· διὸ καὶ πάντας ἐπὶ τὴν αὐτοῦ πλάνην παρασύρει καὶ ἀπολλύει.

17 ἡμῖν δὲ μὴ χρῆναι τοῖς τοιούτοις διαλέγεσθαι ἡ τῶν πατέρων θεία παράδοσις διακελεύεται, ὅθεν ἀνιώμενος τὴν ἐπαγωγήν, μὴ ἔχων ὅ τι καὶ δράσαιμι, συγγνώμης δέομαι.»

18 ὁ δὲ ἐπίσκοπος, ὅλος οἶκτος γενόμενος τῷ οἰκείῳ ποιμνίῳ, οὐκ ἠνείχετο τῆς τοῦ Μακαρίου ἀναβολῆς, ἀλλ' ἔτι θερμοτέροις δάκρυσιν ἐλιπάρει τὸν ὅσιον, «Μή με» εἰπών, «ἄμοιρον τὸν ταλαίπωρον ἀποπέμψης ἦς δέομαι βοηθείας, 19 ἀλλ' ἐκείνῳ πειθόμενος ἐφ' ὃν πᾶσα ῥῆσις ἀνακεφαλαιοῦται θεόπνευστος, μὴ ἀναβάλλου ἀγγαρευόμενος, πάσας δὴ τὰς σκήψεις καὶ τὰς ἀπολογίας ἐκ μέσου ποιῶν. δεῦρο μετὰ τῆς χάριτος τῆς ἐκ Θεοῦ σοι δεδομένης διάσωσον τοὺς ἐν ζάλη τῆς [Β £209^{νb}] ἀσεβείας κυματουμένους.»

20 ταῦτα τοῦ ἐπισκόπου [A f.201^v] ὑφειμένως εἰρηκότος, πεισθεὶς ὁ θεῖος Μακάριος καὶ τὴν κατήφειαν δυσωπηθείς, τούτῷ συνείπετο. 21 καὶ φθάσαντες πρὸς τὸν ἄθλιον ἐκεῖνον τὸν ἀσκητήν, «Χαίροις, ὧ μοναχέ» ἔφη ὁ ἱερὸς Μακάριος εἶτα πῶς τε ἔχοι καὶ πῶς διάγοι ἀνηρώτα. ὁ δὲ «Καλῶς» ἀπεκρίνατο, «καὶ λίαν πρεπόντως.»

22 καὶ «Πῶς ἡμᾶς ἀξίους τῆς σῆς ἀφίξεως οὐκ ἐποίησας πρὸς ἡμᾶς ἀφικόμενος, ὡς οἱ λοιποὶ τῶν πορρωτέρον καθεστηκότων ἀσκητῶν, οἴ γε καὶ λόγων καὶ συμβουλίας συγκοινωνεῖν εἰώθασι; 23 πάντες γὰρ χρήζομεν τῆς ἀλλήλων συμβουλίας τε καὶ συνομιλίας, δι' ὧν ἡμῖν ἐνὸν διασῶσαι τοὺς ἐναντίους καὶ πονηροὺς λογισμούς, καὶ ἀσφαλῶς τῶν καλῶν μεταποιεῖσθαι.»

24 ὁ δὲ πεπλανημένος ἀποκριθεὶς «Διὰ τὸ ἀπίθανον καὶ ἄδοξον ὑμῶν δόγμα» ἔφη, «τὸ πρὸς ὑμᾶς παραγενέσθαι παραιτοῦμαι.»

25 τὸν δὲ «Καὶ τί τὸ ἄτοπον» ἔρεσθαι, «τοῦ ἡμετέρου σεβάσματος $[B\ f.210^{\rm ra}]$ δ ὑπονοεῖς καὶ οὖ χάριν ἡμᾶς οὐ προσίεσαι;»

か. 16 何しろ、お話しになったその男は、邪悪な汚れた霊が数多く自分の中に住みつくのを許しています。だから彼は、あらゆる人を自分の誤りへと引きずりこみ、破滅させているのです。17 父たちの聖なる伝承は私たちに、このような者たちと話をしてはならないと命じています。ですので、惨状を悲しく思いますが、何をしたらよいかわからない点、お赦しをお願いする次第です」。

18 司教は自分の群れに対して全身憐れみの塊となり、マカリオスの先延ばしに満足せず、一層切々たる涙を以て聖人に嘆願して言った、「悲惨な私を、願い求めている助けのないまま去らせないでください。19 むしろ、神の霊感を受けたすべての言葉の集約点となっているお方 [すなわちキリスト] に信頼して、労役を担うのを先延ばしにしないでください。いかなる口実も弁明も取り除いてください。さあ、神からあなたに与えられた恵みとともに、不敬の嵐の波間に漂う者たちを救ってください」。

20 司教がへりくだってこう言うと、聖なるマカリオスは彼の落胆に面食らって確信を得、彼についていった。21 そして彼らがかの惨めな禁欲者のところに着くと、神聖なるマカリオスは言った、「お元気で、修道者よ」、それから、彼がどういう按配でどう過ごしているか尋ねた。禁欲者は答えた、「良い具合で、大変良い按配だ」。

22 そして [マカリオスは言った],「どうしてあなたは、私たちのところにやってきて、私たちをご訪問に値する者としてくださらなかったのですか、他の、遠く離れた所にいる禁欲者たちがしているように(彼らは、言葉と助言とを分かち合うのがつねなのです). 23 というのも、私たちは皆、互いの助言と交わりとを必要としているのですから. そうすることによって私たちは、敵対的・邪悪な諸々の思念を切り抜け、しっかりと善を求めて努力することができるのです」.

24 誤れる者は答えて言った、「あなたがたの不信仰な、かつみすぼらしい教えのゆえに、私はあなたがたのところへ行くのを避けているのだ」.

25 マカリオスは言ったという、「あなたが判断され、それゆえに私たち

26 καὶ ὁ ἀσκητὴς «' Υμεῖς φατὲ ὅτι μετὰ τὴν τοῦ σώματος διάζευξίν τε καὶ τελείαν φθορὰν ἀναστήσεται καὶ ἄρτιον πάλιν ἀποκατασταθήσεται, ὅπερ ἀδύνατον καὶ πῶς οὐ λίαν ἀμήχανον, τὸ ὑπὸ μυρίων σπαραγμῶν θηρσί τε καὶ ἰχθύσιν ἀνάλωμα δειχθὲν σῶμα πάλιν σῶον καὶ ὁλόκληρον ἀναστῆναι;»

27 τὸν δὲ ἄγιον πάλιν εἰπεῖν «Εἰ μὲν ἐκ τῶν οἰκείων τοῦτο ἐλέγομεν, ἴσως αν τὸ ἀντιπίπτον εἶγεν ὁ λόγος, καὶ ἄτοπον ὑποπτευθη τὸ παρ' ἡμῖν λεγόμενον. 28 μᾶλλον δὲ οὐκ ἄτοπον· ἄτοπον γὰρ ἐκεῖνο τοῖς γε νῦν ἔχουσι τὸ μὴ οἴκοθεν είλικρινές διανοείσθαι. 29 εί γὰρ τῆ ψυχῆ τοῦτο τὸ σῶμα συνεκοινώνει τῶν ίδιων παθημάτων, έδει πάντως τοῦτο είτε τῆ τῶν βασάνων πικρότητι ἢ τῆ τῶν άγαθών τερπνότητι κοινωνόν ταύτης όφθηναι. 30 έπει δε ό σωτήρ των ψυχών ήμων Χριστός ἐν τοῖς θείοις εὐαγγελίοις πολλαχόθεν περὶ ἀναστάσεως τῶν νεκρών διαλεγόμενος, έναργώς [B f.210^{rb}] τοῖς Φαρισαίοις ταύτην ἐδήλωσεν, ην δη και άληθη είναι διαβεβαιών, τεταρταίον⁽⁶²⁾ ήγειρε τον Λάζαρον έκ τών νεκρών, δς μετά την ἔγερσιν τὸν εἰκοστὸν διήνυσε χρόνον 31 ώσαύτως καὶ πρὸ τούτου τὴν ἀνάστασιν πιστούμενος τὸν τῆς χήρας υἱὸν τεθνηκότα ἤγειρε. καὶ ἕτερα πολλὰ αὐτὸς δι' ἑαυτοῦ καὶ διὰ τῶν μαθητῶν αὐτοῦ [A f.202^r] τῆς άναστάσεως ἔδειξε σύμβολα, 32 καὶ πέρας τῶν ἀπάντων αὐτὸς ἑαυτὸν ἐκ τῶν νεκρῶν ἀνέστησε πρωτότοκος (63) ἐγερθείς. 33 ἐπεὶ δὲ καὶ διὰ τῶν προφητῶν πάλαι ἐκηρύχθη ἡ ἀνάστασις, καὶ θρόνων θέσεις καὶ παλαιοῦ ἡμερῶν κρίσις καὶ ποταμοῦ πυρὸς χύσις καὶ ἔτερα φρικτὰ καὶ φόβου μεστὰ προεδηλώθη τῆς

356

⁽⁶²⁾ τεταρταῖον] scripsi; Α τεταρτέον

⁽⁶³⁾ πρωτότοκος] scripsi; Α προτότοκος

のところにお越しにならないという,私たちの敬神の誤ったところとは何なのですか |.

26 禁欲者は [言った], 「あなたがたは, 体の [魂との] 離別の後, 完全な腐敗の後でもそれは復活し, 再び元通りになるだろうと言っているが, それはありえない. 獣や魚によって千々にちぎられたものとなった体が, 再び完全な, 欠けのないものとしてよみがえるということが, なぜきわめて不可能なことでないでしょうかね」.

27 そこで聖人は再び言ったという、「もし私たちが自分たちからこのこ とを言っているのなら、たぶんその言説には衝突するものがあるでしょう。 そして私たちが語ったことは誤ったことと判断されるのでしょう。28 し かしむしろ、それは誤ってはいません、それが誤っているのは、自ら真率 に考えることができない者たちにとってなのです。29 というのも、この 体が自らの情動を魂と共有しているのであれば、この体は全く、拷問の苛 烈さにおいてであれ善の喜びにおいてであれ、魂のパートナーだとみなさ れなければならないだろうからです. 30 我らの魂の救い主であるキリス トはその聖なる福音において 多くの簡所で死者の復活について語り 復 活をファリサイ派たちにはっきりお示しになりました。復活が真実である ということを確言するために、「死後」四日のラザロを死者の中からよみ がえらせたのです. ラザロは復活の後二○年間生きました. 31 また同様 に,ラザロより前に復活を保証して,やもめの死んだ息子をよみがえらせ ました.また.ご自身を通してまたお弟子たちを通して.復活のしるしを 他に数多くご自身お示しになりました。32 そしてすべての最後に、ご自 身死者のなかからの初穂としてよみがえられることで,ご自身をお立てに なりました。33 復活がいにしえに預言者たちによって宣べ伝えられた時 に、玉座の設置と日の老いたる者の裁きと、火の川の流れと他の恐るべく

ἀναστάσεως δείγματα τοῖς παρέργως τούτοις προσέχουσιν. 34 ὁ δὲ ἀπόστολος περὶ ἀναστάσεως καὶ ἀφθάρτου ζωῆς ἐπαγγειλάμενος « Ἐγείρονται ἐν ἀφθαρσία» ἔφη· 35 τὸ δὲ καὶ «Οἱ νεκροὶ ἀναστήσονται πρῶτον·» τί ἄλλο δηλοῖ ἢ τοῦ σοῦ λόγου ἀναίρεσιν καὶ [B f.210^{va}] τοῦ ἐπινοηθέντος ἀτόπου δόγματος ἔλεγχον;»

36 ταῦτα δὴ καὶ τὰ τούτοις ὅμοια τοῦ Μακαρίου φθεγξαμένου, ὁ ἀπειθὴς ἐν τῷ ἀπειθεία ἔμενεν, ἀκαμπὴς ὢν καὶ ἀνίατος, «Οὐ πείθομαι τοῖς λόγοις σου,» λέγων, 37 «οὐ πείθομαι, ἐὰν γὰρ μὴ ἴδω τοῖς οἰκείοις ὀφθαλμοῖς νεκρὸν ἀνιστάμενον, ἀκούοντά τε καὶ περὶ τῶν ἐκεῖ τοῖς ἐρομένοις ἀποκρινόμενον, οὐ πιστεύω οὐδὲ μὴν παύσω τῆς ἐμῆς διδασκαλίας.»

38 ταῦτα ἐκείνου εἰρηκότος ὁ θεῖος ἀκούσας Μακάριος σφόδρα ἠνιᾶτο· καὶ βύθιόν⁽⁶⁴⁾ τε καὶ τακερὸν ἐπὶ τῆ πωρώσει τοῦ πεπλανημένου στενάξας τῷ προ- έδρῳ «Τί ποιοῦμεν» ἔφη, «τούτῳ τῷ τῆς ζωῆς μᾶλλον τὸν θάνατον προαιρούμενῳ; 39 καὶ μὴν οὐκ ἀσφαλὲς ὑπὲρ ἐνὸς ἀπολωλότος τὸν Θεὸν πει-ράζειν καὶ νεκρὸν ἐξαιτεῖσθαι ἀναστῆναι.»

40 ύπολαβὼν οὖν ὁ ἐπίσκοπος μετὰ δακρύων «Οὐ μὲν οὖν ἑνὸς ἐπιμελῆ, ἀλλὰ καὶ μυρίων ψυχῶν σωτηρίας. 41 ὄντως [Β f.210^{νδ}] ἴσθι ὅτι εἰ οὖτος τῆ πλάνη μικρὸν ἔτι ἐναπολειφθείη, πᾶσαν ἐφελκύσει τὴν Αἴγυπτον ἐπὶ τῷ αὐτῷ φρονήματι λυμαινόμενος. 42 ἀλλ' ἄγε φεῖσαί μου τοῦ ταλαιπώρου⁽⁶⁵⁾ καὶ ἀπεγνωσμένου ποιμένος, καὶ τῆς ἐμῆς ποίμνης ἐπιμελήθητι, διεσκεδασμένης οὔσης καὶ βρώσεως ἐτοίμης τοῖς αἰμοβόροις θηρίοις γεγενημένης. 43 μὴ οὖν ὑπερθέμενος ἢ ἀναβολῆς ἀνασχόμενος τὴν ἐμὴν παρίδης ἰκετείαν, μηδὲ ἐπιδοιάζης περὶ τοὺς οἰκτιρμοὺς τοῦ ὑπὸ σοῦ θεραπευομένου ἀγαθοῦ Θεοῦ.»

⁽⁶⁴⁾ βύθιόν] scripsi; Α βίθιόν

⁽⁶⁵⁾ ταλαιπώρου] scripsi; Α ταλαιπόρου

かつ恐れに満ちた見ものとが、こういったことについでに注意する人々に 予め示されました [ダニ 7, 9-10 を参照]. 34 使徒は復活と朽ちざる命と について約束して、『彼らは朽ちないものによみがえる』 [I コリ 15・42] と言いました。35 また、『死んだ者たちがまず最初に復活するだろう』 [I テサ 4・16] ともあります。この言葉は、あなたの言葉の崩壊と、あなた の考えた誤った教えに対する反駁以外の何を示しているでしょうか」.

36 こういったこと、またこれに類することをマカリオスは言ったが、不信者は不信仰のうちにとどまり、考えを曲げない癒しがたい者として言った、「私はあなたの言葉は信じない。37 信じられないな、死者がよみがえり、他人の言うことを聞くことができ、そこのことについて質問に答えているのを自分の目で見るのでなければ、私は信じない。そして、私の教えを [説くのを] やめないでしょう」.

38 その男がこう言うのを聞いて、聖なるマカリオスはひどく悲しんだ. そして、この誤れる者の頑なさのゆえに深くまた意気消沈してため息をつき、[教会の] 指導者 [たる司教] に言った、「命よりもむしろ死を選ぶこの男をどうしたものでしょうか. 39 そして、滅んでいる一人の人のために神を試みて、死者の復活を願うのは、安全なことではありません」.

40 そこで司教は涙とともに答えた、「あなたは、一人のではなく数知れない魂の救いに心を配ることになるのです。41 実際、もしこの男が今少しの間誤りにとどまり続けるよう放置されれば、彼はエジプト全体を、同じ考えによって傷つけ引きずりまわすでしょう。42 むしろ、悲惨にして絶望の淵にある牧者たる私を気にかけ、私の群れのことを思ってください。私の群れは散らされ、生き血を吸う獣の餌食となる準備が整ってしまっているのですから。43 どうか、気後れしたり先延ばしに固執したりして私の嘆願を無視することなく、また、あなたがお仕えになっている善き神の憐れみに対して疑いを抱くことのないようにしてください」。

XXXVIII 復活についての議論(続き):マカリオス, 死者を よみがえらせる

1 Τούτοις οὖν τοῖς ῥήμασι καὶ τοῖς συνεχέσι δάκρυσι τὸν μὲν Μακάριον εἰς οἶκτον κεκίνηκεν ὁ ἐπίσκοπος, τὸν δὲ πεπλανημένον ἐκεῖνον εἰς πλεῖον άλαζονείαν καὶ θράσος διήγειρεν 2 ος μὴ φέρων $^{(66)}$ τὴν τοῦ ὁσίου μακροθυμίαν $[A\ f.202^{\rm v}]$ τῆς ἀποκρίσεως μέσος γίνεται, καὶ «Τί τὸν καιρὸν ἀναλίσκεις ἐν ἀμηχανία» φησίν, «οἰκείων $^{(67)}$ προφάσεων μεταποιούμενος; 3 ἰδοὺ τῶν νεκρῶν τάφος, δεῖξον $[B\ f.211^{\rm ra}]$ ἀνάστασιν ἑνὸς τῶνδε τῶν σωμάτων, καὶ πάντες ἄμα πιστεύσομεν καὶ συγκοινωνοὶ ἐσόμεθα· εἰ δ' οὖν ἀλλ' ἐγὼ ψυχῆς ἀνάκλησιν δείξω δίγα σώματος.»

4 ύπολαβὼν ὁ θεῖος Μακάριος τῷ πνεύματι ἐμβριμώμενος (68) «Φιμωθήτω» ἔφη, «τὸ ἐν σοὶ ἀκάθαρτον καὶ πλάνον πνεῦμα, καὶ μηκέτι τολμήσειε κατὰ τῆς ἐκκλησίας τοῦ Θεοῦ ἐπαρθῆναι ἀσεβείας δόγμασι καὶ σκοτεινοῖς φαντάσμασι, μηδὲ ταῖς τοιαύταις ὑπολήψεσι τοὺς ἀπλουστέρους ἐξαπατῆσαι. 5 πείθομαι γὰρ ὅτι τὰ ἐν σοὶ πονηρὰ πνεύματα συνέπονται τοῖς σοῖς κελεύσμασι καθὼς σὺ ἐκείνοις, καὶ παρέσονται ψυχὰς ἐκμιμούμενα, καὶ τοῦτο ἢ πόρρω τῆς ἐκείνων μηχανουργίας (69). 6 πλὴν οὖν οἵας ἄν σοι κατὰ τῶν ποικίλων τοῦ ἐχθροῦ φαντασμάτων ἀφορμὰς παρασχώμεθα, ὄντως τῆς πολλῶν ἀπωλείας (70) αἴτιος δειχθήση ἀλλ' ἵνα μὴ τοῦτο γένηται, τῷ Θεῷ καταφύγωμεν, παρ' οὖ καὶ τὸ ὑπὲρ δύναιιν.»

7 ταθτα [B f.211^{rb}] είπων τον κλήρον άμα τῷ πλήθει συναθροισθήναι ἐκέλευεν, εἶτα τον λίθον τοῦ τάφου ἀρθήναι, καὶ πάντας εἰς προσευχὴν ἐτοιμασθή-

⁽⁶⁶⁾ φέρων] scripsi; A φέρον

⁽⁶⁷⁾ οἰκείων] scripsi; Α εἰ καίων

⁽⁶⁸⁾ ἐμβριμώμενος] scripsi; Α ἐμβριμόμενος

⁽⁶⁹⁾ μηχανουργίας] Α μὴ χανουργίας

⁽⁷⁰⁾ ἀπωλείας] Α ἀπολείας

XXXVIII 復活についての議論(続き):マカリオス, 死者を よみがえらせる

1 このような言葉と、絶えざる涙とによって、司教は一方でマカリオスを同情へと動かし、他方でかの誤れる者を一層の傲岸と無謀へと促した、2 後者は聖人の忍耐に耐えられず、答えを遮って言う、「なぜあなたは、自分の口実をあげつらって、やる方ない有様で時間を無駄にしているのだ。3 ほら、死人の墓があるじゃないか、この体のうちの一つの復活を見せるがいい、そうすれば我々は皆たちまち信じて、同調者となるだろうよ、さもなければ、私が体の伴わない魂の呼び出しをやってみせましょうぞ」。

4 霊において憤った聖なるマカリオスは答えて言った,「お前の中の汚れた誤れる霊は黙れ,そしてもう二度と,不敬の教えと闇の幻影とによって神の教会に逆らって立つなどということをしでかすな,また,このような観念によって単純な者たちを欺くなどということをしでかすな.5 お前がお前の中の邪悪な霊どもに従っているように,連中がお前の命令に従い,魂を真似てそこにいるのだと私は確信している.このこと,或いは連中の技巧から離れて.6 しかし,敵のさまざまな幻影に対抗してどのような手立てを我々がお前のために持ち出そうとも,実際お前は多くの人の滅びに責任ありとされるだろう.しかしこうならないために,我々は,[人間の]力を超えるものもお持ちの神のところに逃げ込もう。

7 マカリオスはこう言い、大勢の人々とともに聖職者たちに集まるよう 命じ、そして墓の石を取り除け、皆祈りの用意をするよう命じた. 8 これ が実に速やかに行なわれ、すべての者が用意ができると、マカリオスは地 ναι. 8 τούτου δὴ ὡς τάχος γεγενημένου καὶ πάντων εὐτρεπισθέντων, ὁ Μακάριος χαμαὶ προσπεσών καὶ τῆ γῆ πρόσωπόν τε καὶ μέτωπον προσερείσας, ἐδέετο τοῦ Θεοῦ μετὰ δακρύων.

9 δύο δὲ ἤδη τοῦ καιροῦ διελθουσῶν ὡρῶν, τὸν μὲν ἐπὶ ἐδάφους κεκλιμένου, τοῦ δὲ λαοῦ τὰς χεῖρας πρὸς ὕψος ἐκτεταμένας ἔχοντος, τηνικαῦτα ἀρθεὶς ὁλολαμπὴς καὶ κατηγλαισμένος, τῷ μνήματι προσπελάσας (71) μεγάλως ἐφώνησε 10 «Σοὶ λέγω τῷ κειμένῳ, ὁ Χριστὸς καὶ κύριος ἡμῶν ὁ τὸν τετραήμερον ἐκ νεκρῶν ἐγείρας Λάζαρον δι' ἐμοῦ σοὶ κελεύει ἐγερθῆναι καὶ τοῖς παροῦσι πάντα τὰ κατὰ σὲ διαλεχθῆναι, ὅπως οὖτοι οἱ πεπλανημένοι τῆ τῶν νεκρῶν ἀναστάσει ἀδιστάκτως πιστεύοντες ἑαυτῶν (72) καταγινώσκωσι.» 11 ταῦτα εἰπόντος, [B f.211 va] τὸ τοῦ λόγου πέρας τὸν νεκρὸν εἶχεν ἀνεστηκότα, καὶ — ὢ τῆς ἀλκιμωτάτης σου, Χριστέ, δυνάμεως — πῶς οὐ ῥοπὴν ἀναμείνας καιροῦ ὁ πάλαι τεθνηκὼς ἀλλ' ἄμα τῷ προστάγματι εἴξας ἀνέστη ἔνσωμος, τὰς αἰσθήσεις ἐνεργουμένας ἔχων!

12 τούτου οὖν τοῦ θαύματος γενομένου [A f.203^r] καὶ τοῦ κειμένου ἀθρόως ἀναστάντος καὶ ἤδη τοῖς ὁρῶσιν οὐδεμιᾶς εἰς θαύματος λόγον ἀπολειφθείσης ὑπερβολῆς, γεγωνοτέρα τῆ φωνῆ τὰ πλήθη ἐβόα «Μεγάλη σου, Χριστέ, ἡ δύναμις καὶ μεγάλα διὰ τοῦ σοῦ θεράποντος Μακαρίου ποιεῖς.» 13 ταῦτα εἰπόντες ἐπὶ τὸν ἀσκητὴν τὸν ἄθλιον ἐκεῖνον ἐχώρουν, βιαίω θανάτω τοῦτον διαχειρίσασθαι βουλόμενοι «Τεθνάτω» βοῶντες, «οὖτος ὁ τῆς κακίας εὑρετὴς καὶ τῆς πλάνης ἡμῶν αἴτιος.» 14 ἀλλ' ὁ πάσης συμπαθείας βραβευτὴς οὐκ ἡνέσχετο τὴν τοῦ λαοῦ ἐπιδρομὴν (73) καθάψασθαι τοῦ ἀνδρός, ἀλλ' ἐγγυτάτω αὐτὸν ἐπισπασάμενος ἔστησε καὶ τὴν ἐπ' αὐτὸν τοῦ λαοῦ ἐπέσχεν ὁρμῆν.

⁽⁷¹⁾ προσπελάσας] scripsi; Α πρὸς πελάσας

⁽⁷²⁾ έαυτῶν | scripsi: Α έαυτὸν

⁽⁷³⁾ την τοῦ λαοῦ ἐπιδρομην] scripsi; Α της τοῦ λαοῦ ἐπιδρομης

に倒れ込み大地に顔と額をこすりつけ、涙を以て神に願った.

9 はや二時間の時が経ち、彼が地面に横たわり、民が手を上方へ広げていたところ、その時マカリオスは全身輝き放って栄光を受けて立ち上がり、墓に近寄って大声で言った、「10 横たわっているお前に言う、死後四日のラザロを死者の中からよみがえらせた我らの主キリストが、私を通じてお前に、立ち上がり、ここに居合わせる者みなに自分のことを話すようお命じになっている。この誤れる人々が死者の復活を疑わずに信じて、自分を断罪するようになるためだ」。11 彼がこう言うと、言葉の終わりと死者の復活とが同時に起こった。そして一一おお、キリストよ、きわめて堅固なる汝の力よ――、命令があるや否や、一瞬も待たずに、その昔死んだ者が、「命令に〕従ってよみがえり、体があり感覚[器官]が働いている者として立つとは!

12 この奇跡が起こって、横たわった者が一気に立ち上がり、見ている者たちにとって、奇跡を言い表すのにいかなる誇張も [使い尽くして] はや不足するに至った時、群集は一層大音声になって叫んだ、「キリストよ、汝の偉大なる力よ、あなたはあなたのしもベマカリオスを通じて大いなることをなさる」。 13 彼らはこう言って、かのみじめな禁欲者のところに行き、彼を暴力的な死によって殺そうとして叫んだ、「悪の発明者、我々の誤謬の責任者たるこの男は死なねばならない」。 14 しかしあらゆる同情の判定者 [であるマカリオス] は民の襲撃がこの男に触れるのを許さず、彼を連れ出し自分のすぐ近くに立たせ、彼に対する民の攻撃を阻んだ。

XXXIX 復活についての議論(続き):よみがえった死者,地 獄を語る

1 εἶτα τὸν ἀναστάντα προσκαλεσάμενος, ἱμάτιον ἀμφιέννυσιν⁽⁷⁴⁾, «Εἰπὲ [Β f211^{νδ}] ἡμῖν» λέξας πρὸς αὐτόν, «ἐν ποίαις⁽⁷⁵⁾ ἡμέραις τέθνηκας, καὶ ποίας ὑπῆρχες φυλῆς, καὶ οἴαν ἦσθα θρησκείαν⁽⁷⁶⁾ σεβόμενος.» 2 ὁ δὲ «Κατὰ τοὺς χρόνους ᾿Αντιόχου Ἔλληνος ὄντος ἄνακτος καὶ τῶν εἰδώλων προσκυνητοῦ⁽⁷⁷⁾· κάγὼ τὴν τῶν Ἑλλήνων δεισιδαιμονίαν ἡδούμην, καὶ ἐκ τῆς αὐτῆς ὑπῆρχον φυλῆς.» 3 ὁ δὲ ἄγιος τοὺς ἐπισταμένους τῶν χρόνων ἀνηρώτα· «Πόσους ἔχει ᾿Αντίοχος χρόνους;» οἱ δὲ «Ἐπέκεινα» ἔφασαν, «πεντακοσίων.»

4 ἔπειτα πρὸς αὐτὸν «Λέγε» φησίν, «ὧ ἄνθρωπε, καὶ ἐν τοῖς πλείστοις χρόνοις τούτοις ἐν ποίοις τόποις ἀνεπαύετο ἡ ψυχή σου, καὶ οἵας εἶχε τὰς διατριβὰς ἀποδημοῦσα τοῦ σώματος.»

5 ὁ δὲ «Τὸ τῆς γεέννης ταύτην ἐδέξατο χώριον, πυρὶ ἀσβέστῳ καὶ πικροτάταις τιμωρίαις βασανιζομένην, καὶ οἶα ἐν τῷ ἄδη τοῖς εἰδωλολάτραις ἡτοίμασται χαλεπὰ πάσχουσαν.»

6 ὁ δὲ ἄγιος «Καὶ ἔστιν» ἤρετο, «ἄλλη ἀφόρητος τιμωρία τῆς ὑμετέρας (78) όδυνηροτέρα;»

7 ὁ δὲ «Ναί,» φησίν, «ἔστι καὶ χαλεπωτέρα, καὶ ἐν τοῖς μυχοῖς [B f.212^{ra}] τοῦ ἄδου κατωτέρα. 8 ήμεῖς μὲν γὰρ οἱ τὸν Θεὸν ἀγνοήσαντες τὸν ἀληθινὸν τὸν τὰ πάντα εἰς τὸ εἶναι παραγαγόντα ἔργοις τε χειρῶν εἰδώλοις καὶ ἑρπετοῖς καὶ ἄλλοις τισὶ δημιουργήμασι πιστεύσαντες, εἰς τὸ πῦρ τὸ ἐξώτερον τῆς γεέννης ὀδυνώμεθα, τιμωρίαις δειναῖς περιβαλλόμενοι. 9 ἀλλ' ὅμως εἰ καὶ

⁽⁷⁴⁾ ἀμφιέννυσιν] scripsi; Α ἀφιέννυσιν

⁽⁷⁵⁾ ποίαις] scripsi; Α ποίοις

⁽⁷⁶⁾ θρησκείαν] scripsi; Α θρισκίαν

⁽⁷⁷⁾ προσκυνητοῦ] scripsi; Α προσκηνητοῦ

⁽⁷⁸⁾ ὑμετέρας] scripsi; Α ἡμετέρας

XXXIX 復活についての議論(続き):よみがえった死者,地 獄を語る

1 それから彼はよみがえった者を呼び、服を着せ、彼に言った、「私たちに話してくれ、いつの時代に死んだのか、どういう種族に属していたのか、またどういう礼拝を行なっていたのかを」、2 彼は言った、「支配者であり偶像の崇拝者であるギリシア人アンティオコスの時代です。私もまたギリシア人の迷信を崇敬しており、同じ種族から出た者です」。3 聖人はいろいろな時代のことを知っている人々に尋ねた、「アンティオコスはいつの時代の人だったのですか」、彼らは言った、「五百年以上前です」。

4 それからマカリオスは彼に言った、「人よ、言ってください、この大変長い年月の間、あなたの魂はどのような場所に安らっていたのですか、そして、体から分かれた後、どのような生活を送っていたのですかし、

5 彼は言った、「ゲヘナの地が私の魂を受け入れ、消えない火と実に苛酷な刑罰とによって私の魂は苦しめられていました。また、ハデスにおいて偶像崇拝者に対して用意されている苦難にも遭っていました」。

6 聖人は尋ねた、「あなたがたのより苦しい他の耐え難い刑罰がありますか」.

7 彼は言う、「ええ、もっとひどいのもあります。ハデスの底で下の方に位置しています。8 つまり私たちは、すべてを存在へと至らしめられた真の神を知らずに、手の業である偶像や這うものや他の作品を信じたために、ゲヘナの外側の火の中で苦しみ、恐るべき刑罰に取り巻かれています。9 しかし、私たちが耐え難い苦しみを蒙っているとしても、これよりひど

οὕτως ἀφορήτως πάσχομεν, ἀλλά γέ εἰσι (79) καὶ ἔτεροι τὰ τούτων χαλεπώτερα πάσχοντες, οἴ γε τὴν στάσιν κάτωθεν [Α f.203^ν] ἡμῶν ἐσχήκασι. 10 τίνες δὲ εἶεν οἱ τοιοῦτοι καὶ τί τὸ δεινὸν ἐκείνοις ἀνόμημα ὅτι τοσοῦτον κατόχους τῶν ἀφορήτων βασάνων ἐποιήσατο; οὖτοί εἰσιν ὅσοι τὸν Χριστὸν ἀθετοῦσι τὸν πάντων δημιουργὸν μετὰ τὸ θεῖον βάπτισμα, καὶ τῆς (80) τῶν ἀπίστων ἀσεβείας ἀντεχόμενοι.» ταῦτα εἰρηκότος φρίκη καὶ δέος εἶλεν ἄπαντας.

11 ὁ δὲ ἱερὸς Μακάριος καὶ αὖθις τὸν ἄνδρα διεπυνθάνετο πῶς τε αὐτῷ $^{(81)}$ ὁ Χριστὸς γνωσθείη, καὶ ποῦ ὁραθείη.

12 καὶ ὂς «Πάλαι μὲν διά τινος προφητείας ἀκηκόαμεν [B f.212^{rb}] ὅτι ὁ πάντων δημιουργὸς καὶ Θεοῦ λόγος γεννᾶσθαι μέλλει ἐξ ἀπειράνδρου κόρης τεχθέντα δὲ καὶ ἐπὶ γῆς τοῖς βροτοῖς ἐπιδημήσαντα ἥκιστα ἑώρων, πρὸ πολλῶν χρόνων ἐν τῷ ἄδη(82) γενόμενος. 13 πλὴν οὖν μετὰ τὴν ἐκεῖσε ἄφιξιν δὶς τοῦτον ἐθεασάμην· πρῶτον μὲν ἡνίκα τὸν θάνατον καταπατήσας καὶ σκυλεύσας τὸν ἄδην, ἐκ δεσμῶν τὰς ψυχὰς τῶν πάντων ἀνθρώπων ἡλευθέρωσε, καὶ τὰς μὲν ὅσαι ἦσαν ψυχαὶ τῶν εὐσεβῶν ἐν τῷ παραδείσῳ εἰς αἰωνίαν μετέθηκεν ἀνάπαυσιν· 14 ἡμᾶς δὲ τοὺς τῶν εἰδώλων προσκυνητὰς οὕκουν μετέθηκεν ἄλλὶ ἐν μυχοῖς τοῦ ἄδου πάλιν παρέπεμψε, ταῖς πικροτάταις βασάνοις τιμωρουμένας ἐάσας.

15 ή δὲ δευτέρα ὄψις ἀρτίως μοι γέγονεν, αὐτὸν ἑωρακότι ἐπὶ τὸν ἄδην ἐλθόντα· νεανίσκω γὰρ ἐώκει τοῖς ἐν τῷ ἄδη, φανέντι λίαν ὡραϊσμένω, δς πρὸ τῶν πυλῶν ἐκείνου ἐπιστὰς τῆ φαιδρότητι τοῦ οἰκείου προσώπου τὰ κατ' ἐκεῖνον ἄπαν $^{\text{t}}$ τα $[B\ f.212^{\text{va}}]$ κατηύγασε, στέφανον ἐπὶ τῆς κεφαλῆς ἔχων βασιλικόν, ἐν ῷ ἵδρυται σταυρὸς λίαν ὑπέρλαμπρος ἡλιακὰς ἐκπέμπων

⁽⁷⁹⁾ ἀλλά γέ εἰσι] scripsi; Α ἀλλάγε εἰσὶ

⁽⁸⁰⁾ τῆς] scripsi; A τοῖς

⁽⁸¹⁾ αὐτῷ] scripsi; A αὐτὸν

⁽⁸²⁾ ἄδη] Α ἄδι

⁽⁸³⁾ μετέθηκεν] scripsi; Α μετέθεικεν

い目に遭っている他の人々もいて、彼らは私たちより下に自分たちの場所をもっています。10 このような人々とは誰か、そして神が [その人々を]かくも耐え難い拷問に服すべき者とされたのですから、彼らの恐るべき違反とは何か。この人々とは、聖なる洗礼を受けた後に万物の造り主なるキリストを否み、不信者の不敬に固執する人々のことです」。彼がこう言うと、震えと恐怖とが皆の者を捕えた。

11 神聖なるマカリオスはまた男に、彼がキリストを知っているか、どこで見たかをたずねた。

12 彼は [言った,] 「昔或る預言で私たちは, 万物の造り主で神の言葉である方が, 男を知らない娘から生まれることとなると聞きました. しかし, 彼が生まれて地上で人々を訪れたのを私は全く見ていません. 何年も前にハデスに行ったからです. 13 しかし, ハデスに行ってから私はこの方を二度見ました. 一度目は, 彼が死を踏みつけにしてハデスを劫略した時で, 彼はすべての人の魂を縄目から解放し, 敬虔な人々の魂をパラダイスに移し, 永遠の安息のうちに置かれました. 14 私たち偶像崇拝者は全くお移しにならず, むしろ再びハデスの底にお送りになり, 実に苛酷な拷問によって刑罰を受けるがままになさいました.

15 二度目に見たのは今しがたのことで、彼がハデスにやってこられるのを見ました。ハデスにいる者たちには彼は若者のように見えました。きわめて見目麗しく、ハデスの門の前に立って、ご自身の顔の輝きでそこにあるものすべてを照らし、頭には王冠を戴き、その冠には、太陽の輝きを放つ非常にきわめて明るい十字架が据えられてありました。16 それから彼は『親愛なるラザロよ』と、かの四日びとをパラダイスから呼び、『こ

ἀκτίνας. 16 εἶτα «Λάζαρε φίλε,» τὸν τετραήμερον ἐκ τοῦ παραδείσου φωνήσας, «λάβε ταύτην» εἶπε, «τὴν ψυχὴν καὶ μετακομίσας αὐτὴν πρὸς τὸν ἐμὸν θεράποντα Μακάριον, τῷ σώματι αὐτῆς εἰσάγαγε, ὅτι ὑπὲρ αὐτῆς δέεται.» 17 καὶ ἄμα τῷ λόγῳ ὁ ἄδης ἐσείσθη κάγὼ ἐκ τῶν δεσμῶν αὐτοῦ ἀνείθην καὶ ταῖς χερσὶ τοῦ Λαζάρου ἀνεδόθην. 18 ὁ δὲ θεῖος καὶ φίλος τοῦ Χριστοῦ Λάζαρος παραλαβὼν ταύτην, τῷ σώματι ἀποκατέστησε: [A f.204] καὶ εὐθὺς ἀνέζησα, ὡς με νῦν ὁρᾶτε, Θεῷ εὐχαριστῶν καὶ τῷ αὐτοῦ θεράποντι Μακαρίῳ.»

19 ταῦτα δὲ ἐκείνου διαλεχθέντος, ἐκπληττόμενοι στεναγμοῖς καὶ δάκρυσιν ἑαυτῶν κατέγνωσαν ἄπαντες, «Οὐαὶ ἡμῖν» λέγοντες, «τοῖς πεπλανημένοις, πῶς ἀγνοοῦντες τὴν ἀλήθειαν τῆ πλάνη συνεπορεύθημεν; τί ἀπολογησόμεθα τῷ ἀθανάτῳ κριτῆ καὶ $[B f.212^{vb}]$ πῶς φευξόμεθα τὰ ἐν τῷ ἄδη δεινά;» 20 οὕτω δὴ εἰπόντες κατανυγόμενοι (84) ἄπαντες πρηνεῖς τῷ ἐδάφει πίπτουσι, καὶ τὰ ἴχνη τοῦ ὁσίου φιλοῦντες, ἐδέοντο ὑπὲρ αὐτῶν ἐξιλεώσασθαι τὸ θεῖον.

XL 復活についての議論(完):禁欲者とよみがえった死者の 回心

1 'Ο δὲ τήν τε ἀθρόαν μεταμέλειαν καὶ τὴν χρηστὴν μετάθεσιν ἰδών (οὐχ ἥκιστα γράψαι τὸν τῆς πλάνης αἴτιον μετανοοῦντα, καὶ τί οὐ ποιοῦντα ὁ εἰς οἶκτον οἶδε πάντας καλεῖν, ποίοις δάκρυσι, ποίοις γοεροῖς οὐκ ἐχρῆτο ῥήμασι; 2 τὴν ὄψιν οἰκείαις χεροὶν οἶα μάστιξι πλήσσων καὶ ἐπὶ τῆς γῆς κυλινδούμενος, «Οἴμοι» λέγων, «τί πέπονθα, ὁ ἄθλιος; ποῦ με ἡ ἀπόνοια κατήγαγε; ταῦτά μοι τὰ τῆς ἀσκήσεως ἔπαθλα; ταῦτα μέλλω ὑποστῆναι τὰ χαλεπὰ α΄ ἐν τῆ γεέννη οἱ καθ' ὑμῶς ὑπομένουσιν ἀσεβεῖς;» 3 ἔτι καὶ τούτων ἄλλοις πλείοσι τὴν ἰδίαν συμφορὰν τραγωδήσαντα), ὁρῶν τὰ τῆς οἰκείας παροινίας ἐξαγγειλάμενον πλημμελήματα, τοὺς ὁδυρμούς τε καὶ τὰς παρακλήσεις ὁ ἄγιος

⁽⁸⁴⁾ κατανυγόμενοι] scripsi; Α κατανοιγόμενοι

の魂を私のしもベマカリオスのところに持っていって、それの体の中に入れなさい。マカリオスがこの魂のために願っているものだから』。17 すると、言葉と同時にハデスは揺れ、私もハデスの縄目から解き放たれ、ラザロの手の上に置かれました。18 キリストの友である聖なるラザロは私の魂をとって、これを体に戻しました。そしてすぐに私は、今あなたがたがご覧になっているようによみがえったのです。神とそのしもベマカリオスとに感謝しているこの私が」。

19 その男がこう話すと、皆は仰天して、うめきと涙とを以て自らを責めて言った、「誤れる私たちはわざわいだ、どうして真理を知らずに誤りのうちに歩んでしまったのか、不死なる裁き主に私たちはどう申し開きしようか、そしてどうやってハデスの恐怖を逃れることができようか」、20こう言って、すべての人々は心を刺され、下を向いて地面に倒れこみ、聖人の足に接吻し、自分たちのために神に執り成してくれるよう願っていた。

XL 復活についての議論(完):禁欲者とよみがえった死者の 回心

1 聖人は、一斉の改悛と良い変化とを見、――特に記す [べきな] のは、かの誤謬の責任者が改悛したことであり、彼はなぜ、皆の憐れみを催すようなことを行なわなかったろうか [もちろん行なったのである]、どれほどの涙、どれほどの嘆きの言葉を彼は使わなかっただろうか. 2 自分の手を鞭のように使って顔を打ち、地面をのたうちまわって彼は言う、「ああ、私はどうなってしまったのだ、このみじめな者、愚かな考えは私をどこへ連れていってしまったのだ。これが私の禁欲の報いなのか、あなたがたのところの不敬な者たちがゲヘナで耐えているこのような苦難を、私が受けることになるのか」、3 その他これよりも多くのことを言って、彼は自分

δυσωπηθείς, τῶν τοῦ Θεοῦ ἐδεῖτο [B f.213^{ra}] οἰκτιρμῶν οὕτως ὑπερευχόμενος 4 «Επιδε, Ἰησοῦ Χριστὲ υὶὲ Θεοῦ καὶ λόγε, τὸ πλάσμα τὸ σόν καὶ μὴ ἐάσης αὐτὸ τῆ πλάνη τοῦ ἀοράτου ἐχθροῦ συναπαγόμενον, ἀλλ' ἔξωσον αὐτοῦ τὸν τῆς πλάνης εὐρετήν, καὶ πάντας τούσδε τοὺς οἰκτρῶς μετανοοῦντας ἐκ τῆς ὀλεθρίας ἀπάλλαξον καὶ ἐλευθέρωσον πλάνης.» καὶ ταῦτα μὲν τὰ τῆς εὐχῆς ῥήματα. 5 ἡ δὲ χάρις οὐ μετρίαν τὴν ἐνέργειαν διαδείκνυται ἔχουσα, ὅθεν καὶ θαῦμα τῷ θαύματι ἐξαίσιον ἔπεται, πέρας γὰρ εἶχεν ἡ προσευχὴ τοῦ δαίμονος τῆς βλασφημίας φυγαδευτήριον 6 τῆς γὰρ εὐχῆς γενομένης, εὐθὺς οὐκ ἡνέσχετο ἐν τῷ ἀσκητῆ ἐκείνῳ καρτερεῖν φλεγόμενος ὁ ἀναιδὴς καὶ βλάσφημος δαίμων, παραυτίκα γὰρ ἔξεισιν ἐνώπιον πάντων τῶν ὁρώντων, [Α f.204^ν] φανεὶς Αἰθίοπι ἐοικώς.

7 ἀμέλει τὸν Θεὸν ὑπὸ πάντων δοξασθῆναι καὶ μεγάλως ἀνυμνησθῆναι, τὸν δὲ Μακάριον μυρίων μακαρισμῶν ἀξιωθῆναι καὶ χάριν αὐτῷ πρὸς ἀπάντων ὁμολογηθῆναι.

8 τὸ δὲ ἐντεῦθεν [B f.213^{rb}] οὐδὲν ἄλλο ἢ ὁ τῆς ἐρήμου τόπος τὸν Μακάριον ἐπανιέναι ὑποκινεῖ, ὅθεν δὴ τοὺς πάντας νουθετήσας, διδάξας ὅρους τε καὶ ἀποδείξεις τῆς ὀρθοδοξίας ἐκθέμενος, καὶ τὴν λύμην τῶν ὀφθαλμῶν ἀποσεισάμενος τούτων, τῷ τῆς ἀληθείας ἐπιγνώσεως ἐξέλαμψε φωτί 9 εἶτα πάντων ὑπερευξάμενος, ἐπάνεισι πρὸς τὴν αὐτῷ ποθουμένην ἔρημον, ὤσπερ τις ἀριστεὺς νικηφόρος ἐτέρῳ μείζονι πολέμῳ πολεμήσων τὸν ἀντίπαλον.

10 τὸ δὲ θαυμαστότερον ὅτι καὶ τοὺς αἰχμαλώτους μεθ' ἑαυτοῦ ἔχει, διδάξαι (85) θέλων ἀνδρείως πολεμῆσαι καὶ νικῆσαι τὸν πάλαι κακῶς αὐτοὺς στρατηγήσαντα: 11 ὁ γὰρ ἀσκητὴς ἐκεῖνος ὁ πάλαι μεγαλόφρων καὶ ἀπηνὴς ἄν, νῦν ταπεινόφρων καὶ πραῦς γίνεται, πρόβατον ἀντὶ λύκου τῷ καλῷ ποιμένι ἑπόμενος. 12 ἄμα δὲ τούτῷ καὶ ὁ ἀπὸ τῶν νεκρῶν ἀναστὰς τῷ Μακαρίῷ συνηκολούθει: ἢ τῶν παραδόζων θαυμάτων, ἤδη δὲ τούτους φρικτὸν θέαμα

⁽⁸⁵⁾ διδάξαι] scripsi; Α διδάξει

の災難を悲劇として嘆いていた――, 彼 [異端者] が自分の酩酊の罪を告白したのを見、また嘆きと励ましとに面食らって、次のように祈って神の憐れみを願った、「4 神の子にして言葉なるイエス・キリストよ、あなたの形をご覧ください. これを、見えない敵の誤謬によって拉し去られたままにすることなく、その中から誤謬の発明者を追い出してください. そして、憐れにも改悛するこれらの者たちを皆滅びの誤謬から解き放ち自由にしてください」. さて、これが祈りの言葉である. 5 そして、ただならぬ力を有する恵みが示され、それゆえに度外れの奇跡が奇跡に続く. すなわち祈りが、冒瀆の悪霊の逃れの町に終わりをもたらしたのである. 6 つまり、祈りがなされると、恥知らずの冒瀆的な悪霊は身を焼かれ、かの禁欲者のうちにとどまっていることが少しもできず、見ている皆の前で直ちに出てきた――エチオピア人に似た姿で.

7 ともあれ、神のことが皆によって崇められ大いに賛美され、またマカリオスは、万の祝福に値する者とされ、彼の有する恵みがすべての者によって告白されたという。

8 それから、他でもない砂漠という場所がマカリオスを帰還へと促し、 そこで彼はすべての者を戒め、正統信仰の定義と証拠とを教え示し、この 人々の目から傷を振り払い、真なる認識の光によって照らした。9 その後 皆のために祈り、さらに一層大きな別の戦いのため敵との戦いに向かって いく勇敢な勝者のように、自分の憧れる砂漠へと戻っていく。

10 より一層驚くべきは、彼が自分とともに囚人を連れていることである。彼らに、男らしく戦うこと、かつて自分たちを悪い戦いへと導いた者に勝利することを教えようとしたのである。11 すなわち、かの禁欲者はかつて傲岸かつぞんざいな者だったが、今ではへりくだった柔和な者となり、狼でなく羊として良い牧者に従っていた。12 この者とともに、死者の中からよみがえった者もマカリオスに従っていた。おお、驚くべき奇跡

[B f.213^{va}] είχεν ή ἔρημος.

13 καὶ ὁ μὲν ἀσκητὴς καλῶς τρεῖς χρόνους ἐπιβιοὺς καὶ λαμπροὺς ἀγῶνας διανύσας καὶ τρόπαια κατὰ τῶν ἀοράτων ἐπιδειξάμενος, πρὸς τρυφὴν αἰωνίαν καὶ ἀΐδιον ζωὴν μεταβαίνει. 14 ὁ δὲ ἀνὴρ ἐκεῖνος ὁ πάλαι νεκρὸς τῷ ἀναστήσαντι ἀκολουθεῖ καὶ κατηχεῖται, καὶ υἱὸς φωτὸς διὰ τοῦ βαπτίσματος γίνεται ος χρόνοις ἐπὶ τριοὶ τῆς παλαιᾶς τε καὶ νεᾶς διαθήκης γεγονὼς, τὸ μοναδικὸν σχῆμα ἀμφιέννυται, καὶ τρεῖς ἄλλους ἐπὶ τοῖς πρώτοις τριοὶ διανύσας χρόνους, νηστείαις καὶ ἀγρυπνίαις καὶ προσευχαῖς καὶ τοῖς λοιποῖς ἀσκητικοῖς πόνοις ἑαυτὸν ἐκδιδοὺς, πρὸς κύριον ἐκδημεῖ.

15 ἀλλὰ τίς μὴ θαυμάσει, Χριστὲ βασιλεῦ, τὰ ὑπὲρ λόγον θαυμάσια, καὶ μετὰ τοῦ προφήτου ὡς θαυμαστὰ τὰ ἔργα σου, κύριε, λέξει, ἃ διὰ τοῦ σοῦ θεράποντος Μακαρίου ἀνέδειξας, ἄνθρωπον ἐκ τῶν τοῦ ἄδου πυθμένων ἀνελκύσας; 16 καὶ πρὸς τὴν ἄνω ἀνήγαγες ζωὴν διὰ μιᾶς προσευχῆς, ἢ χαρισμάτων ὑπερβολῆς, ἢ τῶν τῆς ταπεινώσεως [A f.205^r] πλειονεκτημάτων, [B f.213^{vb}] δι' ἦς πάντας ὑπερβάς, οὐ χάριν μόνον ἰσμάτων, ἀλλὰ καὶ κράτος ἔσχε κατὰ τοῦ θανάτου.

XLI 司教,マカリオスを訪れる

1 "Ο δὴ καὶ βεβαιοῖ τὰ ἐπαγόμενα, μετά τινα γὰρ χρόνον ὁ ἐπίσκοπος παραγίνεται τὸν Μακάριον ἐπισκέψασθαι παρὰ τὸ ὄρος τῆς Νιτρίας: 2 καὶ
ἐντυχὼν αὐτῷ καὶ ἱκανῶς τῆς ὁμιλίας κατατρυφήσας, ἡρώτα αὐτὸν χάριν
ἀφελείας ὑπὲρ τῆς ἐντεύξεως ἐκείνης τῆς φρικτῆς, δι' ἦς τὸν Θεὸν ὑπὲρ τοῦ
ἀναστάντος ἐκ τῶν νεκρῶν ἐκτενῶς καθικέτευεν, ὅπως τε αὐτῷ τότε ὁ νοῦς ἦν
ἐν τῆ προσευχῆ καὶ πῶς μετὰ ταῦτα ἀκηλίδωτος ὑπέμεινε τῆς ὑπὸ τῶν πολλῶν
ἕνεκα τιμῆς καὶ πολλῆς δορυφορίας.

3 ὁ δὲ θεῖος ἀνὴρ «Πείσθητι μοί» ἔφη, «άγιώτατε δέσποτα, ὅτι τοσοῦτον ἐναγώνιος ἐγενόμην ἐν τῆ ὥρᾳ τῆς προσευχῆς, ὅσον οἱ ἐπὶ ξυροῦ ἑστηκότες, πάσχων δεινῶς, πρὸ γὰρ τοῦ δεσποτικοῦ θρόνου τὸν ἐμὸν κατεδίκασα νοῦν ἐν

よ、砂漠はこの「二人の〕人々という恐るべき見ものを有したのである。

13 さて禁欲者はさらに三年間をよく生き,輝かしい戦いを経て,見えない諸力に対して勝利のしるしを見せ,永遠の歓楽及びとこしえの命へと移っていく.14 その昔死者だった男のほうは,自分をよみがえらせた者に従い教えを受け,洗礼によって光の子となる.彼は三年の間旧約と新約の[学習]者となり,修道者の服を身に着け,最初の三年に加えてもう三年間を過ごし,断食と徹宵と祈りとその他の禁欲的労苦に専心し,主のもとへと旅立っていく.

15 しかし、王キリストよ、言葉を超えるこれら驚くべきことを誰が驚かないだろうか、そして預言者とともに、ハデスの底から人間を引き上げられることによってあなたがご自身のしもベマカリオスを通じてお示しになった御業を、主よ、驚くべきことと誰が言わないだろうか [詩8・2、10]. 16 そして、それによって彼が万人を凌ぎ、癒しの恵みだけでなく死に抗う力をも得る所以となった、たった一度の祈りによって――おお、賜物の横溢よ、謙遜のすぐれた行ないよ――、あなたは [これらの者たちを] 上なる命へと引き上げられたのだ。

XLI 司教,マカリオスを訪れる

1 それは、もたらされたことを確かなものとしているのである、というのも、しばらくの後司教が、巡察の目的でニトリアの山に来るからである。2 彼はマカリオスに会って十分に交わりを楽しんだ後、益を得るためにマカリオスにかの恐るべき嘆願について尋ねた。死者の中からよみがえる者のために彼が神に一心に願った嘆願についてであり、その時祈りの中で彼の精神がどのようで、如何にしてその後、多くの人々による名誉と非常な随従とのゆえに彼が無傷でいられたのか [を尋ねたのである].

3 神の人は言った、「私を信じてください、至聖なる我が主よ、祈りの 時私は、恐るべき苦しみの中にあり、かみそりの上に立っている人々と同 程度の戦いのうちにあったのです。何しろ、主の玉座の前で私は自分の精 τοῖς ποσὶ τοῦ κυρίου ἐρηρεισμένον ἔχων καὶ ἀσάλευτον, ἄχρις ἄν [B f.214^{ra}] ὑπὸ τῆς θείας νεύσεως πληροφορίαν ἱκανὴν ἔλαβον. 4 ὡσαύτως δὴ καὶ μετὰ τὴν φρικτὴν ἐκείνην θαυματουργίαν πέπονθα τῆς ὑπὸ τοῦ πλήθους πολλῆς καὶ ματαίας τιμῆς ἕνεκα· τοσούτῳ γὰρ ταύτην ἀηδῆ ἡγησάμην, ὄσῳ τὰς ἐκ τῶν ἐναντίων οὐ φέρει ἕτερος πληγὰς χαλεπάς. 5 καὶ ἔσο μοι πιστεύων, ὧ θειότατε δέσποτα, ὅτι οἱ τὴν κενὴν καὶ ματαίαν ἡδέως ἀποδεχόμενοι δόξαν τὸν Θεὸν οὕπω ἑωράκασιν· οὐδὲ μὴν τῆς ἐκείνου δόξης ἐρῶσιν, ἀλλ' ἐπειδὴ τὴν ὄντως ἀγνοοῦσι δόξαν, ἄτε τῷ σκότει τοῦ αἰῶνος τούτου βεβυθισμένον τὸν νοῦν ἔχοντες, μόνην δόξαν ἐκείνην αἰροῦνται ἥτις ἡμᾶς χωρίζει τῆς τοῦ Θεοῦ· 6 οὐ δύνασθε γάρ, φησί, δόξαν τῶν ἀνθρώπων ζητοῦντες τῆς τοῦ Θεοῦ ἐπιτυχεῖν. ἄπας γὰρ ὁ παρὰ τῶν ἀνθρώπων δοξασθῆναι ζητῶν ἤκιστα τοῦ Θεοῦ οἰκεῖος δοῦλος οὐ γεγόνει (86), ἀλλὰ δοῦλός ἐστιν (87) ἔτι τῶν ἑαυτοῦ ἐγκεκρυμμένων παθῶν.»

7 ταῦτα εἰρηκότος [B f.214^{rb}] τοῦ ὁσίου, «ἸΟντως» ἔφη ὁ ἐπίσκοπος, «ἄγιε, οὕτως ἔχει καὶ οὐκ ἄλλως οὐδεὶς γὰρ δύναται τῶν ἀκηράτων ἐπιτυχεῖν, εἰ μή τις [A f.205^v] διὰ ταπεινοφροσύνης καὶ φόβου θείου καθωπλισμένος (88) εἴη, καὶ μηδέν τι τῶν καλῶν εἶναι ἴδιον λελογισμένος, ἀλλ' ἐν τῆ δυνάμει τοῦ κυρίου ἡμῶν Ἰησοῦ Χριστοῦ καὶ τῆ συνεργία αὐτοῦ ἐνισχυόμενος.» 8 ταῦτα εἰπών, μεγάλας ὑπὲρ τῆς ἀφελείας τῷ Μακαρίῳ τὰς χάριτας ὁμολογήσας, εἰς τὰ ἴδια ἐπανῆκε, τὸν Θεὸν δοξάζων καὶ ἀνυμνῶν, καὶ τοῦ δικαίου κηρύττων τὰ παράδοξα.

⁽⁸⁶⁾ γεγόνει] fortasse γέγονε

⁽⁸⁷⁾ δοῦλός ἐστιν] scripsi; Α δοῦλος ἐστὶν

⁽⁸⁸⁾ καθωπλισμένος] scripsi; Α καθοπλισμένος

神を断罪し、主の御足のもとでこすりつけかつ動かさずにおり、そしてついに、神のお許しにより十分な保証を得るに至ったのです。4 同様に、かの恐るべき奇跡の後で、私は群集による多くの無益な名誉のゆえに苦しみを受けました。すなわち私は、敵対的な諸力からかくもひどいこのような傷に耐えられる人は他に誰もいないだろうという、それほどにこの名誉を嫌悪すべきものと思ったのです。5 そしてどうか私をお信じください、おお至聖なる我が主よ、すなわち、空しい無益な栄光を喜んで受けてしまう者たちは、まだ神を見たことがないのです。また、彼らは神の栄光を愛してもおらず、むしろ本当の栄光を知らないので――彼らの精神はこの世の闇にはまり込んでいるのです――、彼らは私たちを神の栄光から引き離す「たぐいの」栄光のみを選び取るのです。6 というのも、言われているように、人々の栄光を追い求めるあなたがたは神の栄光を得ることはできないからです[cf. ガラ1・10]、実際、人間から栄光を受けようとする者は皆、ふさわしい神のしもべとは決してならず、彼はなお自らの隠された情動の奴隷なのです」。

7 聖人がこう言うと、司教は言った、「本当に、聖人よ、おっしゃったとおり以外ではありません、謙遜と神の恐れとによって十分武装している者、自分のものは何一つとして良いものだと思わない者、むしろ我らの主イエス・キリストの力により、また彼の協働により力づけられる者でなければ、誰一人として、汚れなきものを手に入れることはできないのです」。8 こう言って、マカリオスに対して裨益のゆえに大いなる恵みを告白して、司教は自分のところへ戻っていった――神を崇め賛美し、義人の驚くべき業を宣べ伝えながら。

XLII 金に貪欲な修道者とその結末

1 'Αλλὰ ταῦτα μὲν τὰ τῆς ταπεινώσεως ῥήματα, ὡς φθάσας ὁ λόγος ἐδήλωσεν' ὑποδείξει δὲ καὶ τὰ ἔργα ταύτης, καὶ ὁποίαν χάριν τῶν ἰαμάτων οὖτος ἦν εἰληφώς.

2 ξενοδοχείον οὖν καὶ νοσοκομεῖον ἐν τῷ ὅρει τῆς Νιτρίας παρ' ἑαυτῷ δειμάμενος ὁ θεῖος Μακάριος, ἐκεῖσε τοὺς ἀνερχομένους εἶχε ξένους καὶ τοὺς ἀσθενεῖς. 3 ἐν ἑκάστη δὲ ἡμέρα ἔνα τῶν ἀσθενούντων ἀγίῳ ἐλαίῳ χρίσας ὑγιῆ εἰς τὰ ἴδια παιρέπεμπε [Β f.214^{va}]· τοὺς δὲ λοιποὺς αὐτόθι καρτερεῖν κατελίμπανεν, οὐχ ὡς ἐνδεὴς χάριτος, ἄπαγε! 4 πῶς γὰρ ὁ τὰ φρικτὰ ἐκεῖνα καὶ τὰ παράδοξα ἐργασάμενος καὶ τὴν ἀέναον πηγὴν τῆς χάριτος οἴκοθεν ἔχων ἦν ἐνδεής, ὥστε μὴ δύνασθαι μυρίους ἀρρώστους ἐν μιῷ ῥοπῆ ἱάσασθαι; 5 ἀλλ' ἐπειδὴ τῆς ταπεινοφροσύνης ἐραστὴς ἦν, ταῦτα ποιῶν φαίνεται, πρὸς δὲ καὶ ἵνα μὴ μόνον ῥῶσιν σώματος, ἀλλὰ καὶ ψυχῆς ὑγιείαν διὰ τῆς αὐτοῦ διδασκαλίας τούτοις βραβεύσειεν, ἄμα δὲ καὶ διὰ τὴν καρτερίαν ἀξίους τῆς χάριτος ποιήσειεν. 6 εἴπερ καὶ τοῦ Σιλωὰμ τῆς κολυμβήθρας οὐκ ἄπωθεν (89) ἡμῖν τοῦτο, ἐπεὶ μὴ τῆς χάριτος ἐκεῖσε οἰκειότερον· ἡ αὐτὴ γὰρ ἀμφοτέρωθεν ἐνέργεια. καὶ ταῦτα μὲν οὕτως.

7 ἐπεὶ δὲ τῶν προσμενόντων ἔτι τῆ ἀρρωστία δαπάνης τε καὶ διακόνου ἦν ἀναγκαία ἡ χρεία, 'Αβράμιόν τινα τῶν ἑαυτοῦ μαθητῶν ἐπὶ τῆ τοῦ νοσοκομείου [B f.214^{νb}] διακονία ἔταξεν. οὖτος δὲ τὴν περὶ τῶν νοσούντων δαπάνην δεξάμενος, καλῶς αὐτῶν ἐπεμελεῖτο. 8 ἐπὶ πολὺ δὲ ταύτης ὡς εἰκὸς ἐχόμενος τῆς διακονίας, ὑπὸ τοῦ ἐχθροῦ φθονηθεὶς ὡς ἀγνοῶν τὰ ἔπαθλα τῆς ἀκτημοσύνης, τοῖς τῆς φιλαργυρίας ὁ ἄθλιος ἑάλω δελεάσμασι, τήν τε δαπάνην νοσφίθεσθαι ψήθη καὶ παρ' ἑαυτῷ ἔχειν.

9 γνοὺς δὲ ὁ ἄγιος διὰ τῆς χάριτος τὸ ἄτοπον τοῦ ἀνδρός, [A f.206^r] παρήνει αὐτῷ τῆς πονηρᾶς ἀποστῆναι πράξεως, διδασκαλικῶς ἐπιτιμῶν καὶ

⁽⁸⁹⁾ ἄπωθεν] scripsi; Α ἄποθεν

XLII 金に貪欲な修道者とその結末

1 さて、本書が既に示したように、以上が謙遜の言葉である。本書はまた 謙遜の業をも、彼がどのような癒しの恵みを得たかをも示すだろう。

2 そこで、聖なるマカリオスはニトリアの山において、自分のところに宿泊所・療養所を建て、異国人や病人がそこにやってきていた。3 そして毎日、病人の一人に聖なる油を塗って健康にして、自分のところへ送り出していた。他の者たちはそこで辛抱するよう残したが、恵みに不足する者として[マカリオスはそうしていたの]ではない、失せてしまえ! 4 というのもどうして、あの恐るべき驚くべきことどもを為した者、自分のうちに恵みの尽きざる泉を有する者が、不足する者であって、その結果一万の病める者たちを瞬く間に癒すことができない、などということになるだろうか。5 そうではなく、彼は謙遜の愛好者だったので、こういうことをしていたのである。さらにそれは、体の強化だけでなく、彼の教えによって魂の健康をもこの人々のために判定するためだったのである。6 これは我々にとってシロアムの池より遠くはないのだから、というのもそこでは恵みよりふさわしいものではないからである。つまり、同じ働きが両者から来るのである。これはこういうことである。

7 さて、待ち続けている者たちの病気のために出費と奉仕者の使用が必要だったので、彼は療養所の奉仕のために自分の弟子の一人アブラミオスを任じた。この人が病人に関する出費を受け取って、良く彼らの面倒を見ていた。8 が、長い間ふさわしくこの奉仕にかかわっていたが、無所有という賞を知らない彼は敵によってねたまれ、この悲惨な者は金銭愛のえさに釣られて、出費をくすねることと [それを] 自分の所に貯えることとを考えた。

9 聖人は恵みによって男の誤りを知り、悪い行ないから離れるよう、教

έλέγχων, «Πραγμα δεινὸν καὶ ὀλέθριον ἡ φιλαργυρία (90)» λέγων, «καὶ πάντων χαλεπώτερον τοῖς μοναχοῖς ἡ πλεονεξία.» 10 ὁ δὲ τῷ δεινῷ πάθει πηρωθείς, οὐκ ἡνείχετο τῆς παραινέσεως, ἀλλ' ὅλος τῷ ὑλικῷ ἐπιμένων ἔρωτι ἦν.

11 ὁ δὲ μέγας, ἐπεὶ ἀνένδοτον τοῦτον τῆ παραινέσει ἑώρα, ἔφη πρὸς αὐτόν «Τῆς ψυχῆς, ὧ τέκνον, φροντίζειν ἔδει σε τῆς σῆς, καὶ ταύτην μᾶλλον κατακοσμεῖν τῷ πλούτῳ τῶν ἀρετῶν ῷ κλέπτης οὐ [Β f.215^{ra}] προσεγγίζει οὐδὲ σὴς διαφθείρει. 12 ἐπεὶ δὲ τοῦ ματαίου καὶ φθειρομένου πλούτου ἐρᾳς, ἴσθι καλῶς ὅτι οὐδὲ οὖτός σοι συγχωρηθήσεται εἰς ἰδίαν γενέσθαι ἀπόλαυσιν 13 μετὰ γὰρ τὴν ἐμὴν ἀποβίωσιν χαλεπωτάτην μέλλεις ὑποστῆναι νόσον, καὶ ἔση ἐξ ὧν ἔπραξας κακῶν, οἵαν ἔσχηκας ἀμοιβήν, ἐπάξιον τῆς παροινίας τὴν εἴσπραξιν ληψόμενος.» 14 ἀλλὰ ταῦτα μὲν οὕτως τῷ δὲ ἀγνώμονι μαθητῆ πεισθῆναι οὐκ ἦν οὐδεμία φροντὶς οἰκείας ψυχῆς, ἀλλ' ὅλος τῆ τοῦ χρυσοῦ λιχνείᾳ κάτοχος ἦν, καὶ μόνῳ ἐπ' αὐτῷ ἡλπικώς.

15 ἀμέλει καὶ ἡ προφητεία τοῦ ἀγίου πέρας λαμβάνει, καὶ γέγονεν ἤδη οἶα ἀπεφήνατο· 16 μετὰ γὰρ τὴν τοῦ ἀοιδίμου τελεύτην, ἢ δίκης, ὅλον τὸ σῶμα λελώβηται τοῦ ἀνδρὸς ὅστε μηδ' εν τῶν μελῶν ἄπληγον ὁραθῆναι· ὅθεν οὐ πολὺ μετὰ τὴν πληγὴν ζήσας χρόνον, ταῖς ὀδύναις τηκόμενος χαλεπῶς ἐκποδὼν γίνεται.

17 πάντες δὲ οἱ τῆς ἐκείνου συμφορᾶς γενόμενοι [B f.215^{rb}] θεαταὶ καὶ ἀκροαταὶ τὸν Θεὸν ἐδόξαζον φόβφ καὶ πόθφ τὴν ἀκτημοσύνην προαιρούμενοι. καὶ οὕτω μὲν δι' ἄλλων παθῶν ἄλλους ἐξεπαίδευεν ἀσκῆσαι τὸ σωφρονεῖν.

378

⁽⁹⁰⁾ φιλαργυρία] scripsi; Α φυλαργυρία

師として叱りかつ論し、次のように言って彼に薦めた.「金銭愛は破滅をもたらす恐ろしいことで、貪欲は修道者にとってあらゆるものよりもさらに困難だ」. 10 男は恐るべき情動によって盲目になっていたので、勧めを拒み、全く物質愛に漬かったままだった.

11 偉大なる者はこの男が勧めに対して頑ななのを見たので、彼に言った、「おお子よ、あなたは自分の魂を気遣わなければならず、これをむしろ、盗人も寄り付かず虫がだめにすることもない徳の富で飾らなければならなかった [cf. マタ 6·20]. 12 あなたは滅びゆく空しい富を愛するので、よく知っておきなさい、あなたはこの富を自ら享受することは許されないだろう。13 というのも、私の死後あなたは非常な難病にかかるだろうからで、どのような報酬を得たにせよ、自分の行なった悪ゆえに酩酊にふさわしい報いを受けることになるからだ」。14 さて、これはこういうことである。無思慮な弟子にとっては、自分の魂に対するいかなる配慮も、頼るべき対象ではなく、彼は金に対する欲望に全く捕えられており、金だけに望みを置いていた。

15 ともあれ、聖人の預言は成就し、告げられていたことが今や成った. 16 すなわち、名にし負う者の死後、おお裁きよ、男の全身が損なわれ、 体のどの部分も傷のない箇所が見られないほどになったのである。それゆ え彼は傷を受けた後少ししか生きず、ひどく全身を苦しみに包まれて、な くなった.

17 男の災難の目撃者・伝聞者となった者は皆、恐れと願いから、無所有を選びとりつつ神を崇めた。このように彼は、それぞれの情動をきっかけにそれぞれの者に自制の鍛錬をするよう教えていた。

XLIII 雌羊から学ぶ教訓:マカリオス, 共住生活の必要性を 予見

1 Οὐ μὴν δὲ ἀλλ' ἐνίστε καὶ διὰ τῶν ἀλόγων ἀνέπειθε τοὺς ῥαθυμοῦντας ἀνανῆψαι καλῶς. 2 ἀπελθὼν γάρ ποτε μετά τινων ἑαυτοῦ μαθητῶν εἰς Αἴγυπτον καὶ διαπεράσαντες τὸ ὅρος, εν πρόβατον εἶδον ὃ ἐκ τῆς ἰδίας ἀγέλης χωρισθὲν (πολλαὶ γὰρ ἐκεῖσε τῶν θρεμμάτων ἀγέλαι ἐτύγχανον ἐν νομῆ) ἐγέννησε. 3 τὸ δὲ γεννηθέν, ἄτε τοῦ ποιμνίου πόρρωθεν ὑπάρχον, λύκος ἐπιδραμὼν κατέφαγε· τὸ δὲ πρόβατον δεινῶς ἀλγοῦν ἦν ὑπὲρ οὖ ἄδινε.

4 καὶ ὁ μὲν Μακάριος ἐπὶ πολὺ ἔστη κατανοῶν καὶ κατὰ διάνοιαν σκοπούμενος. οἱ δὲ μαθηταὶ $[A\ f.206^v]$ τὴν αἰτίαν γνῶναι ἐπυνθάνοντο δι' ἣν ἐξεστηκὼς ἐγεγόνει.

5 καὶ ὃς «Τοῦτο» ἔφη, «τὸ πρόβατον εἰς ὑπόδειγμα ἡμῖν, ὧ τέκνα, ληπτέον. τούτου γὰρ διαλεχθέντος ἀκήκοα: "'Εὰν οὐκ ἐγενόμην ἐκ τῆς ἀγέλης ποιρρωτάτω $[B f.215^{va}]$ καὶ τῆς ἰδίας μάνδρας χωρίς, οὐκ ἂν τὸ ἐμὸν γέννημα ὁ λύκος κατήσθιεν".»

6 οἱ δὲ «Καὶ τί,» ἤροντο, «πάτερ, ὁ λόγος αἰνίττεται;»

7 καὶ ος «Ἔρχεται καιρος» ἔφη, «ἐν ῷ οἱ μοναχοὶ σύσκηνοι ἐπὶ τὸ αὐτὸ γενήσονται. καὶ ἡνίκα ἄν τις ἐκ τούτων εὑρεθείη ἔξω τῆς ἑαυτοῦ συνοδίας, ἄρπαγμα γίνεται τοῖς ὀλεθρίοις, καὶ ἀνάλωμα τοῖς ψυχοφθόροις θηρίοις.»

8 ταῦτα τοίνυν ἀκούσαντες τὸν Θεὸν ἐδόξασαν, ὅτι τηνικαῦτα ἀπεκάλυψε τῷ ὁσίῳ τὰ μέλλοντα ἔσεσθαι ἐν τοῖς ἐσομένοις καιροῖς. καὶ ταῦτα μὲν περὶ τούτου.

XLIV 「地上の神」マカリオス

1 Έπειδη δὲ τῶν χαρισμάτων ταμιεῖον ἦν ὁ Μακάριος, ἆρά γε τῶν ἀρετῶν μιᾶς ἐπιδεης δείκνυται, καὶ οὐ πάντας δὲ ὑπερηκόντισεν, οὑ μὲν οὖν· καὶ μάρ-

XLIII 雌羊から学ぶ教訓:マカリオス, 共住生活の必要性を 予見

1 さらに、時には彼は動物をも通じて、怠惰な者たちにきちんと正気になるよう説いていた。2 すなわち、或る時彼が何人かの弟子たちとエジプトへ出かけ、山を通り過ぎたところ、彼らは一匹の羊が群れから離れて(そこの牧場には多くの動物の群れがいたのである)出産するのを目にした。3 が、生まれたものは、群れから遠く離れて居たため、狼が駆け寄ってきてこれを丸呑みにした。[産んだ雌] 羊はその苦しみのためにひどく悼み悲しんでいた。

4 マカリオスは長い間立ったままこれを眺め、思惟によって吟味していた。 弟子たちは彼が立ち尽くしていた理由を知ろうとして尋ねた.

5 彼は言った、「この羊のことを私たちは例証として受け取らなければならないのです、子たちよ. つまり、私はこの羊が『もし群れからあまりにも遠くに離れてしまわず、自分の囲いから離れずにおれば、狼が赤ちゃんを食べてしまうことはなかっただろうに』と言っているのを聞いたのです」.

6 彼らは尋ねた、「で、父よ、その言葉は何を意味するのですか」.

7 彼は言った、「時が来て、その時には、修道者たちは同じところに宿る者となるでしょう。そして修道者の中で、自分の共同体から離れる者がいるなら、彼は滅びをもたらす者の略奪の対象となり、魂を滅ぼす獣の餌食となるでしょう」

8 彼らはこれを聞いて神を崇めた。なぜなら、神は聖人に、来たるべき時に起こるであろうことを啓示されたからである。これについてはこういうことである。

XLIV 「地上の神」マカリオス

1 マカリオスは賜物の宝庫だったのだから、彼が徳の一つでも欠いていると見られることがあっただろうか、また、すべての人を凌いでいるわけ

τυρα (91) της άληθείας των πάντων Θεόν έξομεν τοῦ λόγου δηλώσοντος.

2 περιϊών δήποτε ἐν τῆ ἐρήμῳ ὁ θεῖος Μακάριος, εἶδε δύο τῶν δαιμόνων πεσεῖν ἐοικότας εἰς ἀμαρτίαν, καὶ μὴ γνοὺς ὅτι δαίμονές εἰσι⁽⁹²⁾, τοῦ Θεοῦ κρύψαντος ἵνα ἀποδειχθῆ ἡ [B f.215^{vb}] τοῦ δικαίου ἀρετὴ ὁποία ἐστὶ μεγίστη. 3 τούτους οὐκ ἤλεγξεν ἢ ἀνείδισεν, ἀλλ' εἰς ὕψος ἀτενίσας οἰκείαις χερσὶ τὸ στῆθος ἔτυψε λέγων· «Ἰδοὺ ὁ ποιήσας αὐτοὺς Θεὸς βλέπει αὐτούς, καὶ γινώσκει τὰ ἔργα αὐτῶν, ὅπερ αὐτὸς βούλεται ποιήσειε.»

4 ταῦτα οὖν διαλογιζομένω καὶ ὑπὲρ αὐτῶν κλαίοντι καὶ ὀδυνωμένω, μήτε κατακρίνειν βουλομένω, ἀλλὰ τὴν φιλανθρωπίαν τοῦ Θεοῦ ἐπικαλουμένω, φωνὴ αὐτῷ ἦλθεν ἄνωθεν «Μακάριος εἶ, ὧ Μακάριε,» λέγουσα ὅτι «καὶ θεὸς ἐπὶ τῆς γῆς γέγονας, τὰς ἀμαρτίας βλέπων καὶ κρίνων οὐδαμῶς.» ταῦτα τῆς φωνῆς τῆς θείας εἰρηκυίας, οἱ δαίμονες ἐγεγόνασιν ἀφανεῖς.

5 καὶ δὴ ἀπὸ τῆς ἡμέρας ἐκείνης θάρσος καὶ ἀνδρείαν λαβὼν κατὰ τῶν δαιμόνων, ἐν πάση ἐλευθερία ἦν τὸ δὲ πλῆθος τῶν μαθητῶν σφόδρα ἐδαψιλεύετο ταῖς ἀρεταῖς τε τοῦτον ἐκμιμούμενον καὶ δι' αὐτοῦ ἐπὶ τὰ χρηστὰ καθοδηγούμενον.

XLV マカリオス、この砂漠の将来を預言する

1 'Αμέλει κἀκεῖνα τῷ θείῳ Μακαρίῳ ἀποκαλυφθῆναι ἄπερ μέλλει περὶ τὰς [Α f. 207] ἐρχομένας γενεὰς γενέσθαι, καὶ δὴ προφητικῶς διεξιὼν [Β f.216^{ra}] πάντα προηγόρευσε τά τε μετ' ἐκεῖνον μέλλοντα τοῖς οἰκήτορσι συμβῆναι τῆς αὐτῆς ἐρήμου, καὶ οἵας ἔξει ἐν τοῖς ἐσομένοις τὰς μεταβολάς. 2 «'Η μὲν πρώτη τάξις» φησί, «δυνατὴ ἐν κυρίῳ ὀφθήσεται, ἦσπερ καὶ τὰς εὐχὰς καὶ τοὺς ἱδρῶτας εὐπροσδέκτους ὁ Θεὸς ποιήσει ἐνώπιον αὐτοῦ. 3 μετὰ δὲ ταύτην

⁽⁹¹⁾ μάρτυρα] scripsi; Α μάρτυρας

⁽⁹²⁾ δαίμονές είσι] scripsi; Α δαίμονες είσί

でないということがあっただろうか、そんなことはないのである。本書が 示すように、我々は真実の証人として万物の神を有するであろう。

2 或る時聖なるマカリオスは砂漠の中を行きめぐっていて、罪に落ちた者に似た二人の悪霊を見た。そして、この義人の徳がいかに大いなるものであるかが示されるために、神がお隠しになったので、マカリオスはそれが悪霊だとはわからなかった。3 彼はこの者たちを論すのでも難じるのでもなく、上の方を見つめて自分の手で胸を叩いて言った、「見よ、彼らをお造りになった神が彼らを見ておられ、神は彼らの業を知っておられる。ご自身がお望みになることをなさるようにし

4 このように思い、彼らのことで嘆き悲しみ、かつ断罪しようとはせずに人間に対する神の愛を引き合いに出すマカリオスに、上から声が来て次のように言った、「あなたは幸いだ、マカリオスよ、あなたは地上の神となった、罪を見ても決して裁かないのだから」。この神の声が語ると、悪霊どもは見えなくなった。

5 その日以来彼は悪霊どもに対して勇気と雄々しさとを得,全き自由の うちにあった。弟子たちの群れは彼を見倣って徳に大いに満ちあふれ,彼 によって良きものへと導かれつつあった。

XLV マカリオス,この砂漠の将来を預言する

1 ともあれ、来たるべき諸世代に起こるであろうこともまたマカリオスに啓示されるということがあり、彼は、自分より後にこの砂漠の住人に起こるであろうこと、また、来たるべき時にこの砂漠がどのような変化をするかということをすべて、預言者よろしく詳しく述べて預言した。2 彼は言う、「最初の隊列[世代]は主にあって力ある世代とみなされるだろう、そしてその祈りと汗を神はご自分の前でよみせられるものとなさるだろ

παραχωρεί ὁ Θεὸς διὰ τὰ ἄτοπα ἔργα τῶν ἐνοικούντων τὰ τέσσαρα φροντιστήρια καταστραφήναι (93)· καὶ ἄοικον ταύτην ἐπι πολὺν χρόνον γενέσθαι τὴν ἔρημον. 4 καὶ μετὰ χρόνους τινὰς πάλιν ὁ Θεὸς ἀναμνησθήσεται τῶν ἐν ταύτη εὐαρεστησάντων αὐτῷ, καὶ τὸ ἐγκατάλειμμα τούτων πολλῶν πλήρωμα ἀσκητῶν ἀποκαταστήσει.»

5 ταῦτα οὖν καὶ τὰ τούτοις ὅμοια καὶ πλεῖστα ἕτερα διαλεχθείς, διδασκαλικῶς τε καὶ προφητικῶς διεγείρων ἦν καὶ ἐπαλείφων διὰ τῆς μνήμης τῶν ἐσομένων εἰς προσευχὴν ἄπαντας, ὅπως ἀκλινεῖς ἐν τοῖς ἐπερχομένοις ἔσονται πειρασμοῖς. 6 οἱ δὲ τὴν τῶν ῥημάτων δύναμιν [B f.216^{rb}] θαυμάσαντες, δόξαν ἀνέπεμπον τῷ ταῦτα ἀποκαλύψαντι, τῷ Θεῷ.

XLVI 病気であっても悪霊をものともせず

1 'Ο οὖν Μακάριος ἄρτι τῷ γήρα καμφθεὶς καὶ ἀδυναμία βληθείς, ἐν μιῷ τῶν ἡμερῶν τῷ ἐδάφει προσέπεσε, μικρόν τι ἀναψύξαι θέλων τὸ σῶμα τῆς πολλῆς κακοπαθείας. 2 καὶ εὐθὺς ἀθρόα πληθὺς δαιμονικὴ ἐπέστη αὐτῷ προσαίτας ὑποκρινομένη καὶ ὅς τὰς ἐκείνων φωνὰς μὴ ἀγνοῶν, καταφρονήσας αὐτῶν οὐδαμῶς ἀπεκρίθη.

3 εἶτα τούτων οἱ μὲν κοιμώμενον αὐτὸν ἔλεγον εἶναι, οἱ δὲ τεθνηκότα·
4 ἄλλοι δὲ «εἴθε» ἔφασαν, «ἐκποδὼν ἐγένετο, ἵν' ἡμεῖς ἐκ τῆς βίας αὐτοῦ ἄνεσίν τινα εὑρόντες ἐλευθερίως εἰς τὸ ἐξῆς τήνδε τὴν ἔρημον διάξωμεν, καὶ τοὺς αὐτοῦ μαθητὰς ἐκ μέσου ποιήσωμεν, καὶ ἔσται πάλιν ἡ ἔρημος ὡς πάλαι οἰκητόρων δίχα.»

5 ταῦτα οὖν διαλεγόμενοι, ἐπεὶ τὸν ἄγιον ἀκούοντα καὶ μειδιῶντα ἑώρων, σφοδρῶς κατ' αὐτοῦ ἐθυμοῦντο (94), ἄτε τούτων καταφρονοῦντος καὶ μηδὲν ἀποκρινομένου. [Β f.216^{va}] 6 εἶτα τοὺς ὀδόντας τρίζοντες λίθους ἦραν, τοῦτον

⁽⁹³⁾ καταστραφήναι] scripsi; Α καταστραφή

⁽⁹⁴⁾ έθυμοῦντο] scripsi; Α εὐθυμοῦντο

う. 3 この世代の後に神は、住人たちの不行状ゆえに、四つの思惟所 [修 道院のこと] が崩壊することと、この砂漠が長い間人の住まない地となることを許容される。4 そしてしばらくの後、神は再び、[かつて] ここにおいて御心にかなった者たちのことを思い起こされ、これら大勢の禁欲者たちの残りは満ちあふれを回復するだろう」。

5 こういったこと、またこれに類すること、さらにその他非常に多くのことを彼は語り、教師としてまた預言者として、来たるべきことどもの記憶を通じて、すべての人を祈りへと促し励ましていた。来たるべき試みの際に彼らがなびかない者となるためにである。6 彼らは [マカリオスの]言葉の力に驚嘆し、これらを啓示された神に栄光を帰していた。

XLVI 病気であっても悪霊をものともせず

1 今やマカリオスは老齢 [の重み] にたわみ,無力のうちに置かれており,或る日のこと地面に倒れた.体を非常な難儀から少し休息させようとしたのである.2 するとすぐに,悪霊の群れがまとまって,物乞いのふりをして彼のもとにやってきた.彼は連中の声を見極めずにはおかず,彼らを軽蔑して決して答えなかった.

3 それから、彼らのうちで、マカリオスは眠っているのだという者があり、死んだのだと言う者もあった。4 他の者たちは言った、「あーあ、マカリオスがいなくなって、我々が彼の暴力から逃れることができ、以後自由にこの砂漠で過ごせれば、彼の弟子たちを追い出せれば、そして砂漠が再び昔のように、住人がいなくなればよいのだがし

5 彼らはこう言っていたが、聖人が聞いて笑っているのを目にしたので、彼に対してひどく怒った。彼が自分たちを軽蔑して答えずにいたからである。6 そして歯ぎしりをしながら石を持ち上げた。彼を除こうとしたので

καταλεῦσαι (95) ἐπειγόμενοι ἡ δὲ χάρις ἐπεσκίασεν [A f.207] αὐτὸν μηδεμίαν ἐπ' αὐτὸν ἀνιεῖσα (96) βολήν, ἀλλὰ ταῖς τῶν λίθων ὁρμαῖς ἐβάλλοντο ἐπ' αὐτοὺς στρεφομένων, καὶ ὁ μὲν ἀσινὴς ἦν καθεζόμενος καὶ ἄτρομος. 7 οἱ δὲ οἰμωγαῖς τε καὶ γοεραῖς χρησάμενοι φωναῖς, ἐθορύβουν ὡς ἐπὶ νεκρῷ ὀλολύζοντες, ὥστε τοὺς μαθητὰς διὰ τῆς ἐκείνων φωνῆς ταχέως πρὸς αὐτὸν ἀφικέσθαι, οἰομένους τῶν ἀπροσδοκήτων τί συμβεβηκέναι τῷ γέροντι.

8 ὁ δὲ τηνικαῦτα ἐγερθεὶς ἐπιτιμίοις τὰς τῶν δαιμόνων φάλαγγας ἐφυγάδευσεν ὀλολύζοντας καὶ ὀδυρομένους. καὶ ταῦτα μὲν ὧδε.

XLVII 貴人の娘の治癒

1 Ποτὲ δὲ τῷ θείῳ Μακαρίῳ κλίναντος τοῦ ἡλίου ἄρτον ἐσθίειν ὡς εἴωθεν καθεζομένῳ, πρόσεισι τούτῳ ὁ μαθητὴς αὐτοῦ λέγων· «Ἄρχων τις τῶν 'Ρωμαίων ἦλθε πρὸς ἡμᾶς, μεθ' ἑαυτοῦ παῖδα ἔχων, καὶ βούλεταί σε ἰδεῖν.» ὁ δὲ εἰσελθεῖν ἐπέτρεψεν. 2 εἰσελθόντος $[B f.216^{vb}]$ δὲ τοῦ ἀνδρός, μικρὸν ὑποχωρῆσαι τὸν μαθητὴν προσέταττεν, εἶτα τὸν ἄνδρα πυνθάνεται τίνος χάριν πρὸς αὐτὸν ἐφοίτησε καὶ τίς αὐτῷ ἡ ζήτησις.

3 ὁ δὲ «Οὖτος ὁ παῖς,» ἀπεκρίνατο, «ἄγιε, ἐμός ἐστιν υἱὸς δεινῶς ἀεὶ ὑπὸ τοῦ ἄρχοντος τῶν δαιμόνων ἐνοχλούμενος, καὶ πρὸς πολλοὺς τῶν ἀγίων ἀνδρῶν ἀπήγαγον καὶ οὐδεὶς αὐτὸν ἐθεράπευσε, καὶ καθ' ἑκάστην ἡμέραν πεντάκις σπαράττει αὐτὸν καὶ χαλεπῶς βασανίζει.»

4 ύπολαβών δὲ ὁ ἄγιος «Οὐ πάντα» ἔφη, «εἴρηκας ἀληθῆ, ὧ ἄνθρωπε. τί σοι δὴ καὶ τῷ ψεύδει, ἐνώπιον τοῦ άγίου πνεύματος μὴ ἀληθὲς εἰρηκέναι τολμήσαντι; 5 ὁ παῖς γὰρ οὖτος ὃν ὑποκρίνη υἱόν σου εἶναι θυγάτριόν ἐστι Διοκλητιανοῦ τοῦ βασιλέως, καὶ οὐ σὸς υἱός.»

6 ὁ δὲ ἀνὴρ ἐκεῖνος ἐπὶ τῷ λόγῳ ἐκπλαγεὶς καὶ δέει συσχεθείς, τρέμων τοῖς

⁽⁹⁵⁾ καταλεῦσαι] scripsi; Α καταλεύσας

⁽⁹⁶⁾ ἀνιεῖσα] Α ἀνιεῖσαι

ある. しかし恵みは彼を覆い、彼に対して一投たりとも許すことなく、かえって、戻ってくる石の攻撃によって石は彼らに向かって飛んでいった. そしてマカリオスは傷つかず、座しており、恐れずにいた. 7 連中は嘆きとうめき声とを上げて、死者を嘆く者たちのように騒々しくなり、その結果弟子たちが、連中の声を聞いてすぐに、老師の身の上にどのような予期せざることが起こったかと思って、彼のところにやってきた.

8 その時彼は立ち上がって、罰によって、騒ぎまた悲しむ悪霊どもの部隊を追い払った、これらのことは以上.

XLVII 貴人の娘の治癒

1 或る時、日が沈んで、いつものようにパンを食べようと座していた聖なるマカリオスのところに弟子がやってきて言った、「ローマ人の高官が私たちのところにやってきました.子供を連れており、お会いしたいとのことです」。彼は中に入ることを許した.2 男が入ってくると、彼は弟子に少し引き下がるよう命じた.それから彼は男に、何のために自分のところにやってきたのか、何が彼の求めなのかを尋ねる.

3 男は答えた、「聖人様、この子どもは私の息子で、いつも悪霊どもの 頭目によってひどく苦しめられています。私は多くの聖なる男たちのもと へ連れていきましたが、誰も治すことができませんでした。悪霊はこれを 一日に五度襲い、ひどく苦しめるのです」。

4 聖人は答えて言った、「あなたは全く真実を語ったわけではないな、 殿方. あなたと嘘の間に何の関係があるのか、聖霊の前であえて真実を言 わずにおくとは、5 実際、あなたが自分の息子だと称するこの子どもは皇 帝ディオクレティアヌスの娘であり、あなたの息子ではない」.

6 その男はこの言葉に仰天し、恐れに捕えられて、震えながら聖人の足

τοῦ ὁσίου ποσὶ προσέπεσε συγγνώμην αἰτῶν, «Δοῦλος ὑπάρχω» φησίν, «τοῦ πατρὸς τοῦδε τοῦ θυγατρίου, καὶ καθὼς ἐτάχθην οὕτως πεποίηκα. σύγγνωθι, ἄγιε.»

7 ὁ δὲ θεῖος Μακάριος αὐτίκα ἔλαιον [B f.217^{ra}] ἐν χερσὶ λαβών, καὶ σφραγίσας αὐτὸ τὰς ἀκοὰς ἤλειψε τῆς κόρης τούτῳ, καὶ τὰ μὲν δαιμόνια μαστιζόμενα εὐθὺς ἀπελαθῆναι καὶ λεγεῶνα ὄντα διαλεχθῆναι, τὴν δὲ κόρην ὑγιῆ ἐπανιέναι πεποίηκεν.

8 ἀγασθεὶς οὖν τὴν θαυματουργίαν ὁ ἄρχων ἐκεῖνος, καὶ τοῦ σπουδαζομένου οὐκ ἄστοχος δειχθεὶς ἐναργοῦς οὕσης τῆς ἱάσεως, χρυσοὺς τε¹τρακισχιλίους [A f.208^r] οῦς εἶχεν ὑπὲρ τῆς θεραπείας φερομένους ἐνεγκὼν τῷ ὁσίῷ δίδωσι, «Λάβε ταῦτα» εἰπών, «καὶ διάνεμε αὐτὰ τοῖς ἐνθάδε ἀσκηταῖς.» 9 ὁ δὲ «Χρυσίου καὶ ἀργυρίου οἱ ταύτην οἰκοῦντες τὴν ἔρημον οὐ χρήζουσιν, ὧ τέκνον ἄπιθι οὖν ἐν εἰρήνη, καὶ διάδος αὐτά, ὡς βούλει, πτωχοῖς. 10 πλὴν δὲ τάχυνον καὶ τῆς ἐρήμου ἔξιθι καὶ λάβε μετὰ σοῦ ὃν ἔχεις ἐν τῷ ὅρει κεκρυμμένον λαόν, οὐδὲν γὰρ ἡμῖν ἀπέκρυψε τῶν κατὰ σὲ ὁ πάντα ἐπιστάμενος Θεός.» 11 πλῆθος γὰρ ὑπηρετῶν εἶχε συνοδοιπόρων οῦς δὴ ἐκεῖσε γενόμενος ἐν τῷ ὅρει κατέκρυψε, λαθεῖν οἰόμενος ὃν οὐκ [B f.217^{rb}] ἔλαθεν.

12 ὅθεν ὁ ἀνὴρ πάντα ὁμολογήσας, ἐκπληττόμενος ἐπανήει, δοξάζων τὸν Θεόν ὑπερ ὧν ἤκουσε καὶ εἶδε παράδοξα. καὶ ταῦτα μὲν οὕτως.

XLVIII マカリオス、祈りによって弟子を瞬間的に連れ戻す

1 "Ετερον δέ τι τῶν θαυμάτων ὁ λόγος παραδοξότερον ὑπομνήσει ἀπῆλθε τίς ποτε (97) τῶν αὑτοῦ μαθητῶν ἐν τῆ πόλει πωλῆσαι σπυρίδας.

2 ἐν ὅσῷ οὖν ἦν περιϊὼν ἐν χερσὶ τὰς σπυρίδας ἔχων, τοῖς ζητοῦσι ἐξωνήσασθαι ὑποδεικνύων, γυναικί τινι (98) τῶν ἀκολάστων συναντῷ, ἤτις ἐμπαθῶς

388

⁽⁹⁷⁾ ἀπηλθε τίς ποτε] scripsi; Α ἀπηλθέ τις ποτὲ

元にひれ伏して赦しを乞うて言う,「私はこの娘の父の奴隷なのです. 命 じられたように行ないました. お赦しください. 聖人様...

7 聖なるマカリオスは直ちに手に油をとり、これに十字を切って娘の耳に塗った。そしてマカリオスは、悪霊が鞭打たれてすぐに駆逐され、レギオンであると言うようにし[cf. マコ5・9]、娘が健康になるようにした。

8 かの高官は奇跡に喜び、癒しが働いて、熱心に求めたことが的外れに終わらなかったことが示されたので、癒しのために持参した金貨四千枚を持ってきて聖人に与えて言った、「これをお取りください、そしてここの禁欲者たちに分け与えてください」。

9 マカリオスは [言った],「この砂漠に住む者たちは金や銀を必要としません,子よ. さあ平安のうちにお帰りなさい,そしてお望みのようにそれを貧しい者たちに分け与えなさい. 10 急いで砂漠から出ていき,自分とともに,あなたが連れてきて山に隠れている民を連れていきなさい. すべてを知りたもう神は私たちにあなたのことを何一つ隠しておられないのです」. 11 彼は同道する大勢の従者をかかえており,ここに着いてから彼らを山に隠していたのである. 気づくまいと思ったのである——しかし,気づかれずにはいなかった.

12 そこで男はすべてを告白し、驚愕に満たされて帰っていった――耳にしかつ目にした驚くべきことのために神を崇めながら、これはこういうことである。

XLVIII マカリオス、祈りによって弟子を瞬間的に連れ戻す

1 本書は別のさらに驚くべき奇跡に言及するだろう。或る時、彼の弟子の一人が籠を売りに町へ出かけていった。

2 買おうとする人々に見せようと思って籠を手にして行きめぐっていた時に、彼は身持ちの悪い女に会う、このみじめな女は、若者[たる弟子]

τῷ κάλλει τρωθεῖσα τοῦ νεοῦ, τὴν πάλαι Αἰγύπτιαν μιμεῖται πρὸς ἄτοπον κινηθεῖσα ἔρωτα ἡ ἀθλία, καὶ δὴ τὸν ἄνδρα τῶν οὐδῶν ἐπιβῆναι τῆς οἰκίας κελεύει. 3 ὁ δὲ τὴν τοῦ πονηροῦ ἐνέδραν⁽⁹⁹⁾ μὴ γνοὺς ἀπλότητι εἰσήει ἤθους. 4 ἡ δὲ κλεισὶν⁽¹⁰⁰⁾ εὐθὺς ἀσφαλισαμένη τὴν θύραν, καὶ εν τῶν σκευῶν λαβοῦσα ἐν χερσὶ πόσον ἄν εἴη ἡρώτα τὸ τίμημα· ἔπειτα τοῖς τῆς ἀκολασίας ἐχρῆτο ῥήμασιν ἡ τάλαινα.

5 ὁ δὲ μοναχός, ἐπεὶ οὐ προσδοκωμένην ἐώρα τὴν συμφορὰν ἀλλ' ἤδη γεγενημένην καὶ τὸν κίνδυνον [B f.217^{va}] ἐπὶ θύραις, εἰς οὐρανὸν τὸν νοῦν ἀνυψώσας καὶ τοὺς ὀφθαλμούς, «'Ο τοῦ αἰσθητοῦ θανάτου τὸν προφήτην ῥυσάμενος, Χριστέ,» ἐκ βάθους καρδίας ἐβόησε, 6 «κἀμὲ τὸν ταπεινὸν ῥῦσαι ἐκ τῆς ὀλεθρίας ταύτης ἐπιβουλῆς (101) καὶ τοῦ θανάτου τοῦ νοητοῦ, διὰ τῶν τοῦ ἐμοῦ πατρὸς Μακαρίου εὐχῶν τοῦ σοῦ θεράποντος.»

7 ταῦτα εἰπὼν παραυτίκα ἀρπαγείς, ἐν τῷ ἰδίῳ κελλίῳ ἀποκαθίσταται, καὶ εὖρε τὸν ὅσιον ἐν προσευχῆ χεῖράς τε ἄμα καὶ φρένας εἰς οὐρανὸν ἔχοντα, καὶ ὑπὲρ αὐτοῦ καθικετεύοντα ῥυσθῆναι τῆς ἐφεστηκυίας αὐτῷ ἐπαγωγῆς. 8 πάντα [A f.208'] γὰρ ὑπὸ τῆς χάριτος ἐδιδάχθη ἃ πέπονθεν αὐτοῦ ὁ μαθητής, καὶ οὔπω μαθεῖν παρ' αὐτοῦ ἐπιστάντος ἐδεῖτο, ὧν ἔφορος ἦν τοῖς νοεροῖς ὀφθαλμοῖς.

9 ἀλλ' «Εὐχαριστίαν δῶμεν,» ἔφη, «ὧ τέκνον, τῷ φιλανθρώπῳ Θεῷ, παρ' οὖ σοι νυνὶ εἰς βοήθειαν ἀπεστάλη ἐκείνη ἡ τὸν Φίλιππον πάλαι ἀρπάσασα δύναμις, καὶ τῷ Κανδάκης (102) πολλῷ ῷ τάχει παραστήσασα σωτηρίας ὁδηγόν. 10 αὕτη οὖν καὶ ἐφ' ἡμᾶς [Β f.217*b] σήμερον γέγονεν ἡ ἐπισκοπὴ τοῦ κινδύ-

⁽⁹⁸⁾ γυναικί πνι] scripsi; Α γυναικί πνὶ

⁽⁹⁹⁾ ἐνέδραν] scripsi; Α ἔνεδραν

⁽¹⁰⁰⁾ κλεισίν] scripsi; Α κλείσιν

⁽¹⁰¹⁾ ἐπιβουλῆς] Α ἐπὶ βουλῆς

⁽¹⁰²⁾ Κανδάκης] scripsi; Α Κανδάκη

の美しさに情動的に傷つき、誤った愛へと動かされていにしえの[ヨセフを誘惑した]エジプト女に倣い、男に家の敷居から中に入るように言う. 3 男は悪しき者のたくらみを知らずに、性格の単純さゆえ中に入った. 4 女はすぐに戸に錠をかけ、器の一つを手にとって、値段はいかほどかと尋ねた、それから、悲惨な女は淫乱の言葉を弄した.

5 修道者は、予期せぬ災難が今や起こり、危険が戸口に近づいているのを目にしたので、精神と両目とを天へと向けて、心の底から叫んだ、「預言者を感性的死から救い出されたお方、キリストよ、6 粗末な私をも、滅びをもたらすこの企てから、知性的死からお救いください、あなたのしもべにして私の父であるマカリオスの祈りによって」。

7 彼はこう言うと直ちに取り去られ、自分の僧房に戻り、聖人が祈りの中で手と心とを天へと向け、彼に迫っていた惨事から救われることを彼のために願っているのを目にした。8 というのも、恵みによって、マカリオスには、自分の弟子が蒙ったことすべてが知らされていたからであり、精神の目で彼が見たことについて、当の本人がやってきて話をするのを聞く必要など全くなかったからである。

9 マカリオスは言った,「子よ,人間を愛される神に感謝を献げよう.その昔,カンダケの者[高官]に救いの導き手としてフィリッポスをきわめて速やかに送り,そして取り去った[cf. 使8・26-39]ところの力が,今や救助のためにあなたのところに送られたのだ. 10 この力が今日私たちのところに、危険から解放する見張りとなったのだ. だから私たちは,救ってくださった神に讃美を献げようではないか」.

νου έλευθερώσασα, τοιγαρούν αίνεσιν τῷ ὑυσαμένω Θεῷ ἀναπέμψωμεν.»

11 ταῦτα εἰρηκὼς εὐχαριστηρίους ἦσαν ὕμνους τῷ διηνεκῶς ὑμνεῖσθαι καὶ δοξάζεσθαι ἀξίῳ ὄντι Θεῷ.

XLIX マカリオスの晩年

1 'Αλλὰ τὰ μὲν τῶν θαυμάτων ἤδη βραχέα ταῦτα εἰρήσθω· ὅσα δὲ ἔτερα πλεῖστα γλώσσαις ἐτέρων ὡς ἐφικτὸν ἐκείνοις τὰ περὶ αὐτοῦ λέγειν καταλιπόντας, ἐπὶ τὰ τελευταῖα ἰτέον τοῦ ἱεροῦ καὶ θείου Μακαρίου· 2 καὶ οἵων ἐπάθλων λαμπρῶν τε καὶ τῶν ἐκείνου ἱδρώτων ἐπαξίων τετύχηκε γνῶναι ἐπιεικός (103), ἐκ τοῦ προσληφθέντος αὐτῷ ἐνθένδεν ἐν τῷ καιρῷ τῆς ἀναλύσεως, ἐπειδὴ τοῦ θανάτου ἐφεστήκει ὁ καιρὸς ἐφ' ῷ ἔδει τὸν ἐν γήρα κεκμηκότα μυρίοις πόνοις ἐκτετηκότα ἀσκητικοῖς ἐκ τῶν τῆς σαρκὸς διαλυθῆναι δεσμῶν.

3 πρὸς γὰρ τοῖς ἐνενήκοντα ἕβδομον διεβίω χρόνον, ἀγῶσί τε καὶ ἱδρῶσι τῆ φύσει μαχόμενος καὶ ὅλος πρὸς ἀντιπαράταξιν τῶν ἀοράτων ἀντιταττόμενος, οὐ μέντοι πεποιθὼς οὐδενὶ [Β f.218^{ra}] τῶν κατορθωμάτων ἐφ' οἶς πάντας ὑπερβεβήκει, ἀλλ' ἀεὶ τὸν θάνατον ἐν ὀφθαλμοῖς ὁρώμενόν τε καὶ τῆ γλώττη ἀδόμενον ἔχων, καὶ ταῖς ἐννοίαις ἐμβατεύων, καὶ κατανοῶν τὰ τῆς φρικτῆς ἐκείνης κρίσεώς τε καὶ ἐξετάσεως. 4 ὅτε προσεγγίζειν τῷ ποθουμένῳ ἔμελλεν, οὐκ ἄδηλος τούτῳ γίνεται ἥ τε τοῦ βίου ἔξοδος καὶ ἡ τῶν σαρκίνων δεσμῶν ἀνάλυσις.

5 παρέστησαν γὰρ αὐτῷ ξένῳ εἴδει καὶ λαμπρότητι λίαν ὑπερφυεῖς ἄνδρες δύο λευχειμονοῦντες καὶ φαιδρῶς ἠγλαϊσμένοι, «Χαίροις,» εἰπόντες, «ὧ Μακάριε.»

6 ό δὲ τίνες τε εἶεν καὶ ὅτου χάριν τῆς τούτων ἐπιστασίας αὐτὸς κατηξίωτο ἀνεπυνθάνετο.

392

⁽¹⁰³⁾ ἐπιεικός] scripsi; Α ἐπιεικός

11 彼がこう言った後、彼らは感謝の賛美を、絶えず賛美され崇められるにふさわしい方である神に対して歌った。

XLIX マカリオスの晩年

1 さて、これらは奇跡のうちのごく一部であるということが言われなければならない。彼に関するその他非常に多くのことは、他の人々の弁舌のために、(彼らがそれらを使える限りで)これを語るべく彼らに残しておくこととして、[我々は]神聖にして聖なるマカリオスの最後へと進まなければならない。2 彼がどのような輝かしい功業と自分にふさわしい汗とを得たかということを知ることは、これ以降彼の死の時に彼に追加的に与えられたもののゆえに、適切なことである。というのも、老齢にあって幾多の禁欲的労苦によって労し消耗した彼が、肉の縄目から解き放たれることとなる死の時が近づいていたからである。

3 というのも、彼は九○年に加えること七年目を生きたからであり、闘いと汗とによって彼は自然的本性と戦っており、見えない諸力との対決に全力で対しており、しかしながら、万人をしのぐ所以となった偉業のどれ一つにも侍むことなく、つねに眼前に死を見、舌で賛美しながら、思いに沈潜し、かの恐るべき裁きと洞察とにかかわることに思いを致していたのである。4 憧れの対象へと近づくこととなった時、このマカリオスには、生からの出離と肉の縄目からの解放とが「予め〕明らかにされる。

5 というのは、彼のところに、異形と明るさとの点で実に度外れの二人の男、白い衣をまとい輝かしくきらめく者たちが現れて言ったからである、「お元気で、マカリオスよ」.

6 マカリオスは、これは誰で、何ゆえに自分がこの人々の顕現にふさわ しいものとされたかを、自問していた。 7 οἱ δὲ «Ἡμᾶς ἀγνοεῖς, ὦ φίλων ἄριστε;» χαριέντως πρὸς αὐτόν ἔφασαν.

8 καὶ δς πρὸς αὐτοὺς ἀτενίζειν μὴ δυνάμενος [A f.209^r] (ἐνίκα γὰρ τὸ ἐκείνων κάλλος καὶ ἡ φαιδρότης τὰς τῶν ὀρατῶν ὄψεις), «Πόθεν μοι γνῶσις» ἀντέλεγε, «περὶ ὑμᾶς, ὧ τίμιοι καὶ ὑπέρλαμπροι; 9 οἵτινες γάρ ἐστε οὐκ ἐπίσταμαι, ὑπὸ τῆς ὑμῶν πολλῆς [B f.218^{rb}] λαμπρότητος ἡττώμενος τὴν ὁρατικὴν αἴσθησιν καὶ κατανοεῖν μὴ δυνάμενος τὴν εὐπρέπειαν ὑμῶν.»

10 « Έγώ» φησιν θάτερος αὐτῶν τῶν φαινομένων, «ὁ τῆς ἐρήμου καθηγητὴς ὁ μέγας ᾿Αντώνιος, οὖ τῆς φιλίας σχετικῶς περιείχου καὶ ἀδελφικῶς προσωμίλησας. 11 ὁ δὲ νῦν σοι συνοφθείς μοι, οὖτος ὁ μέγας ἐστὶ τῆς μοναδικῆς πολιτείας διδάσκαλος Παχώμιος. 12 Χριστὸς γάρ, οὖ συνεραστὴς ἡμῖν ἐγένου καὶ θεράπων ἄριστος, ἡμᾶς νυνὶ ἐξαπέστειλεν ἐπισκέψασθαί σε, καὶ τὸ χαριέστατόν σοι εὐαγγελίσασθαι πέρας ἔτι γάρ σοι ἀπὸ τῆς σήμερον ἡ ἐννάτη τῆσδε τῆς ζωῆς ἐκδέχεται πέρας, καὶ ἡ ἀἶδιος διαδέχεται. 13 οὐκέτι σοι τὸ ἄχθος τοῦ σώματος ὑπερταχθήσεται (104), ἀλλ΄ αὖθις μετὰ τὴν προθεσμίαν τῶνδε τῶν ἡμερῶν ἡμεῖς ἐλευσόμεθα πρὸς σὲ μετὰ δορυφορίας ληψόμενοί σε πρὸς τρυφὴν καὶ ἀφθαρσίαν ἡμῖν συναυλισθῆναι καὶ τῷ δεσποτικῷ θρόνῳ συμπαριστᾶναι. 14 θάρσει τοιγαροῦν καὶ τῶν λεχθέντων πιστοτάτων μαρτύρων ἐπιλαβοῦ [Β f.218^{να}] τῶν οἰκείων σου ὀφθαλμῶν, ἀνάβλεψον εἰς οὐρανὸν καὶ θέασαι τὰ κάλλη τῶν ἡτοιμασμένων σοι παρὰ Θεοῦ.»

15 ὁ δὲ τῷ ὕψει προσχών, ἢ τῶν θαυμάτων, ὁρᾳ εὐτρεπισμένον κοιτῶνα καὶ λαμπρότατον νυμφῶνα, καὶ ἄλλα τινὰ ἄρρητά τε καὶ παράδοξα ὧν τῆς γνώσεως ὁ θεῖος ἡττᾶται⁽¹⁰⁵⁾ ἀπόστολος. 16 ἔτι δὲ καὶ φωνῆς ἐκεῖθεν ἀκούει «Δεῦρο

⁽¹⁰⁴⁾ ὑπερταχθήσεται] scripsi; Α ὑπερταθήσεται

⁽¹⁰⁵⁾ ήττᾶται] scripsi; Α ήτᾶτται

7 彼らは「私たちのことがわからないのか、最良の友人よ」と、微笑んで彼に言った。

8 彼は彼らに顔を向けることができずに(というのも、彼らの美しさと輝きとは、見られる者たちの顔を [覆い隠すほどの輝きで] 圧倒していたからである)返答した、「どこから私に、あなたがたに関する知識が得られましょうか、おお尊い、輝かしすぎる方々、9 実際、あなたがたがどなたか私は存じません。あなたがたの非常な明るさによって視覚がまいってしまって、ご尊顔を見ることができないものですから」。

10 現れたうちの一人が言う,「私は砂漠の教師、偉大なるアントニオスで、私との友情をあなたは好み、あなたは [私と] 兄弟の交わりをしたのです。11 私と一緒に今あなたに現れているこの方は、修道生活の教師、偉大なるパコミオスです。12 あなたも我々と同様愛しておられその最良の奉仕者となられた、その当のお方なるキリストが今、あなたを見届けるため、またあなたにきわめて優美な最後を告げるために、私たちをお遣わしになったのです。つまり、あなたには今日から第九日 [まであり、その日が] 今生の終わりを受け取り、そして永遠の生が [あなたを] 受け継ぐのです。13 もはやあなたには、体の重荷が課せられることはないでしょう。そして再び、これら日々の定められた期間の後に、私たちは、歓楽と不朽とを得てあなたが私たちとともに住み、ともに主の玉座のわきに立つようになるために、随行とともにお迎えすべくあなたのもとにやってきます。14 ですから勇気を出して、最も信頼すべき証人と言われるもの、あなた自身の目をしっかりさせて、天を見上げて、神からあなたのために用意されたものの美をご覧なさい [

15 彼が高みを見やると、おお奇跡よ、よくしつらえられた寝室ときわめて明るい婚礼用の部屋が見え、また、聖なる使徒がそれを知って圧倒さ

Μακάριε» λεγούσης, «πρὸς αἰώνιον τρυφήν, τὰς τῶν καμάτων σου ἀμοιβάς, λαμπρὰ τὰ ἐπουράνια ληψόμενος ἔπαθλα:» ἀλλ' αὕτη μὲν οὕτω διαλεγομένη αὐτῷ ἡκούετο. 17 οἱ δὲ «Εἰρήνη σοι,» ἐπειπόντες, «Μακάριε, καλῶς οὖν πρόσεχε τῆ τε ὀπτασία καὶ τῆ τῶν ἡμερῶν προθεσμία, καὶ πάντα τὰ προσήκοντα διδάσκων μὴ ἀμέλει τοὺς ἐν πνεύματί σοι γεγενημένους υἱούς, ταῖς σαῖς ἕπεσθαι δηλώσας ὁδοῖς.» εἶτα συνταξάμενοι τούτῳ ἀφανεῖς ἦσαν.

18 ὁ δὲ θεῖος Μακάριος μέχρι τῆς ἑβδόμης ἦν ἐπὶ ψιαθίου καθεζόμενος, τοὺς μαθητὰς [A f.209^v] διδάσκων καὶ [B f.218^{vb}] παραινῶν τοῖς πόνοις τοῦ σώματος τὴν ὑπὲρ ἐκείνων συγκεράσας φροντίδα, καὶ οἶα φιλόπαις διαλεγόμενος πατὴρ «΄Ο τῆς ἐμῆς,» φησίν, «ὧ τέκνα, ἀναλύσεως καιρὸς ἰδοὺ ἐπέστη, οὕτω γὰρ Θεῷ τὸ κατ' ἐμὲ δοκοῦν, ὑμᾶς δὲ τοῖς τούτου ἀφίημι περιεπομένους ὀφθαλμοῖς. 19 ἔχεσθε τοιγαροῦν τῶν πατρικῶν θεσμῶν, καὶ τῆς ὑμῖν δεδειγμένης ἀσκητικῆς παραδόσεως ἀρετὰς κτώμενοι καὶ κακίας μηδαμῶς ἀνεχόμενοι.»

20 ταῦτα καὶ τὰ τούτοις ὅμοια διεξοδικώτερα εἰπών, στηρίξας αὐτοὺς καὶ διεγείρας πρὸς ἀντιπαράταξιν τῶν ἀοράτων καὶ ὅσους εἶναι ἰκανοὺς ἔγνω καὶ ἤδη τὴν τῶν ἄλλων ἐπιστασίαν καλῶς ἐπισταμένους, τούτοις τήν τε διδασκαλίαν καὶ τὴν τῶν ψυχῶν ἐπιμέλειαν ἐγχειρίσας, καὶ χεῖρας ἐπιθείς, αἴ γε εἰς οὐρανὸν ἐπαιρόμεναι εἰς οἶκτον τὸ θεῖον ἐπισπᾶσθαι εἰώθασι, πατρικαῖς εὐλογίαις περιφράξας ἐνίσχυσεν.

21 εἶτα τοῖς πᾶσιν ἐπευξάμενος προσηνῶς συνετάξατο, καὶ τῆ προσευχῆ ἑαυτὸν ἐπιδούς, ἦν [B f.219^{ra}] τῷ μόνῷ Θεῷ προσομιλῶν· ἀλλ' οὖτος μὲν οὕτω πρὸς τὴν ἔξοδον ἔτοιμος ἐτύγχανεν.

れたという、その他の言いがたく驚くべきものが見えた [cf. II コリ 12・4]. 16 さらに彼はそこから「さあマカリオスよ」と言う声を聞く、「いざ永遠の歓楽へ、あなたの労苦の報い、天の輝かしいほうびを得るために」、この声がこのように語るのを彼は聞いた. 17 彼ら [二人] はさらに「マカリオスよ、あなたに平安あれ、幻と日の定められた期間とによく注意して、すべて適切なことを教え、あなたの道に従うことを示して、以て、霊においてあなたに生まれた息子たちをおろそかにしないようにすることです」と言い、その後彼に暇乞いをして見えなくなった。

18 聖なるマカリオスは七日目までござの上に座し、弟子たちを教え励まし、体の労苦とその労苦に対する配慮とを混ぜ合わせ、言わば子を愛する父として語らって言う、「おお、子たちよ、私の死の時が近づいた。これが私に関する神の御心であり、私はあなたがたを、この方の目によってあしらわれる者として残していきます。19 ですから父たちの掟に従いなさい、そしてあなたがたに示された禁欲的伝統の徳を得て、決して悪になずまないことです」。

20 こういったこと、またこれに類することをいつもより詳しく言った後、彼は彼らを強め、見えない諸力との対決へと促した。そして、既に[霊的に見て]十分な者だと彼が知っており、他人への配慮をよくわきまえている人々には、教えと魂に対する世話とを委ね、いつもは天へと差し伸べられ神を憐れみへと誘うのがつねだった手を[それらの人々の]上に置き、父親の祝福を以て「彼らを]堅くし強めた。

21 それからすべての者のために祈り、優しく暇乞いをし、自分を祈りに委ね、神とのみ交わっていた。こうしてこの者は出離への用意ができた状態にあった。

し マカリオスの死

1 'Ο δὲ Θεὸς οὐ τῶν πολλῶν ἐπ' ἴσης (106) τούτῳ ἐπάγει τὸν θάνατον, εἴπερ μηδὲ (107) οὖτος τοῖς λοιποῖς ἶσος γέγονεν ἐραστής: 2 ἀμέλει γοῦν, πρὸς αὐτὸν τῶν ἀτίλων μεγίστην οὐρανόθεν προσφοιτᾶν στρατίαν, τὸ χερουβεὶμ ἐκεῖνο προηγούμενον ἔχουσαν, ὅπερ ὁδηγοῦν τὸν Μακάριον εἶναι πολλάκις ὁ λόγος ἐδήλωσεν.

3 ὁ δὴ καὶ τῷ Μακαρίῳ ἐπιστὰν «'Ανάστα,» φησίν, «ἐραστὰ τοῦ κυρίου, ἀπίωμεν πρὸς τὰς αἰωνίους σκηνάς, τὸ τῆς σαρκὸς ἀποδυσάμενος ἄχθος δεῦρο δὴ εἰς ἀνάπαυσιν καὶ εἰς ἀἶδιον τρυφήν. 4 ἄρον τοὺς ὀφθαλμούς σου καὶ ἴδε ὅση σοι τῶν ἀσωμάτων εἰς δορυφορίαν ἀπεστάλη πληθύς, ὅσον τῶν ἀσκητῶν παρέστη ἄθροισμα. 5 παράδος μοι τὴν σὴν προσφιλεστάτην ψυχήν, ἢν παρὰ Θεοῦ ἐπιστεύθην φυλάττειν καὶ περιέπειν ταύτην ἐγχειρισθεὶς συνοῦσαν τῷ σώματι. 6 νῦν δὲ τῶν τῆς σαρκὸς δεσμῶν διαζευχθεῖσαν ὡς μέγα τι καὶ τιμι-ώταντον [B f.219^{rb}] κτῆμα ταύτην ὑποδέξομαι, καὶ τὰς ἐναντίας φάλαγγας καυχώμενος ὑπερβήσομαι ταύτην πολλῆ δόξη ἀναγαγών, τῷ παντάνακτι παραστήσω [A f.210^r] Θεῷ, τοῖς οὐρανιοῖς συνευφραινομένην.»

7 καὶ ταῦτα μὲν ἐκεῖνο, ὡς ἤδη πρὸς τῶν ἀξιωθέντων τῶν τοιούτων ἀκουσμάτων ἡ τῶν παρόντων πληθὺς μεμυσταγώγηται. ὁ δὲ θεῖος Μακάριος ἔρωτι ἀκατασχέτω πρὸς τὸν ποθούμενον ἐφελκόμενος, λίαν τῆς ἐξόδου ἐγλίχετο. 8 καὶ ἀηδία ἢ κατηφεία ἤκιστα ὁ γεννάδας συνείχετο, ἀλλ' ἐκεῖνον μιμούμενος ὅσπερ (108) ἐκούσιον ὑπὲρ ἡμῶν ὑπέστη θάνατον, ἱκετικῶς ὑπὲρ πάντων εὐξάμενος, καὶ χεῖράς τε (109) ἄμα καὶ φρένας πρὸς οὐρανὸν ἄρας, ἐσχάτην φωνὴν «Εἰς χεῖράς σου, Χριστέ,» ἔφη, «τὴν ψυχήν μου παρατίθημι» ταῦτα εἰπὼν εὐθὺς σὺν τοῖς οὐρανιοῖς τὴν ἐπουράνιον πορεύεσθαι ἄνεισι.

398

⁽¹⁰⁶⁾ ἐπ'ἴσης | scripsi : Α ἐπίσης

⁽¹⁰⁷⁾ μηδὲ] scripsi; Α μήδε

⁽¹⁰⁸⁾ ὄσπερ] scripsi; **A** ὅσπερ

⁽¹⁰⁹⁾ χεῖράς τε] scripsi; Α χεῖρας τὲ

L マカリオスの死

1 この者が他の人々と同等の愛好者でなかった以上,神は同様にこの者に多くの人の死 [「十人並みの死」?] をもたらしはしない. 2 ともあれ,彼のところに,しばしばマカリオスを導く者だったと本書が述べたところの,かのケルビムを長とする,非物質的存在の大軍団が天から訪れたという.

3 そのケルビムはマカリオスに近寄って言う、「起きよ、主の愛好者、肉の重荷を脱ぎ捨てて、永遠の幕屋へ行こう。さあ、いざ休息へ、そしてとこしえの歓楽へ。4 目を上げて、非身体的な存在のどれほどの群れが、随行のために送られてきたかを見よ。5 あなたのいとも愛すべき魂を私に渡しなさい。あなたの魂は、それが [あなたの] 体とともにある間、それを取り扱うことを私は委ねられ、それを守ることを神から委ねられた、そのようなものなのだ。6 今や私は、肉の縄目から解かれたこの魂を、偉大なもの、非常に尊い財産として歓迎しよう、そして誇りとともに敵の部隊を踏み越えていこう。この魂を非常な栄光へと引き上げていって、天的な者たちとともに喜ぶ中、この魂を万物の主なる神に差し出すだろう!

7 居合わせている者たちの群れは、このような話を聞くに値する者とされた者たちから既に手ほどきを受けていたので、ケルビムはこのように[言った]. 聖なるマカリオスは、抑えがたい愛によって自分の願うものへと引かれ、出離をこの上なく待ち焦がれた. 8 そして、高貴な者は、不快に捕えられることも落胆にひしがれることも少しもなく、我々のために進んで死を受け入れたかのお方に倣い、すべての人々のために嘆願の祈りをなし、両手と心とを天へと高め、最後の声を発した、「キリストよ、私の魂を御手にゆだねます」[ルカ23・46]. こう言ってすぐに、彼は天的な者たちとともに天の[途次]を行くべく上っていく.

9 κάντεῦθεν δὴ ἡ μὲν ψυχὴ τῆς πρὸς τὰ ἄνω εἴχετο πορείας, πρὸς τὰς οὐρανίους ἀνιοῦσα σκηνάς τὸ δὲ τίμιον αὐτοῦ σῶμα χερσὶν ἱερέων ἔργον ἦν ὕμνοις τε καὶ ϣδαῖς τῆ γῆ πεμπόμενον. [Β f.219^{va}] 10 ἀλλ' ὅσα μὲν τῶν μαθητῶν ὁ χορός, ὅσα δὲ τῶν μοναστῶν τὰ πλήθη ἀμφεπονοῦντο περὶ τὴν ταφὴν οὐκ ἔστιν εἰπεῖν καὶ τούτων ἀριστεὺς ἐδόκει εἶναι ὅστις ἐκείνου προσάπτεσθαι τῆς σοροῦ ἐδύνατο ἀξιόχρεως, καὶ οὖτοι μὲν οὕτω περὶ τὸ σῶμα ἀφωσιώσαντο τὴν τιμήν. 11 πλείονα (110) δὲ καὶ περὶ τὴν ψυχὴν ταύτην ἀναφερομένην οἱ ἄγιοι ἄγγελοι ἐπεδείξαντο ἄμιλλα γὰρ ἐκείνοις ἦν ἡ τῶν ἐνθένδεν ἀνάληψις.

LI マカリオスの魂、空中の悪霊に勝利する

1 'Αλλ' ώς ἤδη τοῖς αὐτοῦ ἀνασχομένοις ὁ λόγος ὑπέσχετο δηλώσων $^{(111)}$ ἔρχεται.

2 ἄρτι τῆς ἱερᾶς ἐκείνης νυκτὸς τοῦ καιροῦ⁽¹¹²⁾ ἐπιστάντος ἐν ὧ τῶν τῆδε ἀπῆρεν ἡ τοῦ Μακαρίου ψυχή, φησὶν ὁ τῆς ἐρήμου ἐκείνης καθηγητὴς Παφνούτιος ὁ μέγας (εἶς γὰρ ἦν τῶν τοῦ Μακαρίου μαθητῶν ὑπ' ἐκείνου μετ' ἐκείνον τὴν τῶν ἄλλων ἐπιστασίαν ἐγχειρισθείς) 3 ὅτι

«ἦσάν τινες $^{(113)}$ τῶν τῶν θείων χαρισμάτων ἢξιωμένων, νυκτερινὰς ἄδοντες ὑμνωδίας. 4 καὶ ἱδού, ἢ τῶν κεκρυμμένων καὶ ὑπερφυῶν σου, Χριστέ, χαρισμάτων, φῶς ἀθρόον $[B f.219^{vb}]$ ἐξέλαμψε τοῖς πατράσιν ἄρρητον $^{(114)}$ οὖ τῆ φαιδρότητι τὸν αἰσθητὸν ἐδόκει κρύπτεσθαι ἥλιον. 5 ἄμα δὲ τῷ φωτὶ ἐκείνῷ καὶ ἀγγέλων πληθὺς ἑωρᾶτο, καὶ ἀσμάτων ἡδεῖα μελωδία ἐξηκούετο.

⁽¹¹⁰⁾ πλείονα] A haud legitur

⁽¹¹¹⁾ δηλώσων] scripsi; Α δηλώσον

⁽¹¹²⁾ καιροῦ] scripsi; Α κεροῦ

⁽¹¹³⁾ ἦσάν πνες] scripsi; Α ἦσαν πνὲς

⁽¹¹⁴⁾ ἄρρητον] scripsi; Α ἄρητον

9 魂は、ここから上への旅路に就き、天の幕屋へと上っていった。彼の尊い体は、務めとして祭司たちの手によって、讃歌と歌とによって大地へと送り出されつつあった。10 それにしても、一方で弟子たちのどれほどの一団が、他方で修道者たちのどれほど大勢が、墓のまわりに集まったかは、えも言われぬことである。この人々の長は、ふさわしい者として彼の棺にかかわることができた人物であるようだった。そして、この人々が[遺]体に関してふさわしく敬意を払った。11 携え上げられたこの魂に関しては聖なる天使たちがより一層のものを見せた。すなわち、[マカリオスの魂の] ここからの昇天は、天使たちにとって競争の的だったのである。

LI マカリオスの魂、空中の悪霊に勝利する

1 さて、彼を耐える者たち[?]に既に約束したように、本書は述べることにする。

2 今や、マカリオスの魂がこの世から去っていく、かの神聖なる夜の時が来て、かの砂漠の教師、偉大なるパフヌティオス(マカリオスの弟子の一人で、彼から自分の [死] 後に他の人々に対する配慮を委ねられたのである)が言う、

「3 神の賜物に値する者とされた幾人かがおり、夜の讃美を歌っていた. 4 すると見よ、キリストよ、おお汝の隠されたる驚くべき賜物よ、突然のえも言われぬ光が父たちに輝きわたり、その輝きによって感性的太陽が隠れるように思われた. 5 その光と同時に天使の群れが見え、歌の快い調べが聞こえてきた.

6 «τῶν δὲ ἀδόντων μέσον ἦν ἐκεῖνο τὸ χερουβεὶμ κομιδῆ ὑπέρλαμπρον τῷ κάλλει διαφέρον καὶ τὴν ὅντως μακαρίαν τοῦ Μακαρίου ἐν ἀγκάλαις [Α f.210°] ψυχὴν φερομένην ἔχον. 7 ἀπορήσειε δ' ἄν τις εἰ γλῶσσα ὅλως ἀνθρωπίνη εἰς θαύματος λόγον διηγεῖσθαι ἐξισχύσειεν, ὅσον περὶ ἐκείνην ἀναπεμπομένην εἰς οὐρανὸν φῶς ἐκκέχυται.

8 «ὅθεν τοὺς ἐναερίους δαίμονας πορρωτάτω διεστηκότας ἐκπληττομένους, ιδοίας δόξης, φάναι "Τετύχηκας, Μακάριε· ἰδοὺ νῦν ἐξέφυγες χεῖρας τὰς ἡμετέρας." 9 ὁ δὲ Μακάριος καὶ ἔτι τῆ μετριοπαθεία χρώμενος (οὐδενὶ γὰρ ἐκείνων ἡ περιφανὴς καταβέβληται ὑπερηφανία (115) εἰ μὴ διὰ ταπεινοφροσύνης), "Οὐ μὲν οὖν" ἔφη, "ἐξέφυγον, ἀλλ' ἔτι δέδοικα."

10 «εἶτα ἡ ἀνωτέρα φάλαγξ $^{(116)}$ προσιέναι τὸ φῶς μὴ δυναμένη τὸ αὐτὸ ἐφθέγξατο ὃ καὶ $[B\ f.220^{ra}]$ ἡ προτέρα. ὁ δὲ θεῖος Μακάριος ἀσαύτως ἀπεκρίνατο· "Οὐ μὲν οὖν ἐξέφυγον, ἀλλ' ἔτι τέθηπα".

11 «ἡνίκα δὲ καὶ τῶν οὐρανίων ἐπιβῆναι ἔμελλε πυλῶν, ὁμοίως κατὰ τὰς πρώτας ἡ ἐκεῖσε καθεστηκυῖα δύναμις τὸ "Εξέφυγες" ἔφασκε. 12 καὶ αὖθις ὁ θεῖος Μακάριος, ὢ τῆς τῶν ἀρετῶν ἀκροπόλεως, "Οὐδαμῶς," φησίν, "ἀλλ' ἔτι φυγῆς εἰμι(117) ἐπιδεής."

13 «ἐπεὶ δὲ ἔνδον τοῦτον γενέσθαι, τοὺς δὲ γοερῶς ὀλολύζοντας καὶ πρὸς αὐτὸν "'Εξέφυγες ἡμᾶς" ἐκβοῶντας, γεγωνοτέρα φωνἢ ἐγχρησάμενος ἔπληξεν αὐτοὺς "Ναί," φήσας, "τὰς μεθοδείας ὑμῶν καλῶς διέφυγον καὶ ὄντως ἀπέλαβον τὴν ἐλευθερίαν ἐν τῆ βασιλεία τοῦ κυρίου Ἰησοῦ. 14 καὶ νῦν εἰσελεύσομαι εἰς τὰς αὐλὰς τῆς ἄνω ἀνακτορίας ἀνθ' ὧν ὑπέστην παρ' ὑμῶν ἐπηρειῶν καὶ πολέμων ἀπολαύσω τῶν λαμπροτάτων καὶ αἰωνίων ἀγαθῶν. 15 ἀπέλθατε τό γε νῦν ἔχον ὑμεῖς ἑαυτοὺς ἀποκλαίετε, οἱ κατηραμένοι εἰς τὸ πῦρ τὸ

⁽¹¹⁵⁾ ὑπερηφανία] scripsi; Α ὑπεριφάνια

⁽¹¹⁶⁾ φάλαγξ| scripsi: Α φάλαξ

⁽¹¹⁷⁾ είμι] scripsi; A είμὶ

「6 歌っている者たちの中を、全くきわめて明るい、美において秀でたかのケルビムが、マカリオスの実に幸いな魂を曲げた腕に抱えていた。7 もし人間の舌が、奇跡の話のために、天に上っていくその魂の周りにどれほどの光が注がれたかをそもそも語ることができたとしても、人は啞然とするだろう。

「8 それゆえ、空中の悪霊が遠く離れて驚いて立ち、おお、何たる栄光よ、言ったという、『やったなマカリオス、見よ、今やお前は我々の手を免れた』。 9 マカリオスはなお情動の抑制を心がけていたので(というのも、その連中の顕著な傲慢は、謙遜による以外では何ものによっても覆されなかったからである)。言った、『私は逃げ切ってはおらず、まだ恐れている』。

「10 次いで、より上方にある部隊が、光に近づくことができないので、前のが言ったのと同じことを言った、聖なるマカリオスは同様に答えた、 『私は逃げ切ってはおらず、まだ驚いている』.

「11 彼が天の扉にさしかかることになった時,同様に、そこに居座っていた力が最初のに倣って『お前は逃げ切った』を言った。12 聖なるマカリオスは、おお徳のアクロポリスよ、再び言う、『断じて否、私にはまだ避け所が必要だ』。

「13 そして彼が中に入り、うめいて叫ぶ連中が彼に向かって『お前は我々から逃げ切った』と叫んだ時、彼は一層鳴り響く声を使って彼らを打擲して言った、『そうだ、私はお前たちの策略からうまく逃げおおせた、そして実に主イエスの王国において自由を受け取った。14 今や私は、上なる主権の広間——その前で、私はお前たちからの暴虐と戦いとに耐えたのだ——へと入っていき、この上なく輝かしい永遠の善を私は享受するだろう。15 今はお前たちは失せるがよい。自分を嘆くことだ、お前たちのために

αἰώνιον τὸ ἡτοιμασμένον ὑμῖν, καὶ οἶς ὑμεῖς πρόξενοι ἀπωλείας ἔσεσθε (118)." ταῦτα δὴ διαλεγομένου, [B f.220th] αἱ ἐπουρανίαι πύλαι ἀπεκλείσθησαν. 16 καὶ οὖτοι μὲν εὐθὺς ἀοράτοις ἀποκρουσθέντες μάστιξιν, ἐπὶ τῆ σφῶν δυστυχία κατησχυμμένοι ἀπηλάθησαν.

17 «ἡ δὲ ἱερὰ καὶ ἀοίδιμος τοῦ Μακαρίου ψυχὴ ταῖς θείαις δυνάμεσιν συναπελθοῦσα, χερσὶν ἀῦλοις ἐγκολπουμένη τοῦ ἀσωμάτου ἐκείνου, οἶόν τι θέαμα θρυλουμένη (119), Θεῷ παρεστᾶναι ἐπείγεται.» καὶ ταῦτα μὲν ἐκ πολλῶν ὀλίγα εἰρήσθω.

LII エピローグ

1 Οὐ πάντα δὲ ἡμῖν ἐπεξιέναι ἀναγκαῖον τὰ ἐκείνου τὰ γὰρ ἐν τῷ γεροντικῷ αὐτοῦ ἀποφθέγματα, καὶ τὰ τῆς ἐκείνου [A f.211^r] διδασκαλίας ἀπόρρητα, ἱκανὰ ἄν εἶεν εἰς ἀπόδειξιν ἐναργῆ τῆς ἐκείνου μεγαλειότητος, ἃ τοῖς βουλομένοις ἐάσαντες φιλοσοφεῖν τὴν τοῦ λόγου ἐξεκλίναμεν ἀμετρίαν. 2 ἔστι γὰρ ἱκανὸν τοῖς διεξιοῦσι τὴν ὑπερφυῆ καὶ πολυύμνητον ἐκείνου διδασκαλίαν, ἰδεῖν ὅσων ὑψηλῶν τε καὶ θείων ἐφίκετο θεωριῶν, καὶ πλείονα φωτισμὸν εὑρεῖν γῆθεν ἀνερχομένους πρὸς οὐρανὸν διὰ τῶν ἐναργῶν ἐκείνου καὶ ἱερῶν αἰνιγμάτων ἐν δὲ τῷ γεροντικῷ [B f.220^{va}] ἑκάστῳ τὸ συμφέρον εὑρίσκεται ἰατρεῖον.

3 ἀλλά μοι, ὧ θεῖον καὶ ἱερὸν ἀκροατήριον, σύγγνωθι πόθου τυραννικοῦ καὶ ἐπιτάγματος ἡττημένω τὴν ἀπρόσιτον ἐκείνου καὶ ἀνέκφραστον γράφειν πολιτείαν τολμήσαντι. 4 ὂν καὶ συγγινώσκειν αἰτεῖτε σὺν ἡμῖν τὰ ἡμέτερα, ἐκείνω γὰρ τεθάρρηκα, ὄνπερ συμπαθῆ καὶ μέτριον καὶ πάσης συγγνώμης βραβευτὴν ἡ ἀρετὴ ἀνέδειξεν· ὃς μὴ τὴν τοῦ λόγου δύναμιν, ἀλλὰ τὸν πόθον βλέπων τὸν ἡμέτερον, οὐ παρίδοι τὰς ἱκετηρίας φωνὰς ὡς μεγαλόψυχος.

⁽¹¹⁸⁾ ἔσεσθε] Α ἔσεσθαι

⁽¹¹⁹⁾ θρυλουμένη] scripsi; Α θρυλλουμένη

用意された永遠の火へと定められた連中よ [マタ25・41], そしてそのような連中の中でお前たちは滅びのパトロンとなるだろう』. 彼がこう語ると, 天の扉は閉ざされた. 16 そしてこの連中はすぐに, 見えない鞭で打たれて, 自分たちの不幸を恥じながら追い出された.

「17 マカリオスの神聖なる名高い魂は、聖なる諸力とともに去っていき、かの非身体的な存在 [ケルビム] の非物質的な手に抱かれて、言わば見ものとして騒ぎ立てられて、神の前に出るべく急ぐのだ」。 以上のわずかなことが、多くの中で語られなければならない。

LII エピローグ

1 彼に関することをすべて詳述することは、我々には必要でない。というのも、ゲロンティコンの中の彼の金言、彼の教えの秘義は、彼の偉大さを明確に証明するのに十分だろうからだ。彼のそのような言葉は、これを思索したい人々に委ねることにして、我々は本書がやたらに長くなるのを避けることとした。2 というのも、歌に歌われる高遠な彼の教えを行きめぐる者たちは、彼がどれほど高い神的な観照に到達したかを見、また[自分たち自身]彼の明らかな神聖なる秘義によって地から天に上ってさらなる証明を見いだすことが、十分にできるからだ。また、各々のゲロンティコンにおいては有益な治療法が見いだされる。

3 しかし、おお聖にして神聖なる聴衆よ、抗いがたき願望と命令とに圧倒されて、かの者の近づきがたく表現しがたき生涯を書くことをしでかした私を赦したまえ、4 彼が我々のことを赦すよう、我々とともに求めてほしい。というのは、同情あり中庸でかつあらゆる赦しの判定者である者として徳によって示されたこの方[マカリオス]に、私は信頼しているからだ、彼が、[本書の]言葉の力をではなく我々の願いを見て、寛大な者と

5 ἀλλ' ὧ τῆς μακαριότητος φερώνυμε Μακάριε, τίνας ἔδει τοὺς εὐτελεῖς σου ὑμνητὰς ἐκ τῶν πενιχρῶν ἡμῶν προσάξαι φωνὰς εἰς εὐφημίαν ἐπαξίους τῶν σῶν ἀρετῶν; πάντες γὰρ δέονται τῆς σῆς θεοπνεύστου φωνῆς καὶ ποδηγίας οἱ τῶν σῶν κατορθωμάτων ἐπαινέται.

6 άλλ' ήμας πάντως εὐμενῶς καὶ ἄνευ ἐπαίνων ἐποπτεύεις καὶ συμπαθῶς ὑπὲρ ήμῶν πρεσβεύεις, πειθύμενοι· 7 οὐδὲν τῆς σῆς προσηγορίας [B f.220^{vb}] ἄλλο τι εὑρόντες ὑψηλότερον ταύτη χρησάμενοι εἴπωμεν⁽¹²⁰⁾· «Μακάριος εἶ, Μακάριε,» ὁ μηδενὸς τῶν ἐν τοῖς θείοις εὐαγγελίοις μακαρισμῶν ἄμοιρος, ἀλλὰ τῆς δεκάδος τῶν αὐτῶν συζυγιῶν ἀξιούμενος.

8 μέμνησο οὖν καὶ ἡμῶν τῶν ἄχθει ἀμαρτιῶν βεβαρημένων καὶ πάθεσι χαλεπῶς πεπιεσμένων, καὶ σαῖς λιταῖς φάνηθι λύτρον διδοὺς τῶν πεπραγμένων καὶ ἀξίους ἡμᾶς κατατρυφῆσαι δεῖξον τῶν τοῖς ἀξίοις ἡτοιμασμένων, χάριτι καὶ φιλανθρωπία τοῦ κυρίου ἡμῶν Ἰησοῦ Χριστοῦ, ὧ ἡ δόξα καὶ τὸ κράτος εἰς τοὺς αἰῶνας τῶν αἰώνων. ἀμήν.

⁽¹²⁰⁾ εἴπωμεν] scripsi; Α εἴπομεν

して嘆願の声を見過ごしにしないように. 5 しかし,おお幸いさと同名のマカリオスよ,我々貧しい者たちの中から出てくるあなたの粗末な賛美者が,賞賛のために,あなたの徳にふさわしいどのような言葉を献げるべきだったろうか. 実際,あなたの偉業の賞賛者たちは皆,神の霊感を受けたあなたの言葉と導きとを必要としているのである.

6 しかし、あなたは我々を実に優しく、また賞賛もなしに見つめ、そして同情を以て我々のためにとりなしてくれる、[そう] 確信して、7 あなたの名よりも崇高なものを他に何ら見いださないので、これを使って我々は言おう、「あなたは幸いだ、マカリオスよ」、神の福音の中の祝福のどれ一つにも洩れておらず、同じくびきの十倍に値する者とされた者よ。

8 どうか、罪の重荷に打ちひしがれ、かつ情動によってひどく締め上げられている我々をも覚えてください、そしてあなたの祈り願いによって、[我々が] 行なったことどもの贖いを与える者であってください。そして我々を、ふさわしい者たちのために用意されたものを享受するにふさわしい者として提示してください。我らの主イエス・キリストの恵みと人間に対する愛とによって。主に栄光と力とがとこしえにあるように、アーメン。

註釈

現在筆者は、『マカリオス伝』に関してまとめた学位論文(121)の刊行を 企図しており、その中で『マカリオス伝』全般に関する詳細な註釈を載せ る予定でいるので、ここでは基本的に、ギリシア語版にかかわる問題に限 って註釈を行なうにとどめたい。

· III 3「ペナパルと呼ばれる所へ行きなさい」

この記述によると、マカリオスの生まれた場所の名はペナパルということになるが、『マカリオス伝』伝承の中で現存する限りで最も古い版であるコプト語(ボハイル方言)版では、マカリオスの生地はジジュベル(TXIXBHP)と称されている。具体的にどのような経緯を経てかは不明だが、ジジュベルという名が伝承の過程で変容・歪曲を経てペナパルとなったということは間違いない。

·IX 章 (マカリオス、ニトリアの山に行く;最初の幻)

この章でマカリオスは、後に修道者として住むべく訪れることとなる場所に予め赴いた経験があると語られており、そしてその場所はここで「ニトリアの山」τὸ ὄρος τῆς Νιτρίας と呼ばれている。しかし、マカリオスが生きた当時すなわち 4世紀において「ニトリアの山」と呼ばれた所は、歴史上のマカリオスが初めてそこで生き言わば開山者となった場所であるスケーティスとは、明らかに別の場所である(122)。この点から見て、ギリシア語版『マカリオス伝』の著者はエジプトの地理に暗いことが窺われると言えよう。

⁽¹²¹⁾ Toda Satoshi, Vie de S. Macaire l'Egyptien. Edition et traduction des textes copte et syriaque. オランダ・ライデン大学に提出され, 2006 年 3 月 22 日に最終口頭審査が行なわれた.

⁽¹²²⁾ 詳しくは H.G. Evelyn White, The Monasteries of the Wâdi 'n Natrûn, Part II: The History of the Monasteries of Nitria and of Scetis, New York: Metropolitan Museum of Art. 1932. pp. 17–34 を参照.

著者の地理的知識に関して、同じことが XX 章(アントニオスを初めて訪問)からも明らかである。すなわちその章でマカリオスは、アントニオスを「ファランの山」に訪れたとあるが、ファランがあるのはシナイ半島の中、つまりエジプトの外である。そして実際にアントニオスがいたのは、今日彼の名を冠するアントニオス修道院がある場所、すなわちエジプトのナイル東岸の砂漠地帯で、紅海沿岸から数十キロの地点(いわゆる「内の修道院」)か、或いはナイル川沿岸(いわゆる「外の」修道院:正確な場所は不明)であるかのいずれかである。

この2つの例に照らして、ギリシア語版『マカリオス伝』の著者はエジプトの人間ではなかったと断言して良いと思われる。

・XII 2「というのも当時、砂漠の住人は未だ現れていなかったからである」 XIII 5「というのも、先に述べたように、当時修道院もなければ砂漠の 市民もいなかったからである」

この二つの言葉は明らかに、『アントニオス伝』3章の「未だエジプトでは恒久的な修道院は存在せず、修道者は遠い砂漠を全く知らなかったのである。自らに気を配ろうとする者は各々、自分の村から遠くないところでひとり禁欲を実践していた」(123)という言葉を踏まえたものである(124)。

なお、XIII 5ではマカリオスに先立つ先駆者として、アントニオスの他にテーバイ人パウルスが挙げられているが、本ギリシア語版に先立つ『マカリオス伝』アラビア語版及びそれ以前の諸段階ではテーバイ人パウルスへの言及はない、この言及はギリシア語版の著者に由来すると考えられる.

⁽¹²³⁾ G. J. M. Bartelink (ed.), Athanase d'Alexandrie. Vie d'Antoine (SC, 400), Paris: Editions du Cerf, 1994, p. 136): Οὕπω γὰρ ἦν οὕτως ἐν Αἰγύπτω συνεχῆ μοναστήρια οὐδ' ἤδει μοναχός τὴν μακρὰν ἔρημον. Ἔκαστος δὲ τῶν βουλομένων ἑαυτῷ προσέχειν οὐ μακρὰν τῆς ἰδίας κώμης καταμόνας ἡσκεῖτο.

^{(124) 『}マカリオス伝』 に対する『アントニオス伝』の影響に関してはとりあえず批稿「諸考察 | 11 頁を参照.

· XIV 2

マカリオスを司祭に任じた司教としてアグリッパスなる人物の名が挙げられているが、このような人物の存在は、例えばエジプトにおける4世紀半ばごろまでの司教座の分布について詳細な研究を発表している A. Martin の研究では言及されていない⁽¹²⁵⁾. ギリシア語版のもととなったアラビア語版のそのまたもととなったシリア語版で、同じ役割を演じている司教の名がマクロビオスとなっているところからすると、アグリッパスという名はギリシア語版『マカリオス伝』の著者の創作になると考えるのが妥当だろう

同様に、XLII 7に出てくる弟子の名アブラミオスについても、シリア語版では同じ役割を演じている弟子の名はヨハネ(ユハナン)となっており、やはりギリシア語版『マカリオス伝』の著者の創作になると考えられる.・XV6「ゲロンティコン」

この言葉(直訳すると「老師のもの」つまり「老師の言葉」)はエピローグにも見られ(LII 1,2)、そこでの用法から見て、「ゲロンティコン」は編纂された文書としての「金言」(すなわち『師父たちの金言』)を指すこともあれば、その中の個々の「金言」を指すこともあるようである。いずれにせよ、ギリシア語版『マカリオス伝』においては編纂された文書としての「ゲロンティコン」の存在が前提されていることがここでは重要である(126)。

・XVI 章「マカリオスが子どもの父? 或る中傷とその結末」 XV 6 で述べられているところから明らかなように、XVI 章の話全体

⁽¹²⁵⁾ A. Martin, Athanase d'Alexandrie et l'Eglise d'Egypte au IV[®] siècle (Collection de l'Ecole française de Rome, 216), Roma: Ecole française de Rome, 1996 の人名索引による.

⁽¹²⁶⁾ なお, この点に関連する議論を拙稿 "Etat", pp. 286-288 で行なっているが、ここでは繰り返す必要はないだろう.

は、『師父たちの金言』のマカリオス1で語られている話の語り直しである。ただ、このマカリオス1という金言自体、史実性が疑わしいと考えられる(127)。

· XXII 10

この箇所には、修道者に襲いかかるさまざまな思念 (λογισμός) (128) のリストが見られるが、ここでギリシア語版『マカリオス伝』は、「不品行」「大食」「虚栄」「傲慢」「絶望」「倦怠」「冒瀆」といったものを挙げており、特に、ポントスのエウアグリオスに特徴的な「倦怠」の思念が言及されている点から見て、彼の『実践論』(CPG 2430) 第6章他に見られるリスト(「大食」「不品行」「金銭愛」「悲嘆」「怒り」「倦怠」「虚栄」「傲慢」)が、手本となっているとまで言えないとしても、参照されていると言ってよいようである。『マカリオス伝』伝承においてギリシア語版より以前の版、例えば現存する限りで最も古いコプト語(ボハイル方言)版で挙げられている思念は「不品行」「大食」「恐怖」「悲嘆」「傲慢」「虚栄」「恐れ」「苦難」「慢心」「自己正当化」「軽信」「冒瀆」「絶望」となっており、でたらめにいろいろ並べられた感がある。

· XXXVII — XLI 章「復活についての議論」及び「司教の巡察」

『マカリオス伝』伝承以外でも知られるこのエピソードについてここで 詳述する余地はなく、ここではただ二、三の点について触れるにとどめた い、まず、このエピソードが、ギリシア語版『マカリオス伝』で見られる 形では

- ・マカリオスの説明の中でラザロの復活が、復活信仰の正しさの例証として引用されていること(XXXVII 30;ヨハ11章を参照)
- ・マカリオスの祈りによって起こった死者の復活の中でも、ラザロが死者

⁽¹²⁷⁾ 拙稿「諸考察」9-10 頁を参照.

^{(128)「}思念」に関しては A. GUILLAUMONT & C. GUILLAUMONT (eds.), Evagre le Pontique. Traité bratique ou Le moine, vol. 1 (SC. 170), pp. 63-93 を参照.

の魂を運ぶ役として出てきていること(XXXIX 16-18: ルカ 16・19-31 のエピソードで、ラザロが死後の世界の描写の中で登場していることを 想起)

という, ラザロに関する聖書的イメージが二重に使われた話となっている. この描き方は『マカリオス伝』伝承のシリア語版段階において導入されている.

第2に、『マカリオス伝』のシリア語版段階(及びその前段階を成すコプト語伝承段階)では、マカリオスは異端者との議論の中で信条を司教に朗読させている(『マカリオス伝』アラビア語版段階でも同様であり、但しアラビア語版では信条の本文の引用が大幅に省略されている)が、本ギリシア語版では信条に関する部分は全く欠落している。

第3に、『マカリオス伝』のシリア語版・アラビア語版段階では、エピソードに登場する司教がイサク(イスハク)という名であることが語られているが、本ギリシア語版では司教は無名のままである。

・XXXIX 章「復活についての議論(続き):よみがえった死者、地獄を語る」この『マカリオス伝』ギリシア語版の成立年代については、幸いなことに terminus ante quem が与えられている。すなわち、既に拙稿「諸考察」16 頁でも触れたように、11 世紀末から 12 世紀初頭にかけてアンティオキアの主教その他として活動したオクセイアのヨアンネスが編纂した Ekloge Kephalaion という抜粋集の中に本ギリシア語版からの引用が見られるのである。情報提供者の Evaggeli Skaka 女史によると、引用は本 XXXIX 章からと LI 章からの 2 つで、引用範囲は引用順に LI 3(奇άντινες ...) -16 (... δυστυχία κατησχυμμένοι ἀπηλάθησαν.)、XXXIX 5 (τὸ τῆς γεέννης) -10 (... ἀπίστων ἀσεβείας ἀντεχόμενοι.) となっている。(もちろん、引用とは言っても所々言葉を変えていたり、説明が補われたり、或いは逆に省略されている部分が見られるのは当然のことである。) ともあれ、この事実に徴して、『マカリオス伝』ギリシア語版の成立年代は遅くとも 11 世紀末だろうと考えることができる。

なお、この XXXIX 章の中で、地獄の最下部にいるのはかつてキリストを信じその後背教した者たちである、とする部分は、『マカリオス伝』の 先行諸段階には見られず、ギリシア語版著者の筆に成るものと考えられる。

·XL8「他でもない砂漠という場所がマカリオスを帰還へと促し」

この表現は、『アントニオス伝』85章及び『師父たちの金言』アントニオス10という金言で語られている、砂漠から離れた修道者は陸に上がった魚のようなものだ(だから修道者は砂漠へと急ぎ戻らなければならない)、という話を踏まえていると解釈できる。この表現は本ギリシア語版以前の諸段階では見られず、ギリシア語版の著者に由来すると考えられる。

略号

- BHG=F. Halkin, *Bibliotheca hagiographica graeca*, 3. ed. (Subsidia hagiographica, 8 a), Bruxelles; Société des Bollandistes, 1957.
- CPG=M. GEERARD, Clavis Patrum Graecorum, vol.2 (Corpus Christianorum), Turnhout, 1974. 同書中に示されている通し番号 (vol.2 で使われている通し番号は 2000 番から 5197 番まで)により言及することとする.
- Lampe = G.W.H. Lampe (ed.), A Patristic Greek Lexicon, Oxford: Clarendon Press, 1961.
- LSJ = H.G. LIDDELL & R. Scott (eds.), *A Greek-English Lexicon*, revised by H.S. Jones, With a revised supplement, Oxford: Clarendon Press, 1996.
- Rahlfs = A. Rahlfs (ed.), Septuaginta, id est Vetus Testamentum graece iuxta LXX interpretes, Duo volumina in uno, Stuttgart: Deutsche Bibelgesellschaft, 1979 (初版は1935年).
- SC = Sources chrétiennes
- 拙稿 "Etat" = Toda Satoshi, "La Vie de S. Macaire l'Egyptien. Etat de la question", *Analecta Bollandiana* 118 (2000), pp. 267-290.
- 拙稿「諸考察」=戸田聡「『エジプト人マカリオス伝』をめぐる諸考察 ──歴史 と文学伝承の関係 ──」、『オリエント』48.1 (2005)、1-25 頁.